

# 広島市の生物

## 補遺版

広島市

平成18年10月

種子植物  
絶滅・絶滅



マツムシソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



ウエマツソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



ヒメフタバラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



ヒメノヤガラ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



ヨウラクラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



キンセイラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの  
・絶滅危惧



サルメンエビネ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



マツラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



トウゴクサバノオ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



クマガイソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



ムギラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



オキナグサ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧



ホンシャクナゲ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



キエビネ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・準絶滅危惧



オオヤマサギソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・準絶滅危惧



ムヨウラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



コハクウンボク  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



ジャコウソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・準絶滅危惧



マネキグサ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



キヨスミウツボ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



シロバナイナモリソウ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



キンラン  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・準絶滅危惧



ノハナショウブ  
(植物公園提供)

種子植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念



サンベサワアザミ  
(植物公園提供)

種子植物  
環境指標種



コウヤマキ  
(植物公園提供)

シダ植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧



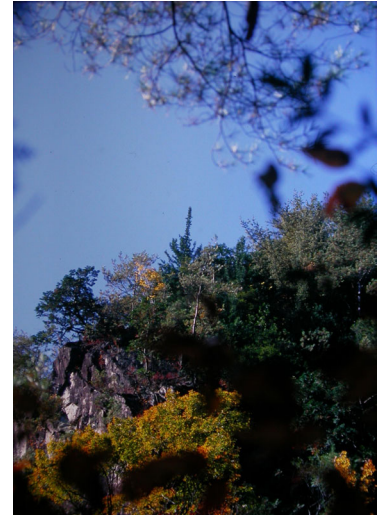
クラガリシダ

コケ植物  
広島市の絶滅のおそれのあるもの  
・絶滅危惧



ヒロハシノブイト  
ゴケ  
(関太郎撮影)

群落  
広島市の絶滅のおそれのあるもの  
・準絶滅危惧



クロソヨゴーツガ群  
集コウヤマキ亜群  
集  
(関太郎撮影)

巨樹



栗屋郷の  
トチの木  
(関太郎撮影)

巨樹



恵下谷のモミ

昆虫類  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



コオイムシ  
(昆虫館提供)

昆虫類  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



マルチビ  
ゲンゴロウ  
(昆虫館提供)

昆虫類  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・絶滅危惧



コマルケシ  
ゲンゴロウ  
(昆虫館提供)

昆虫類  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・準絶滅危惧



ナベプタムシ  
(昆虫館提供)

昆虫類  
広島市の絶滅の  
おそれのあるもの  
・軽度懸念



サワダマメ  
ゲンゴロウ  
(昆虫館提供)





## はじめに

今、数種の色素を混ぜた色素液Aがあり、同様に数種の色素からなる液Bをこれに混ぜたところ、色調が大して変化しなければ、色素液AとBはよく似た組成であるといえよう。ところが、色素液Aに色素液Cを混ぜたところ、色調が著しく変化した場合、液CはA・Bとはかなり異なる色素の組成を持っていると判断できる。これは情報理論による多様性指数を使って類似度を測定する手法である。

平成17年（2005年）4月に、広島市と合併した湯来町（以下、旧湯来町という。）の生物相は、まさに色素液Cにあたる。合併前の広島市の中・東・南・西・安佐南・安佐北・安芸・佐伯区の8区の生物相は、多少の相違はあるものの互いによく似ている。これら8区に旧湯来町分が加わることで、広島市の生物多様性は一気に高まることとなった。

これによって広島市は、政令指定都市の中でも、きわめて多様な生物相をもつ都市となった。これは広島市民の貴重な財産である。前回の「広島市の生物—まもりたい<sup>いのち</sup>生命の営み—」（2000年）の「はじめに」で、私は「その目指すところを端的に表現すれば、それは『生命の尊厳』である」と書いた。今年には原爆投下61年目を迎えるにあたり、「生命の尊厳」という言葉はますます重みを増して来た。「生命の尊厳」という立場から見れば、この地球上の生物はすべて貴重な存在であり、それにランク付けをすることは許されないはずである。しかしながら、ヒトという生物が生存を続ける上で、他の生物を犠牲にせざるを得ない。個体としての生存のための食物に始まって、集団としてヒトが社会生活を営む上で、どうしても他の生物の存在をおびやかすことになる。この場合に、生物種のランク付けを行わざるを得なくなる。

旧湯来町には、広島市のごみ最終処分場候補地となっている区域がある。これは旧湯来町において、議論が重ねられた懸案であったが、合併により広島市に引き継がれることになった。まだ、その詳細は未定であるが、建設された場合、貴重な生物の存在がおびやかされることは必定であろう。この報告書の有効な活用が望まれるところである。残念ながら、十分な予算と時間がなかったために、各専門分野の委員をそろえることができず、また現地調査が不十分なまま取りまとめなければならなかった。旧湯来町の自然環境は、まことに多様であり、まだまだどんな生物が見つかるかも知れない。広島市民のみなさんが、一人でも多く「湯来の里」に関心を持って頂き、「こんな面白いものが見つかったよ」と新しい情報を寄せて頂くことを期待したい。

平成18年（2006年）10月

広島市の生物 補遺版検討委員会  
委員長 関 太 郎



# 目次

グラビア

はじめに

## 第1章 総論

- 1 調査の目的 .....1
- 2 調査の方法 .....2
  - (1) 調査体制 .....2
  - (2) 調査対象 .....3
  - (3) 調査方法 .....4
- 3 絶滅のおそれのある種と環境指標種 .....6
  - (1) 選定基準 .....6
  - (2) 選定種 .....7

## 第2章 各論

- 1 調査地域の概要 ..... 19
- 2 湯来地区の調査結果 ..... 22
  - (1) 種子植物 ..... 23
  - (2) シダ植物 ..... 50
  - (3) コケ植物 ..... 54
  - (4) 地衣類 ..... 62
  - (5) 藻類 ..... 65
  - (6) 菌類 ..... 66
  - (7) 群落 ..... 68
  - (8) 巨樹 ..... 71
  - (9) 哺乳類 ..... 73
  - (10) 鳥類 ..... 77
  - (11) 爬虫類 ..... 82
  - (12) 両生類 ..... 83
  - (13) 淡水魚類 ..... 85
  - (14) 昆虫類・クモ類 ..... 89
  - (15) 甲殻類・貝類 ..... 91
- 3 選定種の変更 ..... 93
  - (1) 種子植物 ..... 93
  - (2) 哺乳類 ..... 96
  - (3) 鳥類 ..... 97
  - (4) 爬虫類 ..... 99

(5) 両生類 .....	102
(6) 淡水魚類 .....	103
(7) 昆虫類 .....	105
付 録	
1 選定基準 .....	109
(1) カテゴリ区分の考え方 .....	109
(2) カテゴリ .....	110
(3) 選定候補種のラベル振り分けの作業フロー .....	112
2 選定種一覧表（分類順） .....	113
3 巨樹一覧表 .....	121
索 引 .....	125

# 第 1 章 総 論



## 1 調査の目的

野生動植物は生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人間の豊かな生活に欠かすことのできないものである。

しかし、近年の開発や土地利用による生育・生息地の破壊、消失、生育・生息環境の悪化などにより、多くの種が絶滅、または絶滅のおそれが生じている。

本市の野生生物の調査は、昭和60年度(1985年度)、61年度(1986年度)の2か年にわたって実施し、63年(1988年)3月に教育委員会から「広島市の文化財第39集 広島市の動植物、広島市稀少生物調査報告」として報告されたが、その後は調査が行われていなかった。

このため、本市の動植物の分布状況を把握し、環境影響評価の審査に活用するとともに、本市の各種施策への反映を図るため、平成10年度(1998年度)、11年度(1999年度)の2か年をかけて、広島市の生物調査を実施し、その調査結果を取りまとめ、平成12年(2000年)3月に、いわゆるレッドデータブックとして「広島市の生物—まもりたい<sup>いのち</sup>生命の営み—」(以下、「広島市の生物」という)を作成した。

本調査は、平成17年(2005年)4月25日に広島市と湯来町が合併したことに伴い、旧湯来町の区域における野生生物の生育・生息状況を詳細に把握するとともに、平成12年度(2000年度)以後の新たな情報を整理することにより、「広島市の生物」を補完することを目的として実施した。

## 2 調査の方法

### (1) 調査体制

野生生物の現状の把握及び絶滅のおそれのある種の選定については、熟知した専門家の協力を得ることなしには実施できないことから、平成10年度(1998年度)、11年度(1999年度)の広島市の生物調査にあたった「広島市の生物調査団」の検討委員を中心とする検討委員会を設置し、調査及び結果の取りまとめを行った。

検討委員会の委員は、表1のとおりである。

表1 検討委員会委員

区分	氏名	担当分類群	所属
植物	世羅徹哉	種子植物	広島市植物公園
	田丸豊生	シダ植物	広島市立梅林小学校
	関 太郎*	コケ植物・地衣類・藻類・菌類・巨樹・群落	広島大学名誉教授
動物	畑瀬 淳	哺乳類	広島市安佐動物公園
	上野吉雄	鳥類	広島県立広島西養護学校
	内藤順一	爬虫類・両生類・淡水魚類・甲殻類・貝類	広島県立安古市高等学校
	坂本 充	昆虫類・クモ類	広島市森林公園昆虫館

\*委員長

(平成18年(2006年)3月現在)



作業は、「広島市の生物」作成作業とほぼ同様に、以下の作業フローに沿って進めた。

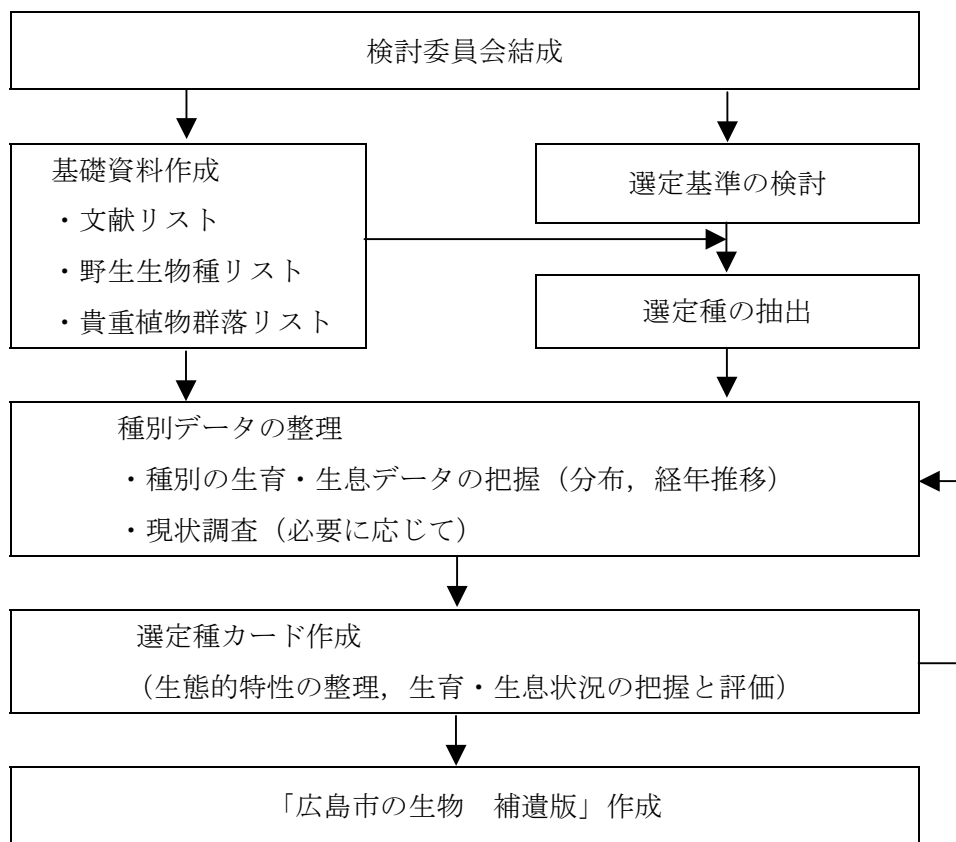


図1 作業フロー

## (2) 調査対象

調査の対象とする生物群については、検討委員会で、「広島市の生物」と同様に以下のとおりとした。ただし、多毛類はゴカイのなかまで、湯来町での生息が想定されないことから、今回は調査を行わなかった。

なお、地衣類と菌類は、便宜上植物として扱った。

### 植 物

- ・種子植物
- ・シダ植物
- ・コケ植物
- ・地衣類
- ・藻類（シャジクモ類）
- ・菌類（キノコ類）

- ・群落
- ・巨樹

## 動物

- ・哺乳類
- ・鳥類
- ・爬虫類
- ・両生類
- ・淡水魚類(円口類を含む)
- ・昆虫類
- ・クモ類
- ・甲殻類
- ・貝類
- ・多毛類

なお、分類群の名称や専門用語は、文部省学術用語集 植物学編(増補版)(1990)、動物学編(増補版)(1988)に従っている。

### (3) 調査方法

旧湯来町の区域における調査(以下、「湯来地区の調査」という)は、これまでに公表された旧湯来町の野生生物に関する文献の整理及び現地確認により行った。

種子植物の生育調査は、これまでに公表された文献だけでなく、現在公表に向けて印刷中の論文や植物研究家のフィールドノートなども含め、合計113件の文献を調査し、そのうち86件の文献を引用した。また、広島県植物誌編纂のために提供された県内の植物研究家が所有する標本情報も調べた。さらに、特に植物相が豊富であると考えられる恵下谷山国有林及び不明山<sup>あけず</sup>国有林内を中心に旧湯来町内の林道や登山道沿いに出現種を記録する現地調査を行った。

シダ植物の調査は、文献に記録のある種で旧湯来町で調査され記録されているものうち、「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」及び「広島市の生物」に記載されている種を現地調査により確認する方法で行った。

コケ植物・地衣類・藻類の調査は現地調査により、菌類の調査は専門家への聞き取りに

より行った。

群落・巨樹の調査は文献調査及び現地調査により行った。

哺乳類の生息調査は、直接観察が困難な種が多いため、痕跡による間接的な調査を中心に行った。なお、鍾乳洞内に生息するコウモリ類は姿の目視による直接観察を行った。

鳥類の生息調査はさえずりの確認や姿の目視によって行った。目視の際には8倍の双眼鏡を用いて確認した。現地調査は、山林の代表として東郷山、大峯山、天上山、佐伯区湯来町多田地区本多田を、溪谷林の代表として佐伯区湯来町麦谷地区門出口や和田地区のスギ林を、河川の代表として水内川や八幡川の上流を集中的に調査した。

爬虫類の調査は、現地を踏査することにより生息種の確認を行った。

両生類の調査は、現地調査及び過去の調査データを整理することにより行った。

淡水魚類(円口類を含む)の調査は、現地調査及び過去の調査データを整理することにより行った。

昆虫類・クモ類の調査は、現地を踏査することにより生息種の確認を行った。

甲殻類・貝類の調査は、文献調査及び現地調査により行った。

### 3 絶滅のおそれのある種と環境指標種

#### (1) 選定基準

広島市の絶滅のおそれのある野生生物等のカテゴリの定義は、「広島市の生物」と同様に、表2に示すとおりとした。（詳細については、付録「選定基準」参照）

調査の結果から、新たに「広島市の絶滅のおそれのあるもの」として取り上げることが適当であると判断された種は、適切なカテゴリを当てはめた。また、すでに「広島市の絶滅のおそれのあるもの」として取り上げられている種のうち、旧湯来町での生息状況及び他地域内の新知見から、カテゴリを変更することが適当であると判断された種は、カテゴリを変更した。

環境省レッドデータブック(環境省RDB)、水産庁レッドデータブック(水産庁RDB)としては、以下の文献を用いた。

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 1 哺乳類」、自然環境研究センター，2002

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 鳥類」、自然環境研究センター，2002

環境庁編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 爬虫類・両生類」、自然環境研究センター，2000

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 4 汽水・淡水魚類」、自然環境研究センター，2003

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 5 昆虫類」、自然環境研究センター，2006

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類」、自然環境研究センター，2005

環境省編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 7 クモ形類・甲殻類等」、自然環境研究センター，2006

環境庁編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 8 植物Ⅰ」、自然環境研究センター，2000

環境庁編、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物Ⅱ」、自然環境研究センター，2000

水産庁編、「日本の希少な野生水生生物に関するデータブック」、日本水産資源保護協会，1998

また、広島県レッドデータブック(広島県RDB)としては、以下の文献を用いた。

広島県版レッドデータブック見直し検討会編、「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」、広島県，2004

表2 カテゴリの定義

区分	基本概念	要件	備考
絶滅	絶滅	市域では、絶滅した可能性が高い。	市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。
	野生絶滅		市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。 公的な機関の管理下で、栽培・飼育されている。
広島市の絶滅のおそれのあるもの	絶滅危惧 絶滅の危険性の高いもの	現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に市域での個体群の存続が危ぶまれる。	確実な情報により、つぎに該当するもの。 大部分の生育・生息地で、 ①個体数の大幅な減少、 ②生育・生息条件の明らかな悪化、 ③再生産を上回る捕獲・採取圧のいずれかが認められる。
	準絶滅危惧 存続基盤が脆弱なもの	現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化により上位ランクに移行する可能性が高い。	生育・生息状況の推移からみて、個体数の減少や生育・生息条件の悪化などの傾向が著しく、今後さらに進行するおそれがある。 または、環境条件の変化により、容易に危険度が増大する属性（希少性、特異性、孤立性など）を有する。
	軽度懸念	市域では、存続基盤が比較的安定している。	環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種であるが、市域では確実な情報により「絶滅危惧」「準絶滅危惧」にランクされないと判定できる。
	情報不足	希少な種であるが、市域での現状が不明である。	環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種であるが、ランクを判定する情報が得られていない。
環境指標種	重要な自然環境を積極的に保全する。	種（個体群）そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然などの観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうる。	地域計画などに応用していくことを目的とする。

## (2) 選定種

### ① 湯来地区調査の結果により追加、カテゴリを変更した選定種

湯来地区調査の結果により、「広島市の生物」に掲載されている選定種に追加した種は表3のとおり、種子植物がマツムシソウ、ウエマツソウ、ヒメフタバランなど24種、シダ類がスギランなど4種、コケ植物がクロゴケなど6種、地衣類が1種、群落がクロモジープナ群集など2群落、昆虫類が2種である。

表3 湯来地区調査の結果により追加された選定種

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				環境指標種	法等指定状況		確認方法	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足		環境省RDB	広島県RDB	現地調査	文献調査
種子植物	マツムシソウ											
	ウエマツソウ							VU	CR+EN			
	ヒメフタバラン								VU			
	ヒメノヤガラ											
	ヨウラクラン								VU			
	キンセイラン							EN	CR+EN			
	サルメンエビネ							EN	CR+EN			
	マツラン								VU			
	トウゴクサバノオ								VU			
	オオヤマサギソウ								NT			
	ムヨウラン								NT			
	マルミノヤマゴボウ								NT			
	テツカエデ								NT			
	コハクウンボク								NT			
	ジャコウソウ								NT			
	マネキグサ							VU	NT			
	キヨスミウツボ								NT			
	シロバナイナモリソウ											
	カワラハハコ								VU			
	サンベサワアザミ								NT			
エンレイソウ												
タカネマンネングサ												
コミネカエデ												
オウギカズラ												
シダ植物	スギラン							EN	CR+EN			
	クラガリシダ							EN	CR+EN			
	フジシダ								VU			
	イワオモダカ								VU			
コケ植物	クロゴケ								CR+EN	CR+EN		
	ヒロハシノブイトゴケ								CR+EN	CR+EN		
	コウヤトゲハイゴケ								VU			
	ホソベリミスゴケ							DD	VU			
	カミムラヤステゴケ								CR+EN			
クマノチョウジゴケ								CR+EN				
地衣類	イワタケ								VU			
群落	クロモジ - ブナ群集											
	クロソヨゴ - ツガ群集											
	ウヤマキ亜群集											
昆虫類	ナベブタムシ											
	サワダマメゲンゴロウ											

(注)環境省RDB, 広島県RDB: EXは絶滅, CR+ENは絶滅危惧 類, CRは絶滅危惧 A類, ENは絶滅危惧 B類, VU は絶滅危惧 類, NTは準絶滅危惧, DDは情報不足

また、「広島市の生物」に掲載されている選定種のカテゴリを変更した種は表4のとおり、種子植物がクマガイソウ、ムギラン、オキナグサ、ホンシャクナゲなど10種、地衣類が3種、菌類が1種、群落が1群落、鳥類が2種、両生類が1種である。

表4 湯来地区調査の結果によりカテゴリを変更した選定種

分類群	和名	変更後						変更前						法等指定状況		変更理由	
		絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの		情報不足	環境指標種	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの		情報不足	環境指標種	自然誌構成種	環境省RDB		広島県RDB
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧			軽度懸念	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧						
種子植物	クマガイソウ			○											VU	CR+EN	解明度が向上したため
	ムギラン			○											VU	VU	解明度が向上したため
	オキナグサ			○											VU	VU	解明度が向上したため
	ホンシヤクナゲ			○												VU	減少が著しいため
	ノハナショウブ				○									△			自生地が少ないため
	キンラン				○									△	VU	NT	解明度が向上したため
	ヤマヒョウタンボク				○											VU	生育基盤が脆弱であるため
	コウヤマキ													△			解明度が向上したため
	ブナ														△		指標となる環境の重要性が高まったため
	イヌブナ														△		指標となる環境の重要性が高まったため
地衣類	アンチゴケ															VU	旧湯来町での生育状況が不明であるため
	チヂレトコブシゴケ																旧湯来町での生育状況が不明であるため
	ヘラガタカブトゴケ																旧湯来町での生育状況が不明であるため
菌類	ウスキブナノミタケ																旧湯来町での生育状況が不明であるため
鳥類	シキミーモミ群集					○											面積も広く、保護されている林分があるため
	アオバズク														△		繁殖個体が減少傾向にあるため
	フクロウ													△			繁殖個体が減少傾向にあるため
両生類	トノサマガエル														△	NT	個体数が減少しているため

(注) 環境省RDB, 広島県RDB: EXは絶滅, CR+ENは絶滅危惧 I 類, CRは絶滅危惧 I A類, ENは絶滅危惧 I B類, VU は絶滅危惧 II 類, NTは準絶滅危惧, DDは情報不足

② 湯来地区調査以外の市域における情報により追加, カテゴリを変更した選定種

「広島市の生物」作成後の旧湯来町以外の市域における情報により, 特に, 「広島市の生物」に掲載されている選定種に追加したほうがよいと判断された種は表5のとおり, 種子植物がジンバイソウ, ケナシベニバナヤマシクヤクの2種, 昆虫類がマルチビゲンゴロウ, コマルケシゲンゴロウの2種である。

表5 湯来地区以外の情報により追加された選定種

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				環境指標種	法等指定状況		確認方法	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足		環境省RDB	広島県RDB	現地調査	文献調査
種子植物	ジンバイソウ				○							○
	ケナシベニバナヤマシヤクヤク							○				○
昆虫類	マルチビゲンゴロウ			○							○	
	コマルケシゲンゴロウ			○						NT	○	

(注)環境省RDB, 広島県RDB: EXは絶滅, CR+ENは絶滅危惧 I 類, CRは絶滅危惧 I A類, ENは絶滅危惧 I B類, VU は絶滅危惧 II 類, NTは準絶滅危惧, DDは情報不足

また、特に、「広島市の生物」に掲載されている選定種のカテゴリを変更したほうがよいと判断された選定種は表6のとおり、種子植物がキエビネの1種、鳥類がサシバの1種、爬虫類が3種、両生類がイモリの1種、魚類がゴクラクハゼの1種、昆虫類がコオイムシの1種である。

表6 湯来地区調査以外の情報によりカテゴリを変更した選定種

分類群	和名	変更後						変更前						法等指定状況		変更理由					
		絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				環境指標種	自然誌構成種		環境省RDB	広島県RDB			
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念						情報不足		
種子植物	キエビネ			○												△		EN	CR+EN	解明度が向上したため	
鳥類	サシバ						○									△			DD	繁殖個体が減少傾向にあるため	
爬虫類	イシガメ				○											△			NT	個体数が減少しているため	
	トカゲ				○											△			NT	急激に個体数が減少しているため	
	スッポン						○									△	DD	DD	減少しているが、状況が不明であるため		
両生類	イモリ						○									△			NT	個体数が減少しているため	
魚類	ゴクラクハゼ			○															CR+EN	再確認されたため	
昆虫類	コオイムシ			○															NT	NT	再確認されたため

(注)環境省RDB, 広島県RDB: EXは絶滅, CR+ENは絶滅危惧 I 類, CRは絶滅危惧 I A類, ENは絶滅危惧 I B類, VU は絶滅危惧 II 類, NTは準絶滅危惧, DDは情報不足

### ③ 選定種

今回の湯来地区調査の結果、「広島市の生物」作成後の旧湯来町以外の市域における情報に基づく広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定種の数には表7のとおりである。



種子植物は78種から107種に、シダ植物は16種から20種に、コケ植物は19種から25種に、地衣類は9種から10種に、群落は15群落から17群落に、爬虫類は2種から5種に、両生類は4種から6種に、昆虫類が52種から56種に増加した。藻類、菌類、哺乳類、鳥類、淡水魚類(円口類を含む)、クモ類、甲殻類、貝類については、選定種数に変更はなかった。

この結果、広島市の絶滅のおそれのある野生生物等として、群落を含めて植物が206種、動物が131種の計337種が選定された。

分類群ごとの種別、カテゴリ別の選定状況は、表8(12～18ページ)のとおりである。

表7 各分類群の「絶滅」、「絶滅のおそれのあるもの」及び「環境指標種」の選定種数

分類群名	絶滅	広島市の絶滅のおそれのあるもの				環境指標種	計	
		絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足			
植物	種子植物	8 (7)	28 (15)	36 (23)	11 (11)	9 (14)	15 (8)	107 (78)
	シダ植物	3 (3)	7 (6)	6 (5)		3 (1)	1 (1)	20 (16)
	コケ植物	1 (1)	8 (5)	4 (3)	1 (1)	9 (7)	2 (2)	25 (19)
	地衣類		6 (9)	1 (0)		3 (0)		10 (9)
	藻類				1 (1)	3 (3)		4 (4)
	菌類		6 (6)	15 (16)		2 (1)		23 (23)
	群落	1 (1)	5 (4)	8 (8)	3 (2)			17 (15)
小計	13 (12)	60 (45)	70 (55)	16 (15)	29 (26)	18 (11)	206 (164)	
動物	哺乳類					10 (10)	1 (1)	11 (11)
	鳥類		2 (2)		3 (3)	17 (14)	3 (6)	25 (25)
	爬虫類			2 (0)	1 (1)	2 (1)		5 (2)
	両生類			2 (2)			4 (2)	6 (4)
	淡水魚類	0 (1)	8 (7)	6 (6)	2 (2)			16 (16)
	昆虫類	6 (7)	8 (5)	11 (10)	6 (5)	2 (2)	23 (23)	56 (52)
	クモ類				2 (2)			2 (2)
	甲殻類		1 (1)	3 (3)	1 (1)			5 (5)
貝類		1 (1)	4 (4)				5 (5)	
小計	6 (8)	20 (16)	28 (25)	15 (14)	31 (27)	31 (32)	131 (122)	
合計	19 (20)	80 (61)	98 (80)	31 (29)	60 (53)	49 (43)	337 (286)	

- (注) 1 ( )内の数字は、「広島市の生物」(2000年3月)に掲載の選定種数を示している。  
 2 野生絶滅、多毛種は選定種がないので示していない。  
 3 巨樹は個体の指定がないので示していない。

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その1

分類群	和名	絶滅						法等指定状況						備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB
種	カワツルモ	○									EN		CR+EN		
	イトクズモ	○									VU		CR+EN		
	ナヨテンマ	○									CR		EX		
	ハナナズナ	○									CR		EX		
	タコノアシ	○									VU		CR+EN		
	カンコノキ	○													
	アキノクサタチバナ	○									CR		EX		
	マツムシソウ	○												追加	
	ホンゴウソウ			○							EN		CR+EN		
	ウエマツソウ			○							VU		CR+EN	追加	
	オモゴウテンナンショウ			○							CR		VU		
	ホソバナコバイモ			○							VU		VU		
	ヒナノシャクジョウ			○									CR+EN		
	クマガイソウ			○							VU		CR+EN	情報不足より変更	
	サギソウ			○							VU		VU		
	ウチョウラン			○							VU		VU		
	ヒナラン			○							EN		CR+EN		
	トキソウ			○							VU		VU		
	タシロラン			○							NT		CR+EN		
	ヒメフタバラン			○									VU	追加	
	ヒメノヤガラ			○										追加	
	ヨウラクラン			○									VU	追加	
	キンセイラン			○							EN		CR+EN	追加	
	キエビネ			○							EN		CR+EN	情報不足より変更	
	サルメンエビネ			○							EN		CR+EN	追加	
	ムギラン			○							VU		VU	情報不足より変更	
	マツラン			○									VU	追加	
	ツチトリモチ			○									VU		
	植	カザグルマ			○							VU		VU	
		オキナグサ			○							VU		VU	情報不足より変更
		トウゴクサバノオ			○									VU	追加
		ヤマシャクヤク			○							VU		NT	
ホンシャクナゲ				○									VU	準絶滅危惧より変更	
ツルマンリョウ(ツルアカミノキ)				○						指定			CR+EN		
フジバカマ				○							VU		CR+EN		
ウラギク(ハマシオン)				○							VU		VU		
コウキヤガラ					○										
アンペライ(ネビキグサ)					○										
物	キバナノアマナ				○										
	カタクリ				○										
	ノハナショウブ				○									自然誌構成種より変更	
	ミズトンボ				○						VU		VU		
	ジンバイソウ				○									追加	
	オオヤマサギソウ				○								NT	追加	
	ムヨウラン				○								NT	追加	
	キンラン				○						VU		NT	情報不足より変更	
	エビネ				○						VU		VU		
	ナツエビネ				○						VU		VU		
	セッコク				○										
	マメツタラン				○						VU		NT		

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その2

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				法等指定状況						備考		
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB	
種	クモラン				○									NT		
	キミズ				○											
	マルミノヤマゴボウ				○									NT	追加	
	アズマイチゲ				○									VU		
	ユキワリイチゲ				○											
	ツメレンゲ				○							NT		NT		
	ユキヤナギ				○									NT		
	イワガサ				○											
	ツゲ				○											
	テツカエデ				○									NT	追加	
	ナツアサドリ				○											
	ゲンカイツツジ				○							VU		NT		
	シロバイ				○									NT		
	コハクウンボク				○									NT	追加	
	ジャコウソウ				○									NT	追加	
	マネキグサ				○							VU		NT	追加	
	キヨスミウツボ				○									NT	追加	
	ムラサキミミカキグサ				○							VU		VU		
	シロバナイナモリソウ				○										追加	
	ウスバヒヨウタンボク				○							VU		VU		
	ヤマヒヨウタンボク				○									VU	軽度懸念より変更	
	カワラハハコ				○									VU	追加	
	子	ツルマオ					○								NT	
		オガタモノキ					○								NT	
		ナガミノツルキケマン					○					NT				
アテツマンサク						○					NT					
シイモチ						○								NT		
ハマサジ						○						VU		NT		
ミゾコウジュ						○						NT		NT		
イヌノフグリ						○						VU				
スズムシバナ						○										
キキョウ						○						VU		NT		
サンベサワアザミ						○								NT	追加	
ミクリ							○					NT		NT		
ヌカボタデ							○					VU				
ヒロハマツナ							○					VU		VU		
ケナシベニバナヤマシャクヤク							○								追加	
コイヌガラシ							○					NT				
イヌハギ							○					VU		NT		
ウドカズラ							○							DD		
ミズマツバ							○					VU		NT		
カワヂシャ							○									
コウヤマキ															情報不足より変更	
ヌマガヤ																
エンレイソウ															追加	
ブナ															自然誌構成種より変更	
イヌブナ															自然誌構成種より変更	
タカネマンネングサ														追加		
トベラ																
マルバシヤリンバイ																

(注) 文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その3

分類群	和名	絶滅					環境指標種	法等指定状況					備考		
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念		情報不足	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB	広島県RDB
種子植物	コミネカエデ													追加	
	セトウチウンゼンツツジ (シロバナウンゼンツツジ)														
	キシツツジ											NT			
	ハマゴウ														
	オウギカズラ													追加	
	アオヤギバナ														
	フクド(ハマヨモギ)												NT		
	ミズワラビ												VU		
	デンジソウ										VU		CR+EN		
	サンショウモ										VU		CR+EN		
シダ植物	スギラン									EN		CR+EN	追加		
	ミズニラ								指定	VU		CR+EN			
	ハマハナヤスリ														
	ホソバショリマ											NT			
	ハイケイヌワラビ									EN		CR+EN			
	アキイヌワラビ											NT			
	イワヒトデ											VU			
	ハコネシダ														
	ナガサキシダ												NT		
	ツクシイワヘゴ														
	オニヒカゲワラビ														
	オクタマシダ														
	クラガリシダ										EN		CR+EN	追加	
	フジシダ												VU	追加	
	イワオモダカ												VU	追加	
	アカウキクサ										VU		NT		
	シノブ														
コケ植物	カワゴケ										CR+EN		DD		
	カビゴケ										CR+EN		CR+EN		
	クロゴケ												CR+EN	追加	
	クマノゴケ										CR+EN		VU		
	ユウレイホウオウゴケ														
	フロウソウ														
	ソリシダレゴケ														
	ヒロハシノブイトゴケ										CR+EN		CR+EN	追加	
	コウヤトゲハイゴケ												VU	追加	
	サワクサリゴケ														
	ホソベリミズゴケ										DD		VU	追加	
	エビゴケ														
	ツクシヒラツボゴケ														
	キノクニキヌタゴケ														
	カミムラヤスデゴケ												CR+EN	追加	
	ウロコゼニゴケ														
	ウキゴケ											CR+EN		NT	
イチヨウウキゴケ											CR+EN		CR+EN		
キセルゴケ													CR+EN		
クマノチョウジゴケ													CR+EN	追加	
ホウライスギゴケ															
ナワゴケ															
カトウゴケ											CR+EN		CR+EN		

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧 類，CRは絶滅危惧 A類，ENは絶滅危惧 B類，  
VU は絶滅危惧 類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その4

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				法等指定状況					備考			
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB	広島県RDB	
コケ植物	オオミズゴケ							○				CR+EN		NT		
	キヨスミトゴケ							○								
地衣類	トゲトコブシゴケ			○												
	オオスルメゴケ			○										VU		
	チヂレコヨロイゴケ			○										VU		
	エビラゴケ			○										VU		
	ウラグロエビラゴケ			○										VU		
	トゲヨロイゴケ			○												
	イワタケ				○									VU	追加	
	アンチゴケ							○						VU	絶滅危惧より変更	
チヂレトコブシゴケ							○								絶滅危惧より変更	
ヘラガタカブトゴケ							○								絶滅危惧より変更	
藻類	シャジクモ							○				CR+EN				
	オオシャジクモ							○				CR+EN		DD		
	ヒメフラスコモ							○				CR+EN				
	キノフラスコモ							○				CR+EN		DD		
菌類	ホシミノヌメリガサ (仮称)			○												
	キヒダイッボンシメジ			○										VU		
	アキノアシナガイグチ			○										VU		
	タマノリイグチ			○										VU		
	キノガサタケ			○												
	ウスキキノガサタケ			○								VU		VU		
	ドングリキンカクキン				○									NT		
	トガリツキミタケ				○									NT		
	アケボノタケ				○									NT		
	ナナイロヌメリタケ				○									NT		
	カバイロコナテングタケ				○									NT		
	ソライロタケ				○									NT		
	オオヤシャイグチ				○									NT		
	アヤメイグチ				○									NT		
	アシナガイグチ				○									NT		
	ヒメウグイスイグチ				○									NT		
	ウツロイイグチ				○									NT		
	コウタケ				○											
	ツチグリカタワタケ				○							VU				
	コウボウフデ				○									NT		
オニフスベ				○									NT			
ツキヨタケ							○				VU					
ウスキブナノミタケ							○								準絶滅危惧より変更	
群落	ムクノキーエノキ群集	○														特定植物群落
	シイモチーシリブカガシ群集			○												特定植物群落
	ハマサジ群集			○												
	フクド群集			○												
	クロモジープナ群集			○												追加, 特定植物群落
	イヌブナ群落			○												
	イノデアブノキ群集				○											特定植物群落
	カナメモチーコジイ群集				○											特定植物群落
	ナナメノキーアラカシ群集				○											特定植物群落
	ツクバネガシーシラカシ群集				○											特定植物群落
アブラチャンーホソバタブ群集				○											特定植物群落	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その5

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				法等指定状況						備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB
群落	マアザミ-ヌマガヤ群集				○										
	イトイヌノハナヒゲ群集				○										
	クロソヨゴーツガ群集				○										追加, 特定植物群落
	ヤマキ亜群集														
	シキミーモミ群集					○									準絶滅危惧より変更
	シノブ-アカマツ群集					○									
	クロソヨゴーツガ群集					○									特定植物群落
哺乳類	カワネズミ						○							VU	
	コキクガシラコウモリ						○								
	ユビナガコウモリ						○							NT	
	テングコウモリ						○				VU			VU	
	コテングコウモリ						○				VU			VU	
	オヒキコウモリ						○				DD			CR+EN	
	ニホンモモンガ						○							NT	
	ヤマネ						○	○			NT			NT	
	ツキノワグマ						○		国際	指定				CR+EN	
	ニホンイタチ						○							NT	
ムササビ							○								
鳥類	ブッポウソウ			○									VU	CR+EN	
	ヤイロチョウ			○					国内		EN			CR+EN	
	ミサゴ					○					NT			NT	
	オシドリ					○								NT	
	ダイシャクシギ					○								NT	
	チュウサギ						○				NT			NT	
	ミゾゴイ						○				NT			DD	
	ハチクマ						○				NT			NT	
	ハイタカ						○				NT			NT	
	オオタカ						○		国内		VU			VU	
	サシバ						○							DD	環境指標種より変更
	クマタカ						○		国内		EN			CR+EN	
	ハヤブサ						○		国内		VU			VU	
	ヤマドリ						○							NT	
	コアジサシ						○		国際		VU			CR+EN	
	アオバズク						○								環境指標種より変更
	フクロウ						○								環境指標種より変更
	コミミズク						○							NT	
	ヨタカ						○							NT	
	アカショウビン						○								
	オオアカゲラ						○							NT	
	サンコウチョウ						○							NT	
ダイゼン							○						NT		
ハマシギ							○						NT		
オオヨシキリ							○								
爬虫類	イシガメ				○									NT	自然誌構成種より変更
	トカゲ				○									NT	自然誌構成種より変更
	タワヤモリ					○								VU	
	スッポン						○				DD		DD	DD	自然誌構成種より変更
タカチホヘビ						○							NT		
両生類	ニホンヒキガエル				○									VU	
	オオサンショウウオ				○			○	国際		NT			VU	
	ニホンアカガエル						○							NT	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その6

分類群	和名	絶滅					環境指標種	法等指定状況					備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念		情報不足	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB
両生類	トノサマガエル						○						NT	自然誌構成種より変更
	ヌマガエル						○							
	イモリ						○						NT	自然誌構成種より変更
淡水魚類	シラウオ			○										
	ヤリタナゴ			○										
	インドジョウ			○							EN	V	VU	
	アカザ			○							VU		CR+EN	水産庁：九州の個体群が危急種
	ゴクラクハゼ			○									CR+EN	絶滅より変更
	スミウキゴリ			○										
	カジカ(ウツセミカジカを含む)			○									CR+EN	
	ワカサギ				○									
	サツキマス				○							E	CR+EN	(自然個体群)
	アブラボテ				○								NT	
	メダカ				○						VU	E	CR+EN	
	オヤニラミ				○						NT	R	VU	
	ウキゴリ				○								NT	
	スジシマドジョウ(中型種族)					○							VU	
	ドンコ					○							NT	
	スナヤツメ			○							VU	R	CR+EN	
	昆虫類	ネアカヨシヤンマ	○											VU
タガメ		○									VU		CR+EN	
コガタノゲンゴロウ		○									CR+EN		CR+EN	
オオクワガタ		○									NT		NT	
シルビアシジミ		○									CR+EN		CR+EN	
オオウラギンヒョウモン		○									CR+EN		EX	
カワラバタ				○									VU	
コオイムシ				○							NT		NT	絶滅より変更
カワラハンミョウ				○							VU		CR+EN	
マルチビゲンゴロウ				○										追加
コマルケシゲンゴロウ				○									NT	追加
ゲンゴロウ				○							NT		NT	
シマゲンゴロウ				○										
ギフチョウ				○							VU		NT	
アオハダトンボ					○								NT	
クツワムシ					○								NT	
ヒメハルゼミ					○								NT	
ナバブタムシ					○									追加
エリザハンミョウ					○									
オオオサムシ(陸島個体群)					○									
マイマイカブリ(陸島個体群)					○									
ヒョウタンゴムムシ					○									
コルリクワガタ					○									
オオクロカミキリ				○								NT		
ヒゲナガカミキリ				○								NT		
コハンミョウ					○									
サワダマメゲンゴロウ					○								追加	
ハネナシセスジキマワリ					○									
ヤマトシロオビトラカミキリ					○									
タテジマカミキリ					○									
オオムラサキ					○					NT		NT		

(注)文化財保護法：特別天然記念物、天然記念物(国指定)、広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、国際希少野生動植物種、国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」、指定野生生物種、特定野生生物種  
環境省RDB、広島県RDB：EXは絶滅、CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類、CRは絶滅危惧ⅠA類、ENは絶滅危惧ⅠB類、  
VUは絶滅危惧Ⅱ類、NTは準絶滅危惧、DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種、Vは危急種、Rは希少種

表8 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況 その7

分類群	和名	絶滅					法等指定状況						備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB
昆虫類	マルタンヤンマ						○							
	ジュウシチホシハナムグリ						○							
	グンバイトンボ										VU		NT	
	ムカシヤンマ						○						NT	
	ハッチョウトンボ						○						VU	
	トノサマバツタ						○							
	キバナガミズギワゴミムシ						○							
	ホソクロマメゲンゴロウ						○							
	オビモンマグソコガネ						○							VU
	ヒゲコガネ						○							NT
	ホソコハナムグリ						○							NT
	クロカナブン						○							
	ヤマトタムシ						○							
	ゲンジボタル						○							
	ヘイケボタル						○							
	ウスバカミキリ						○							
	キマダラカミキリ						○							
	ミヤマカミキリ						○							
	ヨツスジトラカミキリ						○							
	セダカコブヤハズカミキリ						○							
クワカミキリ						○								
シロスジカミキリ						○								
アミメトビケラ						○								
ウスイロオナガシジミ						○								
ヒロオビミドリシジミ						○							VU	
クモ類	キシノウエトタテグモ					○					NT		NT	
	キノボリトタテグモ					○					NT		NT	
甲殻類	カブトガニ			○							CR+EN		CR+EN	
	テナガエビ				○									
	スナガニ				○								NT	
	ハクセンシオマネキ				○						NT		NT	
アカテガニ					○									
淡水産貝類	カタハガイ			○							NT	R	NT	
陸産貝類	ハンジロギセル				○						CR+EN		CR+EN	
	ホソヒメギセル				○						NT		NT	
	モリヤギセル				○									
	カワリダネビロウドマイマイ				○						NT		NT	

(注) 文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種



## 第2章 各論



## 1 調査地域の概要

旧湯来町は、東は広島市安佐北区及び安佐南区、西は廿日市市、南は広島市佐伯区、北は安芸太田町に接し、面積は162.87km<sup>2</sup>に及んでいる。山群と河川は中国山地西部に顕著な北東-南西方向の断層線に沿っており、南西から北東に向けて、大峯山(1,039.8m)、冠山(湯来冠山)(1,004.4m)、天上山(972.6m)が連なり、それに平行して、南には阿弥陀山(837.1m)と東郷山(977.4m)の山塊が位置する。

最低海拔は太田川に沿った久日市地区<sup>さかいち</sup>の110mで、最高海拔は大峯山の1,039mである。

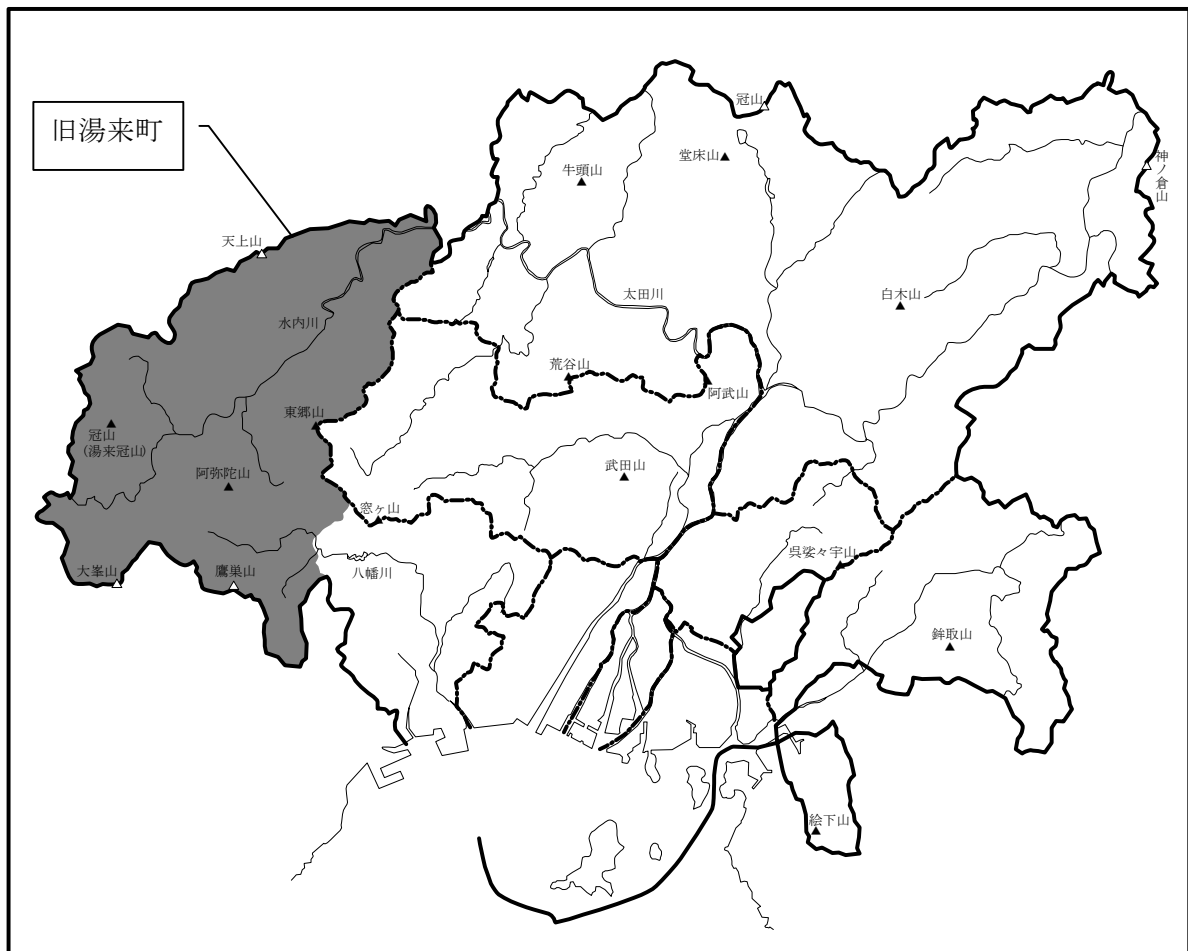


図2 旧湯来町の位置

平行する大峯山、冠山、天上山の山塊と阿弥陀山、東郷山の山塊の間を水内川<sup>みのち</sup>が流れて、太田川に合流している。水内川は廿日市市吉和の「もみの木森林公園」に源を発し、南東に流れて東山溪谷(本多田川)となる。やがて多田地区本多田で大峯山方面から流下した河川と合流して向きを北東に変えて水内川本流<sup>みのち</sup>となり、打尾谷川、石ヶ谷峡、伏谷川、恵下谷の川、天上山からの川などを加えて久日市地区<sup>さかいち</sup>で太田川に合流する。水内川は全長約28km、旧湯来町の背骨ともいうべき“大河”である。水内川では元禄3年(1690年)から川船の運行が始まり、

木材、薪、木炭などが太田川を經由して、広島城下へ運ばれた。

また、旧湯来町には、もうひとつ水系を異にする八幡川の流域がある。阿弥陀山、鷹巣山、廿日市市原との境界の山々及び東郷山南部を水源として、数本の川がゆるやかな高原状の地形を流れ、白川で八幡川としてまとまり、広島湾に注いでいる。水内川と八幡川の分水点は伏郷地区の大森神社境内であり、かつて大森神社には、その名のおりスギの大木が茂り、広島県天然記念物に指定されていた。平成3年(1991年)の台風19号によってこの社叢は壊滅的な被害を受け、天然記念物の指定を解除された。現在も、大森神社境内に小さな池があり、この池が水内川と八幡川の分水点になっている。

旧湯来町は、明治22年(1889年)に多田村と菅沢村が合併して上水内村に、和田村と麦谷村、下村が水内村に、葛原村、白砂村、伏谷村が砂谷村となった。昭和31年(1956年)にこれら3村が合併して湯来町となり、現在でも砂谷・水内・上水内の3地区に区分され、それぞれの地域に特性がある。砂谷地区は八幡川の源流域であり、水内地区は水内川の中・下流域、上水内地区は上流域である。砂谷地区は高原性の地形で比較的耕地が多く、酪農などを中心とした農業が盛んである。水内・上水内地区は森林地帯で耕地が少なく、林業を主産業とし、コンニャクなどの生産もしている。また、水内地区に湯の山温泉、上水内地区には湯来温泉があり、観光地としての特性もある。

旧湯来町の地質は水内川を境にして北西部と東南部で異なっている。北西部は花崗岩地帯で、土壌は貧養で森林の発達が悪く、湯ノ山や石ヶ谷峽などには岩峰が多くある。景観は優れているが、アカマツなどの貧弱な森林で、スギ・ヒノキ植林には不向きである。一方、東南部は芸予層と呼ばれる中生代の堆積岩類で砂岩・緑石岩・粘板岩・蛇紋岩などからなっている。芸予層は、かつて古生層とされていたが、1970年代から1980年代にかけて研究が進み、中生代三畳系〜ジュラ系の微化石が発見され、中生代起源のものとなった。水内川東南部の芸予層地域はスギ・ヒノキ植林の適地で、県内でも屈指の林業地帯となっている。花崗岩と異なり栄養分の豊富な土壌と急峻な地形があいまって、自然植生も多様性に富み、東郷山北面の恵下山(恵下谷山国有林)は植物相の豊富な地域として古くから有名である。

恵下山は藩政時代から御留山として伐採が禁じられてきた。広島大学の前身である広島高等師範学校並びに広島文理科大学では、植物学の実習コースとして、五日市から徒歩で河内峠を越えて湯の山温泉に向かい、ここで一泊し、恵下山で実習をして、水内川を船で下り、太田川を經由して広島に帰ったという(故 辰野誠次博士の話)。当時の恵下山は谷の入口からモミの巨木が林立し、樹幹にはクラガリシダがたくさん着生していたという(故 越智謚武氏の話)。牧野富太郎博士は明治44年(1911年)に広島高等師範学校の乾環教授と白神寿吉助手の案内で、このコースを踏査している。この時の牧野博士の採集品からクラガリシダが報告され、チュウゴクザサが新種として発表された。残念ながら、恵下谷山国有林は戦時中に大規模に伐採され、現在は東郷山の北斜面に「天然スギ学術参考保護林」(15.61ha)と「コウヤマキ保護林」(1.45ha)の自然林が残るのみとなってしまった。現在、恵下谷にはモミの巨樹が1本だけ林道脇に残り、わずかにクラガリシダが着生している。このモミも、ごみ最終

処分場候補地の区域に入るのはないかと危惧されている。往時の原植生を偲ぶ貴重なモミであり、保存されることが強く望まれる。

湯来温泉は、水内川の支流である打尾谷川に沿い、大同年間(806～810年)の発見といわれ、1200年近い歴史をもつ温泉である。黒雲母花崗岩の割れ目から湧出し、泉温28.1℃、pH8.6、ラドン含有量31.76マッヘで世界第4位といわれている放射能泉である。湯の山温泉は水内川に沿う湯ノ山にあり、富士山が大爆発した宝永4年(1707年)に湧出し、浅野藩によって長年保護されてきた。泉温はやや低く23.6℃、pH8.6、ラドン含有量23.15マッヘである。湯ノ山明神旧湯治場は国の重要有形民俗文化財で、昭和49年(1974年)に指定された。水内鉦山跡は和田地区恵下谷の入口付近にあり、芸予層の粘板岩を花崗岩が貫いた接触交代～高熱水作用によってできた鉦床で、黄銅鉦・黄鉄鉦・螢石などを産出したが、現在は採石場となっている。伏谷から伏谷口までの谷筋には緑色岩が川床にあり、「湯来石」として庭石などに珍重され、ほとんど取り尽されてしまった。緑色岩は中生代の海底火山の噴出による火山灰を起源としている。

旧湯来町は自然に恵まれており、広島県が指定した自然環境保全地域は「石ヶ谷峡」(昭和49年(1974年)指定)、「大峯山」(昭和51年(1976年)指定)、「湯の山」(昭和52年(1977年)指定)の3か所、緑地環境保全地域としては「東山溪谷」(昭和58年(1983年)指定)がある。そのほか、恵下谷山国有林の保護林には県内最大のスギである「四本杉」があり、自然植生として優れている。旧湯来町には国定公園や県立自然公園はないものの、広島市の旧8区には自然環境保全地域、緑地環境保全地域が、それぞれ「福王寺山」、「蓮華寺」の各1か所しかないことと比較すると、いかに旧湯来町の自然が優れているかが分かる。

## 2 湯来地区の調査結果

調査結果は分類群ごとにまとめた。はじめに各分類群の現状の解明度や選定候補種の抽出作業，調査結果，選定結果，選定種のリスト，つぎに選定種ごとの分布と選定種の解説を記述している。

選定種の分布図は，昭和48年行政管理庁告示第143号「統計に用いる標準地域メッシュ及び標準メッシュコード」の「標準メッシュ・システム」における3次メッシュが特定できる場合のみ，確認地点が含まれる3次メッシュが塗りつぶされている。

このため，詳細な確認情報であっても3次メッシュに特定できない情報の場合は表示していない。また，現存と絶滅の区別はできないため，現在はみられなくなった場合も表示している。したがって，絶滅とされた種の分布図で示している点は過去に記録された産地の情報である。

## (1) 種子植物

旧湯来町内で生育が記録されているもの及び今回の調査で新たに生育を確認した種子植物は、およそ1,300種であった。ただし、明らかに植栽された園芸用植物、あるいは国内の分布域から推して誤認の可能性が高い種または分類が難しい種でありながら標本を確認することができなかつた種があり、これらを除いて1,109種(亜種, 変種, 品種を含む)の生育を確認した。特筆すべきものとしては、コウヤマキ, トウゴクサバノオ, マネキグサ, マツムシソウ, ウエマツソウ, サルメンエビネ, キンセイランなどがある。これらのうち, 93種は旧湯来町を除く広島市では確認されていなかった種で, このたび新たに広島市のフロラに加わったものである。

次に, 旧湯来町を加えた広島市に生育する種子植物を, 選定基準に従って絶滅危惧種など(環境指標種, 自然誌構成種を含む)に選定する作業を行なった結果, 新規の24種を含む合計122種を選定した(表8の107種及び自然誌構成種15種)。この中で, コウヤマキ, ノハナショウブ, クマガイソウなど11種は, 主に市域での生育状況の解明度が変わったため, カテゴリを変更した。

前回の調査以降, 市域で新たに生育が確認された種としては, ヒメフタバランがある。本種は, 葉を2個だけつける小型の地生ランで, 中間温帯域の常緑樹林内に生え, 早春に開花する。県内西部の島と北東部の1か所で現在生育が確認されている。北西部の1か所, 旧湯来町内, 東部の島で古い記録があるが, 現状は不明である。今回新たに発見された場所は岩壁の下を流れる小溪流に沿ったところで, 生育個体数は比較的多いが地形的な生育基盤は脆弱であり, 趣味園芸などの対象となって採取される危険性も高いことから絶滅危惧種に選定した。

前回選定しなかったマルミノヤマゴボウは, もともと生育数の少ない希少種であり, 近年の自生情報が途絶えているなど絶滅の危険性が増大していると考えられることから準絶滅危惧種とした。

種子植物の現地調査には, 植物研究家の武内一恵氏, 富澤由美子氏, 三上幸三氏, 和田正寛他の方々の協力を得ました。また, 標本調査については広島県立庄原格致高校 浜田展也氏の協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

### 湯来地区の調査による選定種の追加

マツムシソウ 絶滅  
ウエマツソウ 絶滅危惧  
ヒメフタバラン 絶滅危惧  
ヒメノヤガラ 絶滅危惧  
ヨウラクラン 絶滅危惧  
キンセイラン 絶滅危惧  
サルメンエビネ 絶滅危惧

マツラン 絶滅危惧  
トウゴクサバノオ 絶滅危惧  
オオヤマサギソウ 準絶滅危惧  
ムヨウラン 準絶滅危惧  
マルミノヤマゴボウ 準絶滅危惧  
テツカエデ 準絶滅危惧  
コハクウンボク 準絶滅危惧  
ジャコウソウ 準絶滅危惧  
マネキグサ 準絶滅危惧  
キヨスミウツボ 準絶滅危惧  
シロバナイナモリソウ 準絶滅危惧  
カワラハハコ 準絶滅危惧  
サンベサワアザミ 軽度懸念  
エンレイソウ 環境指標種  
タカネマンネングサ 環境指標種  
コミネカエデ 環境指標種  
オウギカズラ 環境指標種

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

クマガイソウ 絶滅危惧←情報不足  
変更理由：解明度が向上したため  
ムギラン 絶滅危惧←情報不足  
変更理由：解明度が向上したため  
オキナグサ 絶滅危惧←情報不足  
変更理由：解明度が向上したため  
ホンシャクナゲ 絶滅危惧←準絶滅危惧  
変更理由：減少が著しいため  
ノハナショウブ 準絶滅危惧←自然誌構成種  
変更理由：自生地が少ないため  
キンラン 準絶滅危惧←情報不足  
変更理由：解明度が向上したため  
ヤマヒョウタンボク 準絶滅危惧←軽度懸念  
変更理由：生育基盤が脆弱であるため  
コウヤマキ 環境指標種←情報不足  
変更理由：解明度が向上したため  
ブナ 環境指標種←自然誌構成種



変更理由：本格的なブナ林が市域に含まれたため  
イヌブナ 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：イヌブナが構成種となる特異な環境を含むことになったため

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

ハナナズナ 絶滅  
オモゴウテンナンショウ 絶滅危惧<sup>△</sup>  
ホソバナコバイモ 絶滅危惧<sup>△</sup>  
ウチョウラン 絶滅危惧<sup>△</sup>  
ヒナラン 絶滅危惧<sup>△</sup>  
ヤマシャクヤク 絶滅危惧<sup>△</sup>  
フジバカマ 絶滅危惧<sup>△</sup>  
キバナノアマナ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
カタクリ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
エビネ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ナツエビネ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
セッコク 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
マメヅタラン 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ユキヤナギ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ツゲ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ナツアサドリ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ゲンカイツツジ 準絶滅危惧<sup>△</sup>  
ナガミノツルキケマン 軽度懸念  
アテツマンサク 軽度懸念  
キキョウ 軽度懸念  
ヌマガヤ 環境指標種  
セトウチウンゼンツツジ 環境指標種  
キシツツジ 環境指標種

## 種子植物

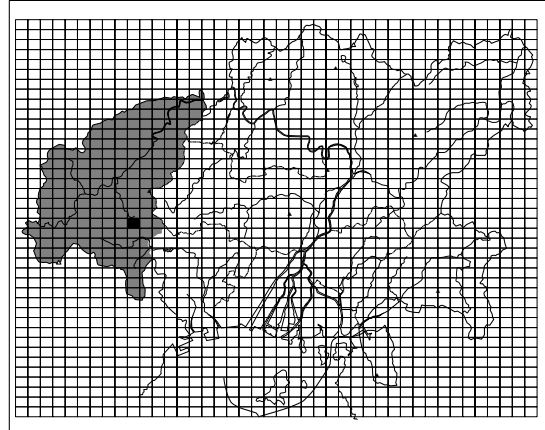
### 絶滅・絶滅

10年～20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

#### ■ マツムシソウ (マツムシソウ科)

##### *Scabiosa japonica*

山地の草原に生える越年草。高さ60～90cmの茎を出し、淡青紫色の頭花をつける。北海道、本州、四国、九州に分布。広島県内では中国山地の高所に生育する。佐伯区湯来町の伏谷地区大森、和田地区恵下などで戦前に採取されたがその後の記録が無く、絶滅したと考えられる。



## 種子植物

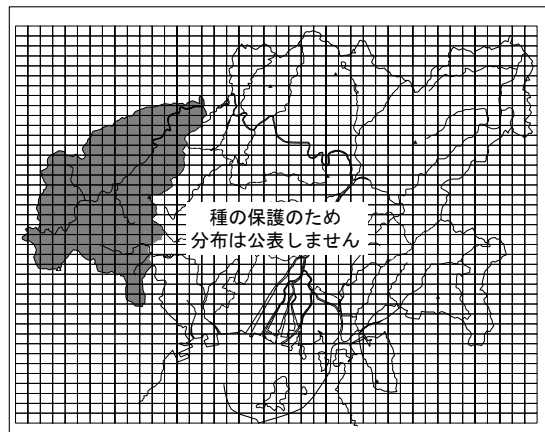
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ ウエマツソウ (ホンゴウソウ科)

##### *Sciaphila tosaensis*

高さが10cmにみえない腐生植物で、本州(中部地方以西)から沖縄、小笠原にかけて分布しているが、その生育地は全国的にごくわずかしか知られておらず、きわめて希少な植物である。1993年に広島市植物公園のスタッフによって発見された。



## 種子植物

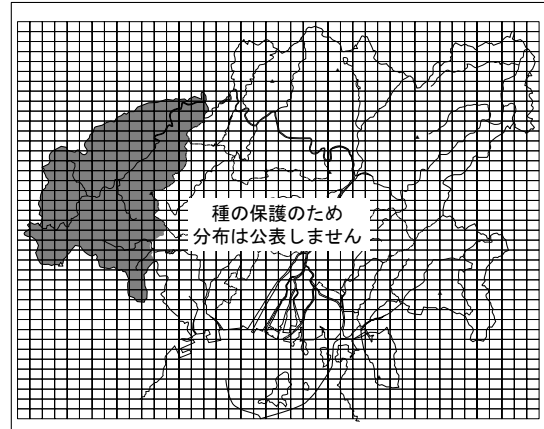
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヒメフタバラン（ラン科）

##### *Listera japonica*

本州（東北南部以南）、四国、九州、沖縄に分布し、県内では、モミ、ツガ、ウラジロガシなどからなる常緑樹林下にある。茎の高さは 5～30cm、中間に三角形の葉を2個つける。花は暗紫褐色で長い唇弁を持ち、茎の上部に数個が穂状につく。



## 種子植物

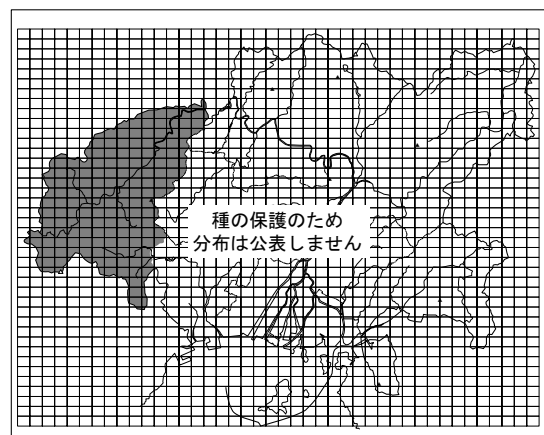
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヒメノヤガラ（ラン科）

##### *Hetaeria sikokiana*

中間温帯林下にはえる小型の多年草で、葉緑体を持たない腐生植物。本州、四国、九州に分布する。広島県内では中国山地沿いに点々と自生が確認されている。佐伯区の自生地は最も沿岸部に近い産地となる。発生数は少なく、目立たないので登山道整備などの作業には注意が必要。



## 種子植物

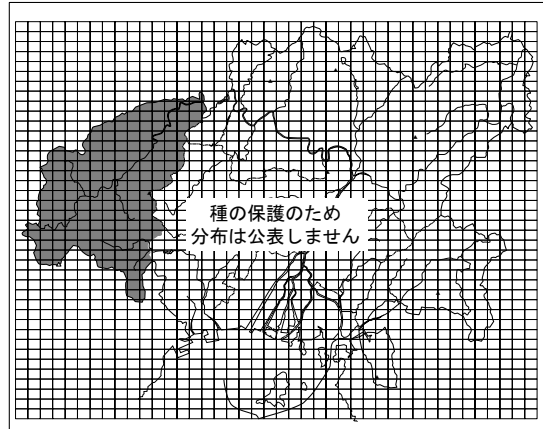
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヨウラクラン（ラン科）

##### *Oberonia japonica*

空中湿度の高い山地の樹林中で、樹上に着生または岩生する小型の常緑多年草。この属は南方系で、日本は分布の北限にあたる。県内では西部の渓谷沿いに少数の自生地が確認されている。佐伯区湯来町の大森八幡神社に自生があったが台風のため絶滅した。近隣には生育に適した環境が多くあるので再発見が望まれる。



## 種子植物

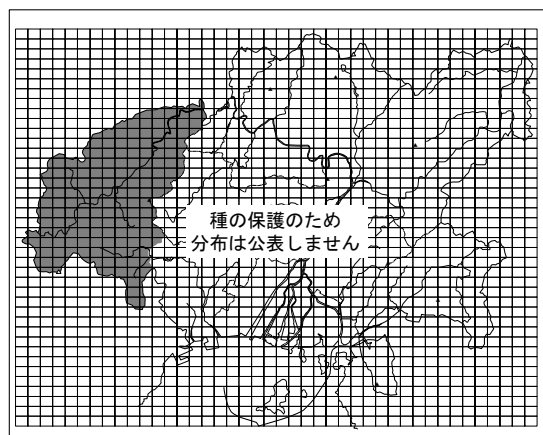
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■キンセイラン（ラン科）

##### *Calanthe nipponica*

北海道、本州、四国、九州の深山に分布するエビネの仲間で、6～7月に淡黄緑色の花をまばらにつける。日本特産の貴重な希産種。広島県では特にまれで、中間温帯林に生える。市内でも生育が確認されているが株数は少なく、採取による絶滅の危険性が高い。



## 種子植物

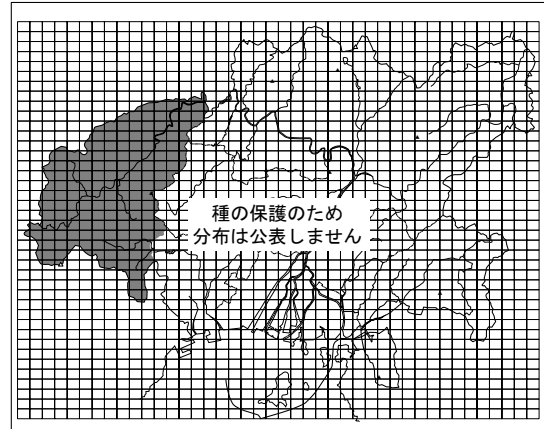
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■サルメンエビネ (ラン科)

##### *Calanthe tricarinata*

ブナ帯の自然度の高い森林下に生える常緑の多年草。北海道、本州、四国、九州、台湾、ヒマラヤに分布する。広島県ではブナ林やブナ帯にあるスギ植林内に生える。市内の山林内で少数の生育が確認された。比較的沿岸部に近い広島市域内での自生は貴重な存在である。



## 種子植物

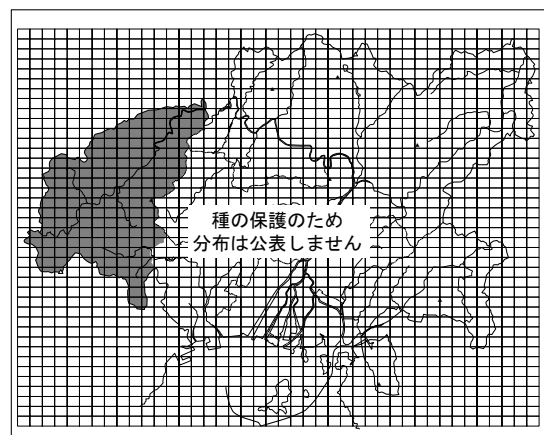
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■マツラン (ラン科)

##### *Saccolabium matsuran*

常緑広葉樹林内などの樹木に着生する小型の常緑多年草。本州(宮城県以南の太平洋側)、四国、九州に分布する。全国的に確認例が減少しており、県内でも自生地が少なく絶滅の危機に瀕している。



## 種子植物

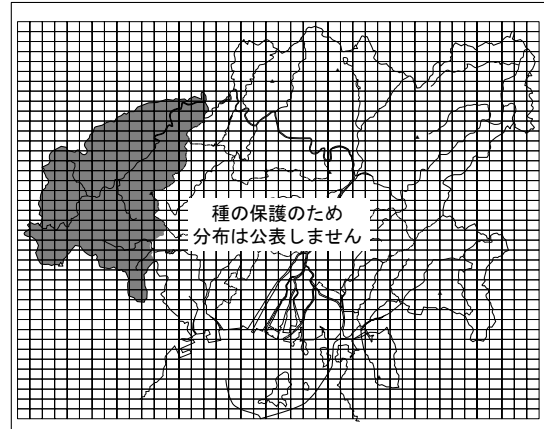
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■トウゴクサバノオ（キンポウゲ科）

##### *Dichocarpum trachyspermum*

山の湿ったところに生育する小型の落葉性多年草。本州，四国，九州に分布し，広島県内では東部でわずかに確認されている。今回新たに発見された市内の自生地は地形的に不安定な立地のため消滅する危険性があるが，市域や県内のフロラを解明する上で貴重な存在である。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

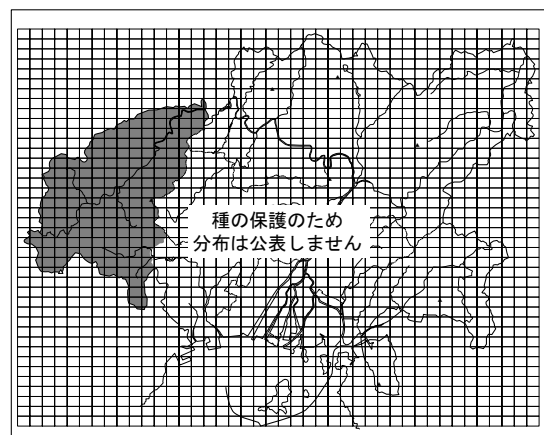
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■オオヤマサギソウ（ラン科）

##### *Platanthera sachalinensis*

南千島，樺太，北海道～九州に分布する落葉性の多年草。広島県内ではブナ帯域の落葉樹林下にはえるが，自生記録はまれで散發的である。

市内の高所で生育を確認したが個体数はごく少なく，採取や道沿いの管理作業などのために絶滅に瀕する危険性がある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

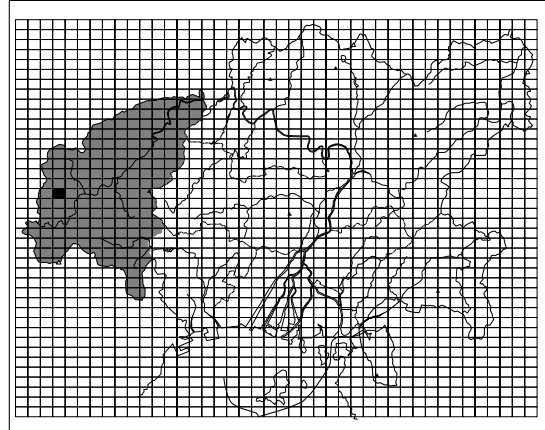
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ムヨウラン (ラン科)

##### *Lecanorchis japonica*

本州(東北地方南部以南)、四国、九州に分布する腐生ランで、淡黄色の花をつける。県内では中、東部のシラカシ林に生えることが多い。

県西部での自生は大変珍しく、本種の分布を解明する上で貴重な存在である。



## 種子植物

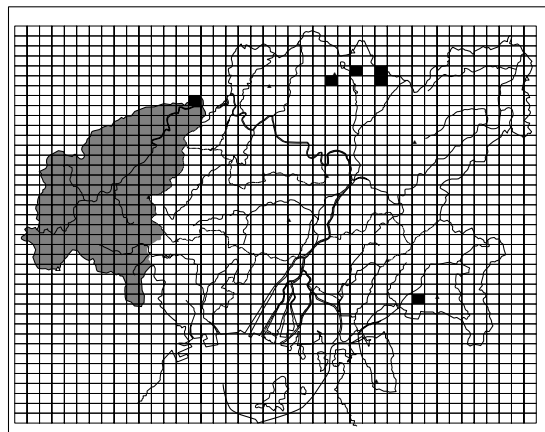
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■マルミノヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)

##### *Phytolacca japonica*

自然度の高い樹林下にまれに生える多年草。本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。市域では安佐北区、安芸区、佐伯区から記録がある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

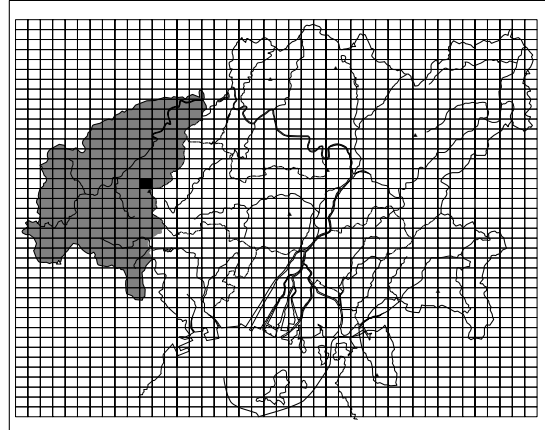
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■テツカエデ（カエデ科）

*Acer nipponicum*

主に温帯林内に生える落葉高木。日本固有で、岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。広島県内では中国山地沿いの谷筋に極まれに生育するが、県内分布の全容が明らかになっているとはいえない。

佐伯区湯来町で極わずかの生育が確認されている。



## 種子植物

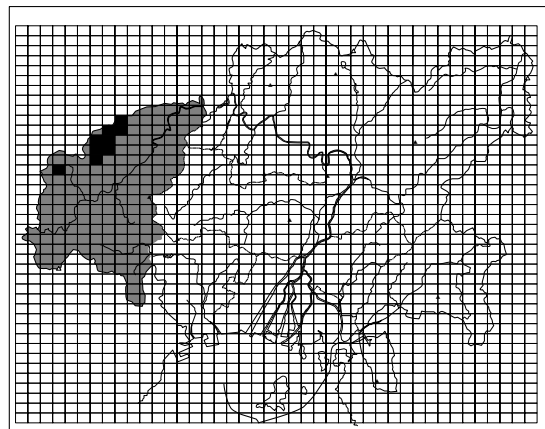
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■コハクウンボク（エゴノキ科）

*Styrax shiraianus*

樹高3～5mの落葉小高木で、6月頃白い花を総状につける。本州（関東以西）、四国、九州、朝鮮半島南部に分布する。尾根筋や谷沿いの岩地に生えていることが多く、県内では今のところ、佐伯区湯来町を含む北西部でまれに見られるだけである。





## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

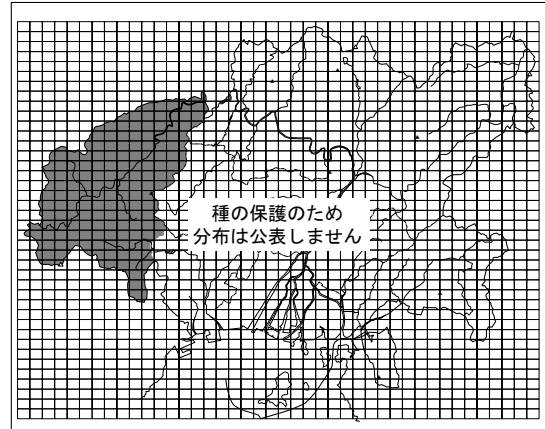
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ ジャコウソウ (シソ科)

##### *Chelonopsis moschata*

山地の溪谷に生え、高さ1mに達する落葉性の多年草。北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中国山地の谷間や、ブナ林の林縁などにまれに生える。

市西部で生育を確認した。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

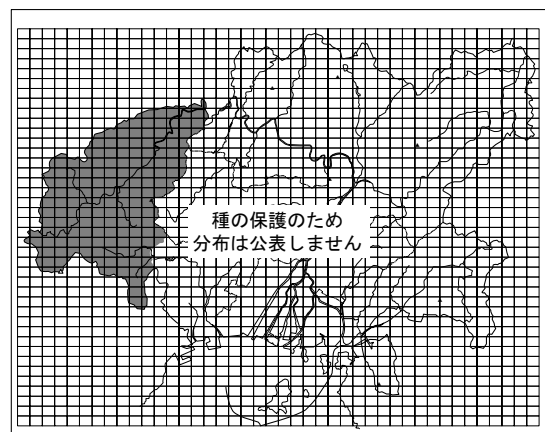
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ マネキグサ (シソ科)

##### *Lamium ambiguum*

山地の木陰に生える高さ40~70cmの多年草。本州(神奈川県以西)、四国、九州に分布する。県内では東部の石灰岩地域の溪谷中にまれに生える。

市内の2か所で記録があり、その内1か所で生育を確認した。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

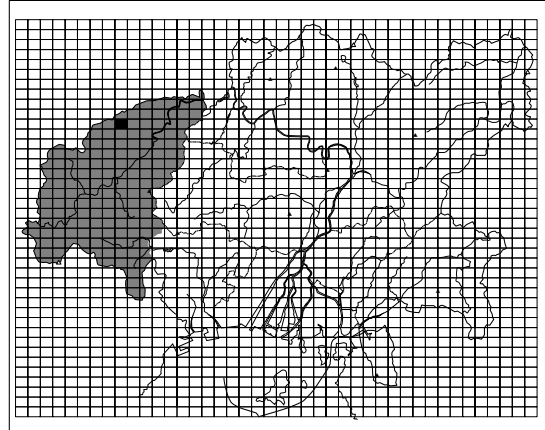
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■キヨスミウツボ (ハマウツボ科)

##### *Phacellanthus tubiflorus*

山地の陰湿な木陰に生える高さ5～10cmの寄生植物。北海道、本州、四国、九州、朝鮮、ウズリーチ、樺太、中国(中北部、東北部)に分布する。広島県内では、中国山地沿いの地域に分布するが、きわめてまれである。

佐伯区湯来町で生育が確認されている。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

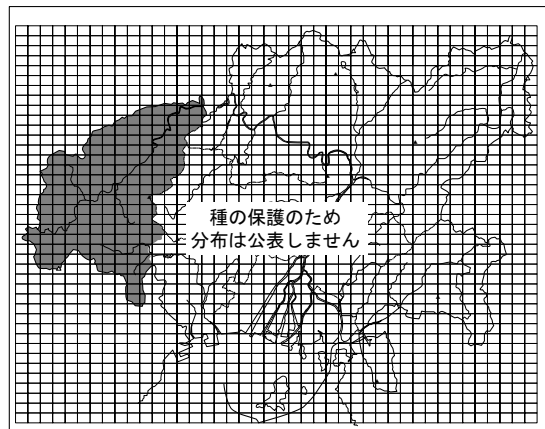
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■シロバナイナモリソウ (アカネ科)

##### *Pseudopyxis heterophylla*

山地の林の中に生える多年草。夏に上向きの白色小花を数個つける。本州中部に分布するとされるが、1997年に芸北町で発見された。

今回市域内でも自生が確認されたが県内の分布についてはさらに調査する必要がある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

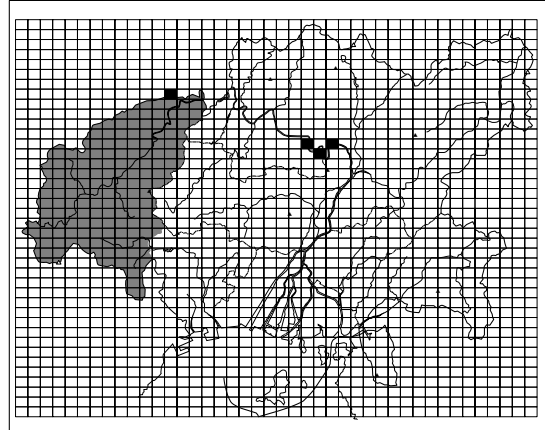
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■カワラハハコ (キク科)

##### *Anaphalis margaritacea*

川原の砂地などに群生する多年草。茎はよく枝分かれし、高さが30～50cmになる。北海道、本州、四国、九州に分布する。広島県内の生育記録は各所にあるが、原状不明の場所が多い。

佐伯区湯来町の1か所で生育を確認しているが、河川の氾濫などにより生育場所が移動したり、生育量が変わるようである。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

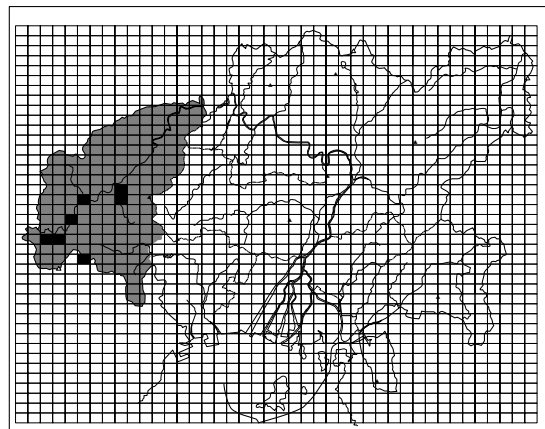
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■サンベサワアザミ (キク科)

##### *Cirsium tenuisquamatum*

山地の小川沿いや水田畔などの水湿地に生える中型のアザミ。中国地方の特産で、広島県内では吉備高原面から中国山地にかけて分布する。

佐伯区湯来町の山間部にある水路沿いや水田周りの湿った場所に群生が見られる。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

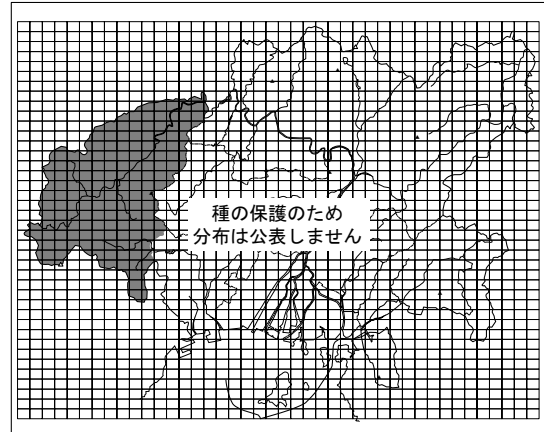
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■クマガイソウ（ラン科）

##### *Cypripedium japonicum*

林床に群生する落葉性の多年草。北海道(西南部)～九州に分布。高さ30～40cmで、大きな扇形の2葉と長径8cmほどの1花が特徴の代表的野生ラン。

安佐北区の1か所で記録されていたが、採取によって絶滅した。今回新たな自生地が発見されたが生育株は開花に至らないものがほとんどであった。適地の個体はことごとく採取され、残りがかろうじて生き残っているという深刻な状況である。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

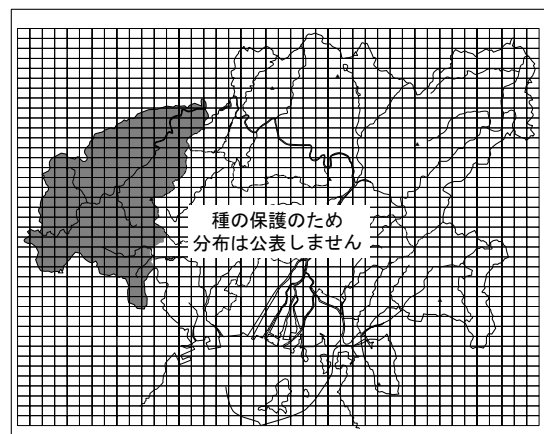
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ムギラン（ラン科）

##### *Bulbophyllum inconspicuum*

樹林内の樹上、岩上に生える常緑の多年草。本州(関東以西)、四国、九州に分布。卵形の偽球茎の先端に肉厚の葉を1枚つける。6～7月に短い花茎を出し、1個の花をつける。

1970年代に佐伯区湯来町から標本の記録があり、1987年には、安芸区、安佐北区で少数個体が記録されている。それ以後確実な情報は得られていないが、環境変化や採取圧により絶滅の危険性は非常に高いと推定される。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

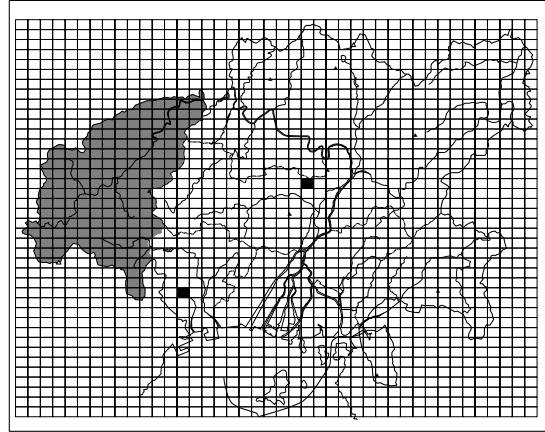
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■オキナグサ (キンポウゲ科)

##### *Pulsatilla cernua*

日当たりの良い草地や河原に生える多年草。本州，四国，九州に分布。植物全体に毛が多い。4～5月，10cm内外の花茎の先端に鐘形で暗紫色の花をつける。

安佐南区，西区，佐伯区(倉重，湯来町和田地区恵下)で記録されているが，近年生育が確認されていない。放牧や草刈りなど人為的な管理下で生育環境が維持されることが多いが，管理放棄による生育適地の減少や採取により絶滅の危険性が高い。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

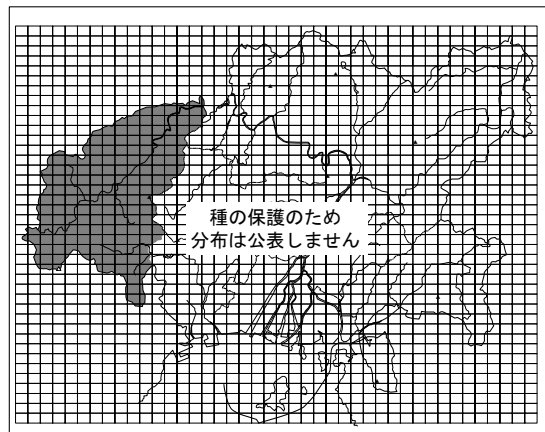
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ホンシャクナゲ (ツツジ科)

##### *Rhododendron japonoheptamerum* var. *hondoense*

酸性土壌の溪谷に生える常緑低木。本州(愛知県，長野県，富山県以西)，四国に分布。高さ4m，太いものは直径12cmほどになる。5月ごろ，枝先に赤紫～白色の花を多数横向きに咲かせる。

市内各地で記録されているが，掘り取りのため著しく減少している。さらに，自然実生による幼株が採取されているとみられ，今後の生育には危機的な状況と言わざるを得ない。



## 種子植物

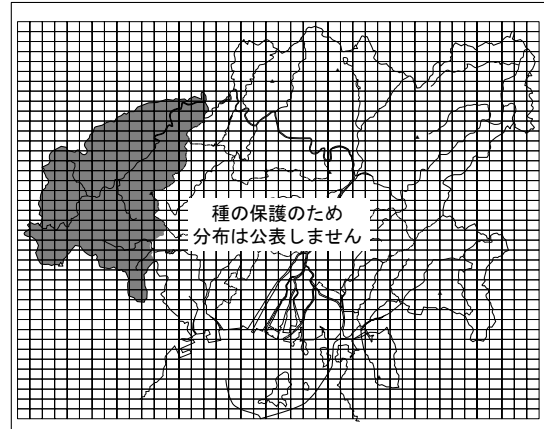
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ノハナショウブ（アヤメ科）

*Iris ensata* var. *spontanea*

岩手，三重，鹿児島などでは群生地が天然記念物に指定されているところもある。広島市内には本種の生育に適した環境が少ないため自生株数が非常に少ない。園芸植物のハナショウブは，本種を鑑賞植物として江戸時代から改良したものである。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

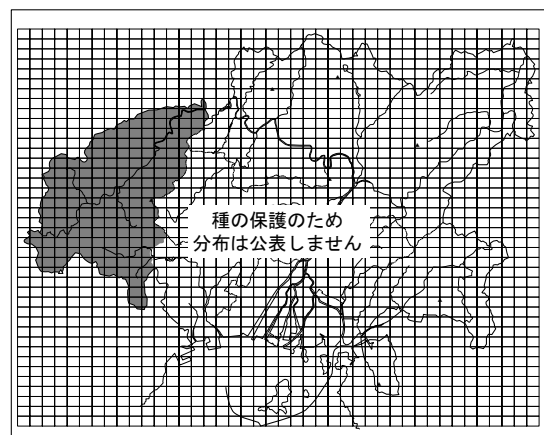
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■キンラン（ラン科）

*Cephalanthera falcata*

山稜や丘陵の明るい疎林下に生える落葉性の多年草。本州，四国，九州に分布。高さ30～50 cmで，4～6月にかけて，茎の先端に黄色い花を3～12個つける。

安佐南区，佐伯区で記録されているが，今回の調査では確認できなかった。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

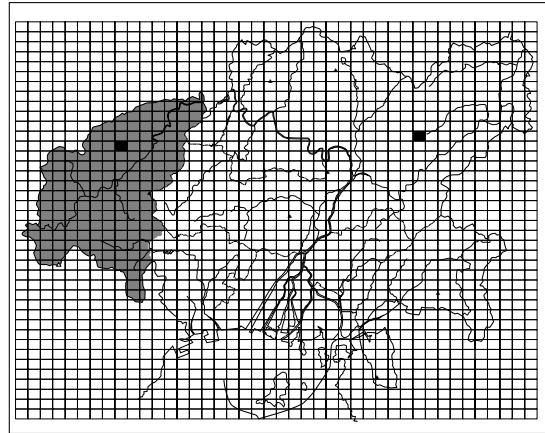
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ヤマヒョウタンボク（スイカズラ科）

*Lonicera mochidzukiana* var. *nomurana*

山地に生える落葉低木。本州(東海道以西)、四国、九州に分布し、しばしば蛇紋岩地帯や石灰岩地帯に生育。高さ1mくらい。5月に白色の花を2個ずつつける。果実は6~7月に赤く熟する。

安佐北区と佐伯区で記録されているが、現状は不明。自生地は開発の及ぶような場所ではないが、個体数が少なく生育基盤は脆弱。県内他所でも同様な状況である。



## 種子植物

### 絶滅・絶滅

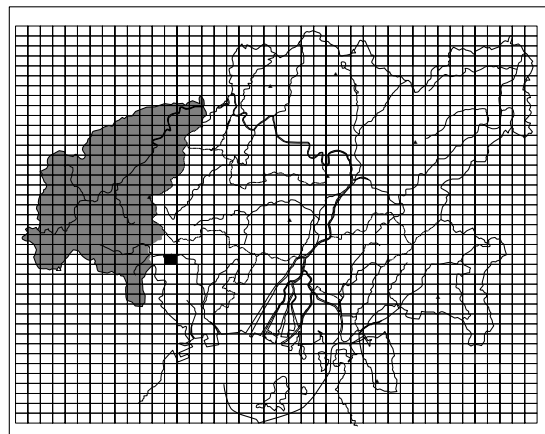
10年~20年間確認されていない(種子植物では30年以上)

#### ■ハナナズナ（アブラナ科）

*Berteroella maximowiczii*

平地に生える越年草。本州(広島県、岡山県)、九州(対馬)、朝鮮半島、中国に分布。全体に星状毛があり、茎は高さ20~60cm、上部でよく枝分かれする。花は5~10月、花弁は4枚で淡紅色。

戦前には西区(己斐)、安佐南区(祇園、沼田)、佐伯区(石内、河内、湯来町和田地区恵下)から記録があるが、市域では戦後確認された記録がない。県内では戦後三段峡から採取されたが、現状は不明である。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

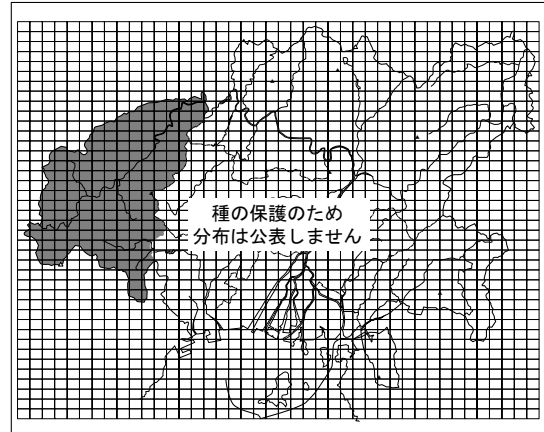
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■オモゴウテンナンショウ（サトイモ科）

*Arisaema iyoanum*

溪流沿いの斜面など、山地の木陰に生育する多年草。中国地方西部と四国地方に分布する。マムシグサに似るが葉は1枚、裂片は7～11枚。花の苞は淡緑色または帯紫色に茶褐色の点があり、尾状に伸びる部分(舷部)の縁が外曲する。

安佐北区や佐伯区湯来町で生育が確認されている。林道工事などの開発や採取が減少要因となる。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

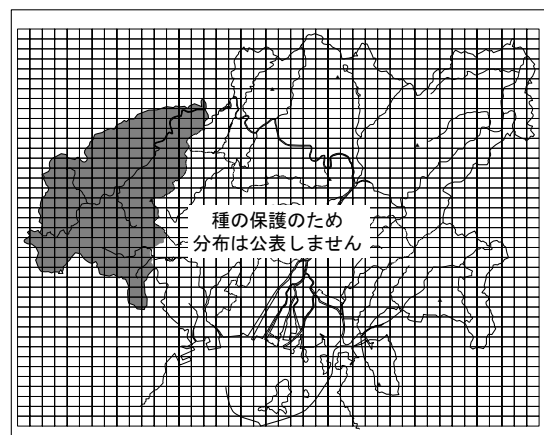
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ホソバナコバイモ（ユリ科）

*Fritillaria amabilis*

林縁などに生える多年草。県内の自生地は中・古生層の地域に限られる。本州(中国地方)、四国、九州に分布。高さ5～15cmで、3～4月ごろ輪生した葉の先に筒型の花を咲かせる。

安佐北区の4か所、佐伯区湯来町の1か所で記録されている。森林の成長に伴って消滅しそうな所や、道路の改修で個体数が減っている所がある。また、栽培目的の採取も減少要因となっている。





## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

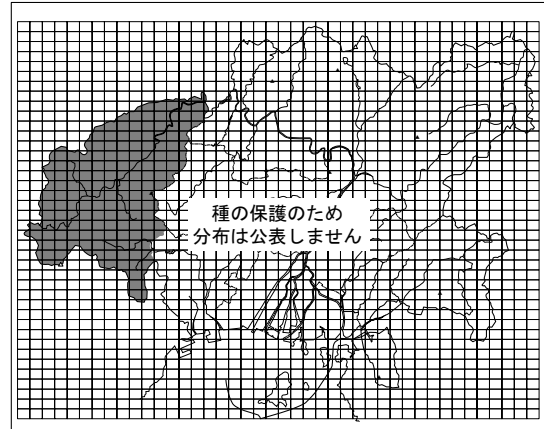
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ウチョウラン（ラン科）

##### *Orchis graminifolia*

岩壁上に生える多年草。本州，四国，九州に分布。草丈は10～20cm。6～8月に，茎の先に淡い紅紫色の花を数個つける。

佐伯区で記録されている。以前に比べ生育数が激減しているほか，場所によっては近年の詳細な状況は不明である。生育適地が限定され，移植による保全は困難な上に採取圧が高い。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

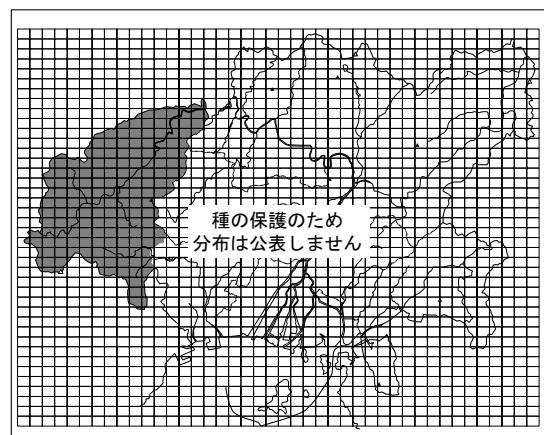
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヒナラン（ラン科）

##### *Amitostigma gracile*

樹林下の明るい岩上に生える多年草。本州（愛知県以西），四国，九州に分布。茎はやや斜めに立ち，高さ5～15cm。6月ごろ淡紫色の小さな花をつける。

安佐北区や佐伯区の数か所で記録されており，最近10年間に徐々に減少している。原因としては，採取と崩落防止工事があげられる。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

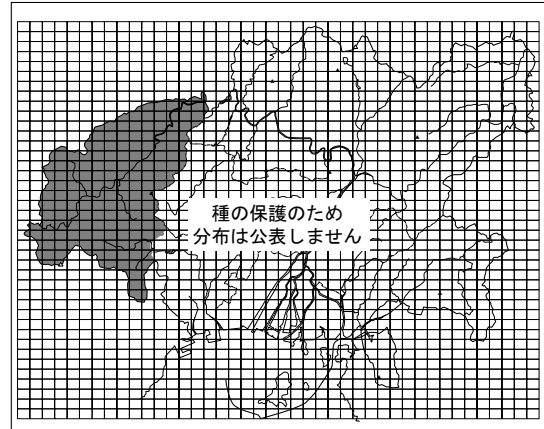
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヤマシャクヤク（キンポウゲ科）

##### *Paeonia japonica*

落葉樹林下に生える落葉性の多年草。本州（関東，中部地方以西），四国，九州に分布。茎の高さは30～40cmで，5月ごろ茎頂に大きさ4～5cmの白色花を1個つける。

安佐北区，安佐南区，佐伯区の数か所で記録されている。生育環境は良好なのに個体数が少ないままであり，採取圧がかかっていると思われる。



## 種子植物

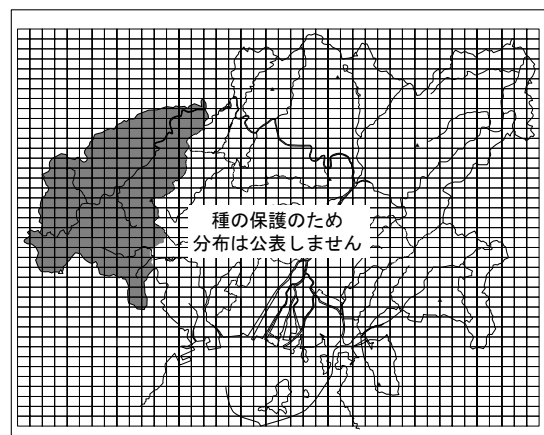
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■フジバカマ（キク科）

##### *Eupatrium japonicum*

関東以西の日本及び朝鮮半島，中国大陸に分布し，河岸の湿った草地に生える多年草。広島県内では，太田川流域の広島市安佐北区，佐伯区，安芸太田町など，芦田川流域の神辺町などからの報告があるが，その自生状況は年によって確認できないこともあり，安定しないようである。



## 種子植物

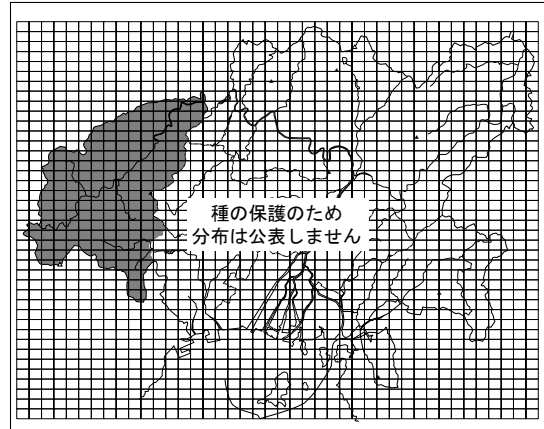
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■キバナノアマナ（ユリ科）

##### *Gagea lutea*

葉は1枚，早春に黄色い花を数個つけ，初夏には地上部がない。北海道，本州，四国に分布するが本州の西部や四国ではまれ。県内でも三次盆地以南にはきわめて少なく，広島市は県内での南限にあたる。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

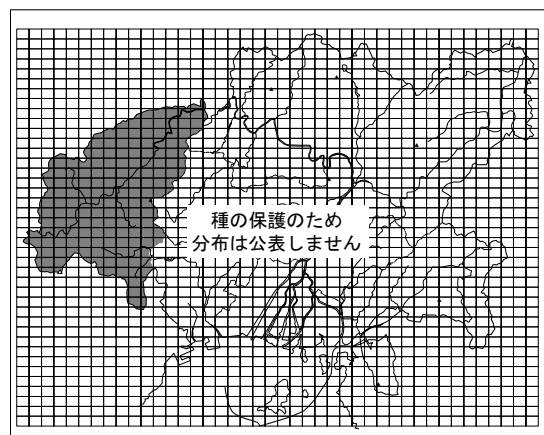
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■カタクリ（ユリ科）

##### *Erythronium japonicum*

落葉樹林下で早春に花をつける多年草。北海道～九州に分布。葉は2枚で花茎の下部につく。花は4月上旬，紅紫色で基部に斑紋がある。

安佐北区の4か所，佐伯区の3か所で確認されている。斜面下部で耕作地と山林との境界や道路のノリ面に10数株から100株前後が生育している。安佐北区の1地点では，道路により多くが削り取られた。また，里山利用が行われず，生育環境が悪化している場所もある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

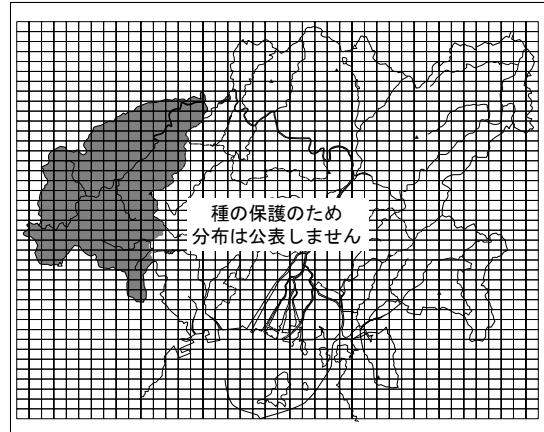
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■エビネ（ラン科）

##### *Calanthe discolor*

樹林下に生える常緑の多年草。北海道南部～沖縄に分布。草丈約30cm，葉を数枚つけ，中央より花茎を直立させ花を房状につける。

安芸区，安佐北区，安佐南区，東区，佐伯区で記録されている。場所によっては数十株が群生しているところもあるが，かなり少なくなっている自生地も多い。少なくとも2地点は，開発などで消失した。採取圧も高い。人工増殖株による再生を行う場合，地域個体群の特性を考慮することと，ウィルス罹病株<sup>りびょう</sup>を植え出さないよう配慮することが特に重要である。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

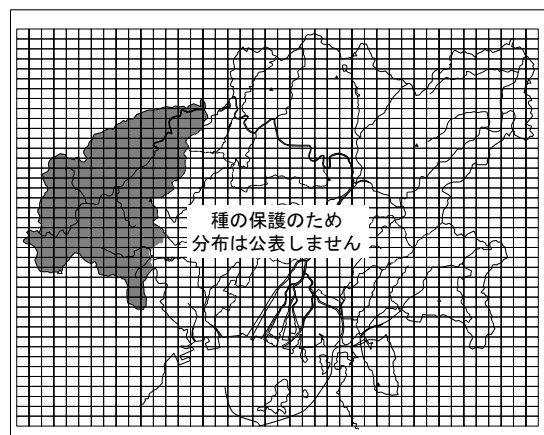
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ナツエビネ（ラン科）

##### *Calanthe reflexa*

山地のやや湿った樹林下に生える多年草。本州～九州に分布。7～8月ごろ，高さ20～30cmの花茎の先端部に7～15個の淡紫色の花を咲かせる。

安佐北区，安佐南区，佐伯区で記録があり，数か所で生育を確認した。空中湿度が高く排水の良い所を好み，暑さに弱いため，人工的な継続栽培や増殖は困難。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

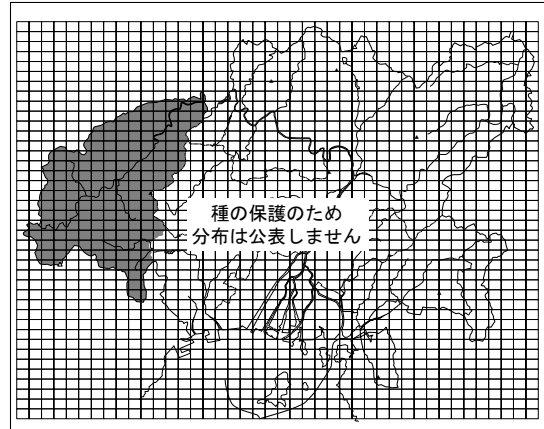
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■セッコク（ラン科）

##### *Dendrobium moniliforme*

常緑樹林内の樹上や岩上に生える常緑の多年草。本州～沖縄に分布。茎の高さは5～25cm，花は5～6月，大きさは約3cmで白または薄紅色。

安佐北区の数地点及び佐伯区で記録されている。生育適地は比較的多いが，採取圧が高いため，開花・結実に至る株が少ない。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

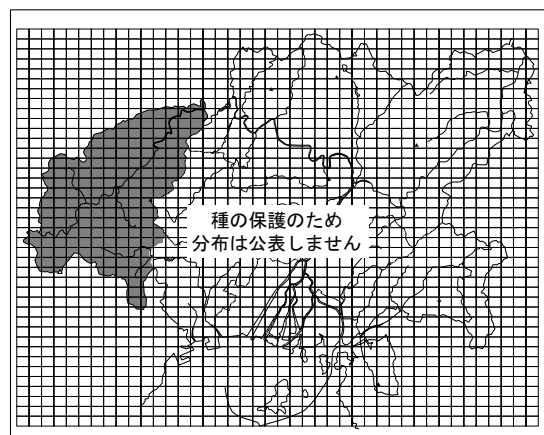
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■マメツタラン（ラン科）

##### *Bulbophyllum drymoglossum*

山地の樹幹や岩上に生育する常緑の多年草。本州（関東以西）～沖縄に分布。茎は細長く横にはう。花は5～6月に先端に1個つく。花の大きさは1cm，三角形で黄褐色。

安佐北区と佐伯区で記録されている。生育個体は少ないが，近年大きな変化はないようである。



## 種子植物

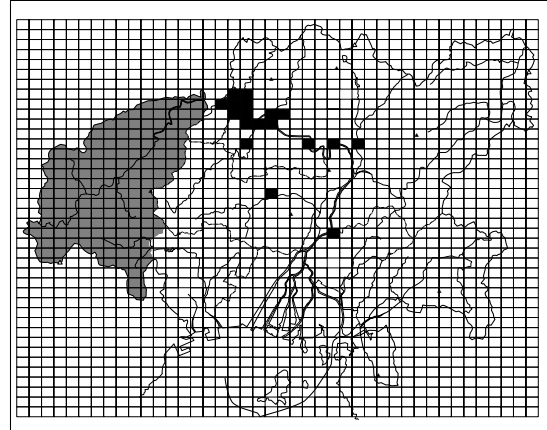
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ユキヤナギ (バラ科)

*Spiraea thunbergii*

本州(関東以西), 九州, 中国中西部に分布し, 川岸の岩の裂け目や山中の岩礫地に生える落葉低木。しばしば庭園にも植栽される。県内では太田川と呉市広大川に自生がある。佐伯区湯来町の水内川流域からも生育の記録があるが, 現状は不明。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

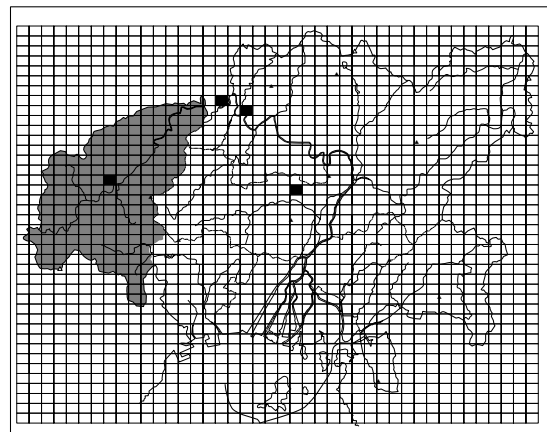
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ツゲ (ツゲ科)

*Buxus microphylla* var. *japonica*

増水時には水に洗われるような川岸の岩の割れ目などに生える常緑低木。本州(関東から西), 四国, 九州に分布。幹は直立し, 高さ1~3m。春に淡黄色の花をつける。

安佐北区の太田川河川敷で記録があるほか, 佐伯区湯来町の水内川支流の岩場で生育を確認した。数は少なく生育基盤は弱い。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

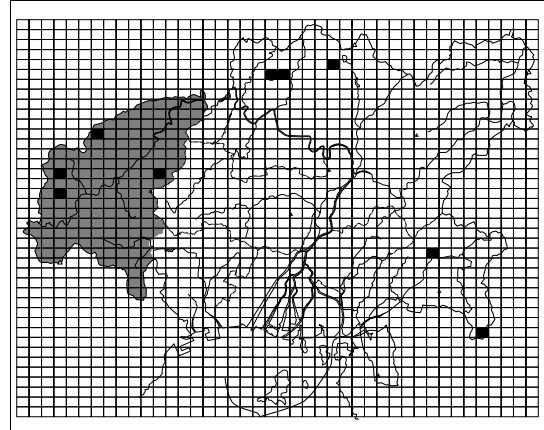
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ナツアサドリ (グミ科)

##### *Elaeagnus yoshinoi*

山地に生える落葉低木。本州(兵庫県, 岡山県, 広島県, 山口県), 四国(愛媛県)に分布。樹高は2~5m。花は5月上旬。

安芸区で2か所, 安佐北区で3か所記録があるほか, 佐伯区湯来町の4か所で生育を確認した。いずれの場所も1株しかなく, 開発などで消滅する危険性がある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

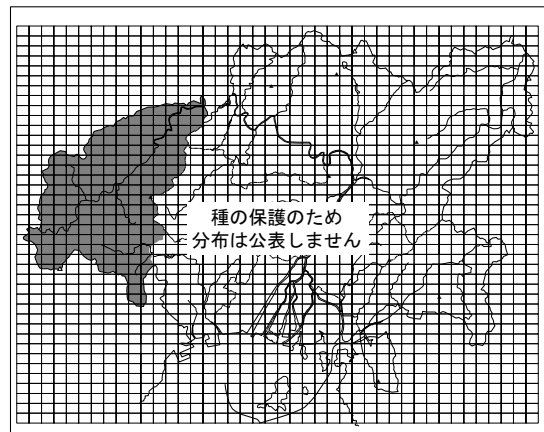
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ゲンカイツツジ (ツツジ科)

##### *Rhododendron mucronatum* var. *ciliatum*

花崗岩かこうがんの岩峰や岩壁に生える落葉低木。中国地方, 四国北部, 九州北部に分布。花は, 3~4月に葉に先立って開き, 径3~4cmで赤紫色。

安佐北区, 安芸区, 南区などにみられ, 現状に大きな変化はない。また, 佐伯区湯来町では岩尾根に比較的多数の株が生育している。登山道や林道の整備が減少要因となる。採取圧もある。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

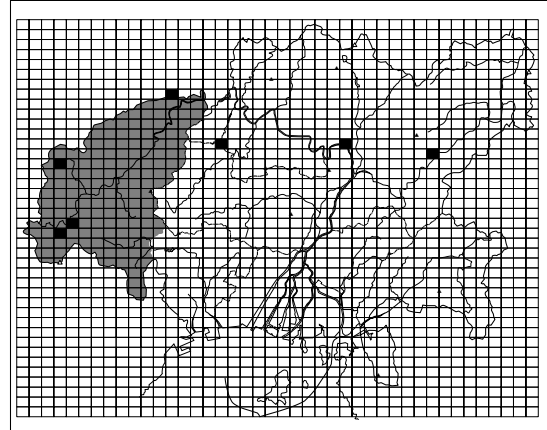
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■ナガミノツルキケマン（ケシ科）

*Corydalis raddeana*

山中の半日陰地や林縁に生える一年草または二年草。北海道，本州，九州に分布。茎は分枝して長さ1mに達し，横に広がる。花は淡黄色で8～9月に咲く。

安佐北区，安佐南区，佐伯区湯来町に生育している。一部の自生地は河川改修などによりなくなったと思われるが，ほかは安定している。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

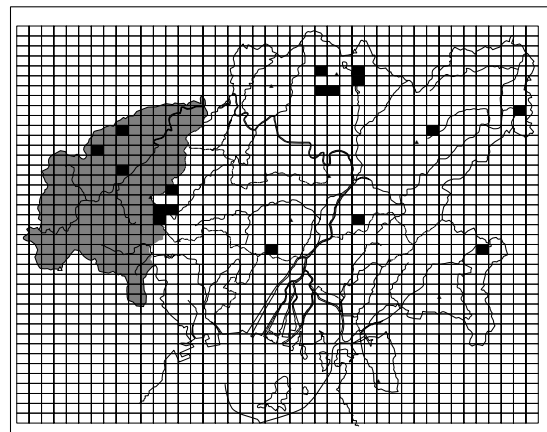
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■アテツマンサク（マンサク科）

*Hamamelis japonica* var. *bitchuensis*

溪谷に多い落葉小高木。本州(中国地方)，四国に分布。花は早春に葉に先立って開き，花弁は黄色で長さ12～15mm。マンサクに比べ，葉の両面の星状毛が多い。

安佐北区，安佐南区，佐伯区湯来町などに広く分布。山地の溪谷などに生育しており，存続基盤は安定している。





## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

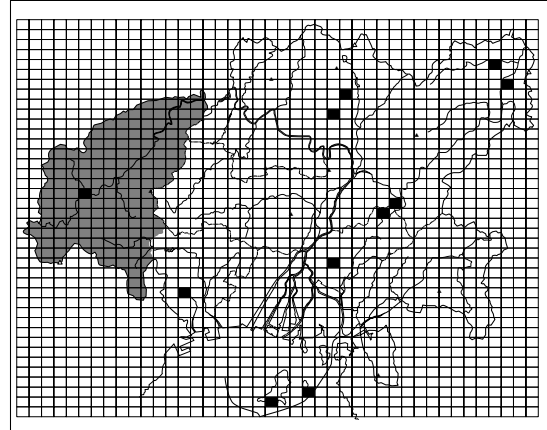
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■キキョウ（キキョウ科）

##### *Platycodon grandiflorum*

日当たりの良い山地の草地や路傍などに生える多年草。日本全土に分布。茎は高さ40～100 cm。8～9月ごろ、青紫色の鐘形の花をつける。

安佐北区，佐伯区，東区，南区で記録されている。安佐南区，安芸区にも自生している可能性がある。



## (2) シダ植物

これまで旧湯来町で調査され記録されているシダ植物のうち、「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」に記載されているシダ植物は、絶滅危惧Ⅰ類としてスギラン、クラガリシダ、絶滅危惧Ⅱ類としてフジシダ、イワオモダカ、準絶滅危惧としてカラクサシダ、イワヤシダ、サジランがある。また、「広島市の生物」で取り上げられているシダ植物の選定種は16種であるが、今回はこれらの種を確認することを中心に調査を行った。その結果、クラガリシダ、サジラン、シノブ(「広島市の生物」選定種)を確認することができた。

スギランは、平成13年(2001年)に佐伯区湯来町多田地区日入谷から冠山に続く谷筋の岩上に着生しているのを確認しているが、今回の調査では、同じ地点での確認はできなかった。現状では、旧湯来町においてスギランは自生が確認できていない。

クラガリシダは、佐伯区湯来町和田地区<sup>あけず</sup>不明谷において昭和53年(1978年)に標本を採集しているが、今回の調査では同地点での確認はできなかった。佐伯区湯来町和田地区<sup>あけず</sup>不明谷は、湯来町から広島市安佐南区へ通じる山道が舗装され、車の通行量が増加し環境の悪化が進んでいるものと思われる。今回の調査では、佐伯区湯来町下地区念仏谷において自生を確認した。個体数も多く生育の状態も良好である。

フジシダは、昭和63年(1988年)に大峯山で採集されているが、今回の調査では確認できなかった。イワオモダカは、土井美夫(1983)「広島県植物目録」に佐伯区湯来町和田地区恵下の記録があるが、確認年が不明で、それ以後も確認されていない。

今回の調査により、旧湯来町に自生するシダ植物のうち絶滅のおそれのあるものとしてスギラン、フジシダ、クラガリシダ、イワオモダカの4種を追加する。

イワヤシダ、カラクサシダ、サジランは、前回の調査で県内において産地や個体数が多く当面絶滅するおそれがないもの、市域では希少であるが県北部において比較的広く分布するものとして選定種に取り上げられていない。今回も同様の理由で選定から除外した。

シダ植物の選定種は、「広島市の生物」で取り上げられている種は16種であるが、今回の調査で4種を加えたので選定種は20種となる。

旧湯来町には、東郷山、冠山、大峯山などの1,000m級の山に続く佐伯区湯来町和田地区恵下谷、多田地区日入谷、多田地区弥平谷、和田地区<sup>あけず</sup>不明谷等の谷筋でシダが豊富に生育している。イノデ類やイヌワラビ類も多産し、雑種も多く見られる。全体的にシダ植物の生育に適した環境が残されており、今後もこの環境の保全が望まれる。

湯来地区の調査による選定種の追加

スギラン 絶滅危惧

クラガリシダ 準絶滅危惧

フジシダ 情報不足

イワオモダカ 情報不足

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

なし

## シダ植物

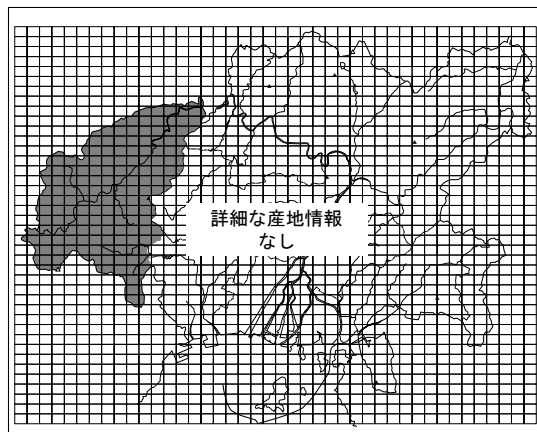
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■スギラン (ヒカゲノカズラ科)

##### *Huperzia cryptomerina*

葉は深緑色でスギに似た線状披針形をなし、全縁である。茎は3回前後に枝わかれをし、長さ10cm～30cmになる。



## シダ植物

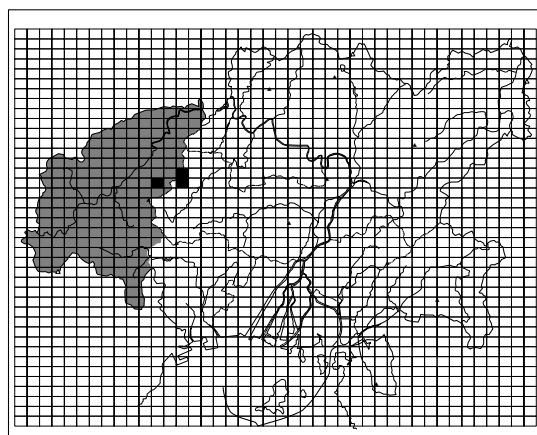
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■クラガリシダ (ウラボシ科)

##### *Drymotaenium miyoshianum*

根茎は短くはい、紐状の単葉を密生する。葉の表面はくぼんで溝状になり、裏面は凸状になる。ソーラスは葉軸の溝につく。



## シダ植物

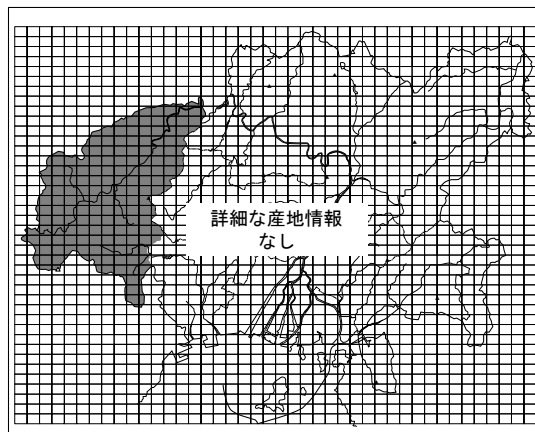
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■フジシダ (イノモトソウ科)

##### *Monachosorum maximowiczii*

根茎は短く斜上し、単羽状の葉をつける。葉柄はやや褐色で光沢がある。葉軸の先が伸びて無性芽をもつ。



## シダ植物

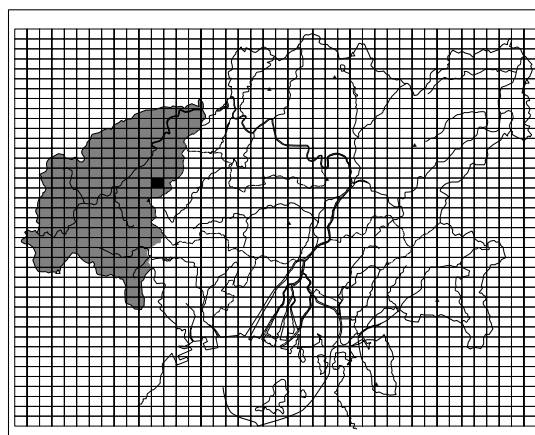
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■イワオモダカ (ウラボシ科)

##### *Pyrrosia hastata*

根茎は短くはい、密に葉をつける。葉は単葉で葉身はほこ形に3~5裂する。厚い革質で上面はほぼ無毛で緑色をなすが、下面は赤褐色の星状毛でおおわれる。



### (3) コケ植物

旧湯来町の区域には恵下山<sup>えげさん</sup>、東郷山、石ヶ谷峡、大峯山など、コケ植物の豊富な地域が多くあるが、これまでまとまったコケ植物相の調査は行われていない。最も古い記録は、野口(1935)によるクマノチョウジゴケ(セン類)の恵下山からの報告であろうと思われる。Horikawa(1955)には、岩政定治氏が東郷山で昭和7年(1932年)に採集したカタハゴケ(タイ類)の標本が引用されており、1930年代のはじめころより、旧湯来町でコケ植物の調査が行われ始めたものと思われる。堀川(1950)には水内村<sup>みのち</sup>からチャボスズゴケ、オオタチゴケ、ソリシダレゴケ(いずれもセン類)などが、Horikawa(1950)には恵下山<sup>えげさん</sup>からミジンコヤバネゴケ(タイ類)が、Horikawa(1955)には恵下山<sup>えげさん</sup>からキセルゴケ(セン類)、東郷山からキダチヒラゴケ(セン類)、水内村<sup>みのち</sup>からオオカサゴケ(セン類)、東郷山からカタハゴケ(前述)、東郷山からチャボスズゴケ(セン類)などの報告がある。Seki(1961)は石ヶ谷峡からカミムラヤスデゴケ(タイ類)を広島県新産として報告し、それはKamimura(1961)にも引用されている。Noguchi(1972)は水内村<sup>みのち</sup>からアサイトゴケ(セン類)を、Noguchi(1976)はヒロハシノブイトゴケ(セン類)を水内村<sup>みのち</sup>から、ミズスギモドキ(セン類)を恵下山<sup>えげさん</sup>から報告している。

広島、山口県境を流れる小瀬川<sup>おせ</sup>(木野川)に弥栄ダムが建設されるに伴い、弥栄峡を中心とした地域の総合学術調査が行われ、コケ植物についても、昭和52年(1977年)～53年(1978年)に西村直樹、出口博則、関太郎、安藤久次によって小瀬川<sup>おせ</sup>の全流域を対象として調査が行われ、約3,000点の標本が採集された。大峯山は小瀬川<sup>おせ</sup>と水内川<sup>みのち</sup>の分水嶺であり、頂上付近のデータは旧湯来町分として扱ってもよいと思われる。西村・出口・関・安藤(1979)の報告の中で注目すべきものを挙げると、セン類でクロゴケ(大峯山での採集地点の海拔、1,039m)、ミヤマイクビゴケ(950m)、セイタカスギゴケ(950m)、ツバナゴケ(1,030m)、エゾチョウチンゴケ(950m)、オオダイイトツルゴケ(850m)などがあり、タイ類ではコアミメミゾゴケ(1,000m)、シロコオイゴケ(950m)、オオヒシヤクゴケ(1000m)などがある。上記で注目すべきものは典型的な亜高山帯要素であるセイタカスギゴケであるが、採集者の西村博士によれば、旧湯来町側の北斜面にある風穴が生育地のようなのである。北方系のミヤマイクビゴケ、エゾチョウチンゴケ、コアミメミゾゴケ、シロコオイゴケ、オオヒシヤクゴケなどもこの風穴付近ではないかと推察されるので再調査が望まれる。今回は上記のことから、クロゴケを旧湯来町分として載録したい。

昭和51年(1976年)8月23～25日、第5回日本蘚苔類学会大会が湯来温泉で行われ、野口彰、辰野誠次、服部新佐、高木典雄、鈴木兵二、井上浩(いずれも故人)などの錚々たるメンバーが参加して行われた。この時の野外観察会は、旧湯来町と吉和村(現在、廿日市市)との境界にあたる東山溪谷の「武者隠しの滝」で行われた。井上博士が冗談で「コケが多すぎて困る」といわしめたほど、コケ植物の豊富な谷であった。残念ながら、この時の観察記録はまとめられていない。

2000年以降、旧湯来町の区域では石ヶ谷峡、本多田川流域、佐伯区湯来町和田地区湯ノ山、恵下谷、東郷山、佐伯区湯来町白砂地区<sup>しらさご</sup>重光、葛原地区<sup>つづら</sup>などでコケ植物の調査が行

われた。その結果、「広島市の生物」で絶滅危惧とされたカビゴケ、ソリシダレゴケ、軽度懸念のキノクニキヌタゴケ、情報不足のキセルゴケ、カトウゴケ、環境指標種のオオミズゴケ、キヨスマイトゴケの生育を確認した。さらに追加すべきものとして、「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」で絶滅危惧I類のクロゴケ、クマノチョウジゴケ、ヒロハシノブイトゴケ、カミムラヤスデゴケ、絶滅危惧II類としてホソベリミズゴケ、コウヤトゲハイゴケがある。

上述したように、旧湯来町の区域はコケ植物の多様性に富んでいるが、まだ十分に調査されていない。今後、ぜひ調査すべき地域として、恵下谷山国有林(東郷山を含む)、佐伯区湯来町和田地区湯ノ山、天上山、石ヶ谷峡、東山溪谷(とくに武者隠しの滝)、大峯山、湯来冠山などが挙げられる。湯来温泉に近い石灰岩地帯も精査の必要があろう。

#### 湯来地区の調査による選定種の追加

クロゴケ 絶滅危惧  
ヒロハシノブイトゴケ 絶滅危惧  
コウヤトゲハイゴケ 絶滅危惧  
ホソベリミズゴケ 準絶滅危惧  
カミムラヤスデゴケ 情報不足  
クマノチョウジゴケ 情報不足

#### 湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

#### 湯来地区の調査で確認された選定種(カテゴリ変更なし)

カビゴケ 絶滅危惧  
ソリシダレゴケ 絶滅危惧  
キノクニキヌタゴケ 軽度懸念  
キセルゴケ 情報不足  
カトウゴケ 情報不足  
オオミズゴケ 環境指標種  
キヨスマイトゴケ 環境指標種

## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

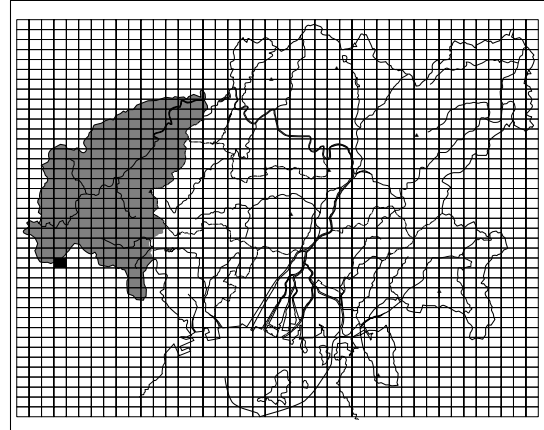
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■クログケ（クログケ科）

*Andreaea rupestris* var. *fauriei*

高山の乾燥した日当たりのよい岩上に生育する微小なコケで、高さ1～2mm、黒褐色。

北海道，本州，四国，九州(屋久島まで)の高山に分布。母種は北半球の寒冷地帯に広く分布。県内では中国山地の高地にまれに見られる。佐伯区湯来町では大峯山の頂上の岩上に生育。急峻な岩場なので，登山者に踏まれる危険性も少なく，現状のまま保護されると思われるが，限られた環境なので，岩場に展望台など作らないように注意が必要である。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

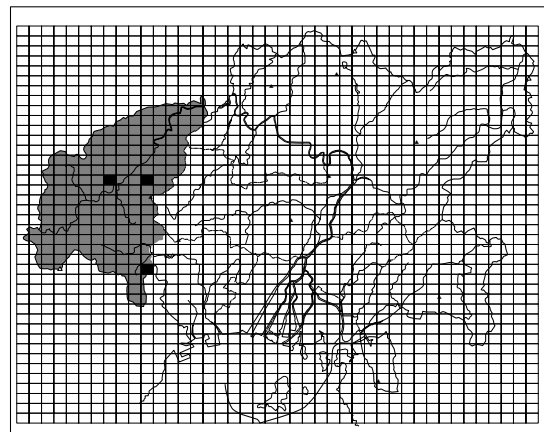
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ヒロハシノブイトゴケ（ハイヒモゴケ科）

*Trachycladiella aurea*

空中湿度の高い渓谷に生育し，茎は枝や樹幹から長く垂れ下がり，20～30cm，植物体は光沢のない黄緑色。葉は三角形で先端は長く伸びる。葉細胞には多数のパピラがあり，顕微鏡で見ると暗く見える。

本州(関東地方以西)，四国，九州に分布し，台湾，中国大陸，インド，ヒマラヤ，東南アジアに知られている。佐伯区湯来町では車道に沿う岩上や枝上に生育し，量が少なく，絶滅の危険度が高い。





## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■コウヤトゲハイゴケ（ナガハシゴケ科）

##### *Brotherella nakanishikii*

自然度の高い森林中の岩上や腐植土上に群生する。茎は不規則に羽状に分枝し長さ3~7cm, 植物体は黄緑色で強い光沢がある。茎につく葉は広い三角状の披針形で長さ1.2~1.5mm, 先端はやや急に尖り, 葉縁は全縁, 中肋はなく, 葉の基部に膨れた大きな細胞が1~2個ある。茎は断面で周辺に大きな細胞がある。

本州(中部地方以南), 四国, 九州に分布し, 日本特産。花崗岩や流紋岩など酸性火山岩の地域に分布し, とくにコウヤマキと共存する傾向がある。多分第三紀の遺存種であろう。近縁種は屋久島, 台湾, フィリピン, ヒマラヤに分布している。佐伯区湯来町では恵下谷から東郷山にかけて比較的多く, 森林も保護されているので絶滅の危険性は低い。

## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

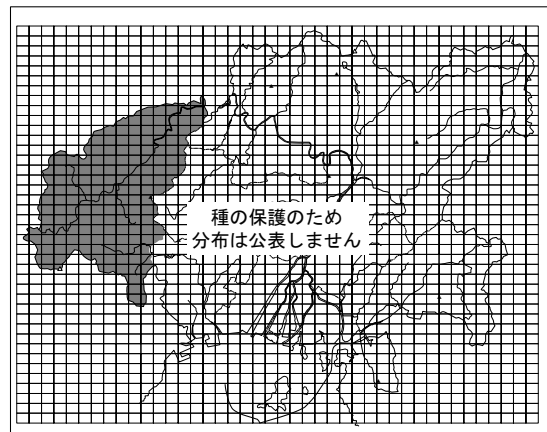
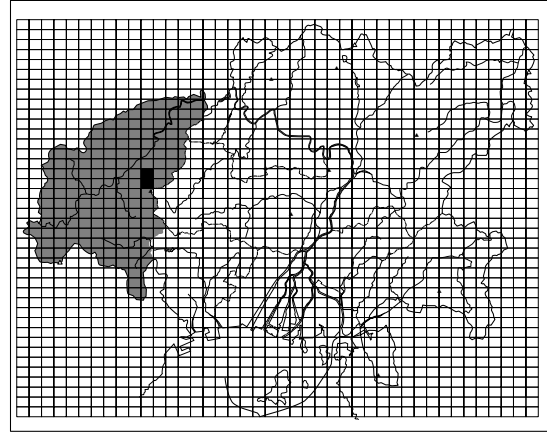
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ホソベリミズゴケ(コバノホソベリミズゴケ) (ミズゴケ科)

##### *Sphagnum junghuhnianum* ssp. *pseudomolle*

湿った溪谷で, 花崗岩や流紋岩など酸性火成岩類の岩壁に生育する。茎は直立するが, 岩壁などに生育している場合には垂れ下がる。密生して, しばしば直径が数10cmから1mもの大きな塊になる。茎は長さ10~15cm, ときに20cmにも達し, 枝を放射状につけ, オオミズゴケに比べると枝が細く, 先端が尖り, 柔らかい感じがする。茎につく葉は三角状の舌形で, 長さ1.2~1.6mm, 枝につく葉は卵形の披針形で, 長さ1.4~1.8mm, 著しく凹む。

本州(新潟県, 中部地方以西), 四国, 九州(屋久島まで)に不連続に分布し, 基本種は東南アジアに分布している。佐伯区湯来町の恵下谷や石ヶ谷峡では車道に沿う場所にも生育しており, 園芸用に採取される危険性がある。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

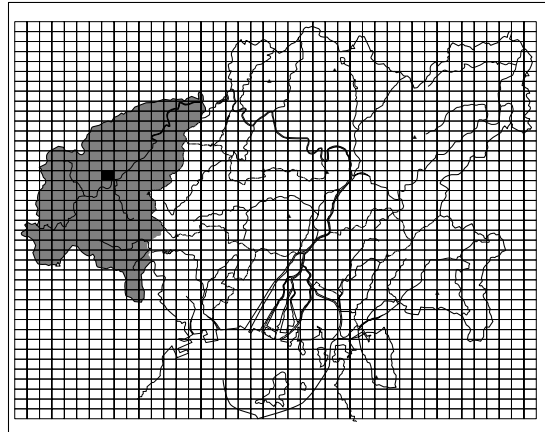
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■カミムラヤスデゴケ (ヤスデゴケ科)

##### *Frullania brotheri*

茎はうか立ち上がり長さ3~5cm, 赤褐色, 不規則に分枝し, 葉は茎の両側に並んで部分的に重なってつき楕円形。葉の下端が腹側に折れ曲がって袋状となり, こん棒状で横向きにつく。腹葉は大きく, 円形で先端は2裂し, 基部は耳状にふくらむ。

本州(近畿地方以西), 四国にまれに分布。県内では, 佐伯区湯来町石ヶ谷峡で最初に報告され(Seki 1961), その後廿日市市佐伯黒打峡でも見つかったが, 平成17年(2005年)に安芸太田町筒賀でも確認された。佐伯区湯来町の石ヶ谷峡では花崗岩岩峰かこうがんのコウヤマキ林下に生育していたが, 近年確認されていない。その環境はほとんど変わっていないので存在していると思われる。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

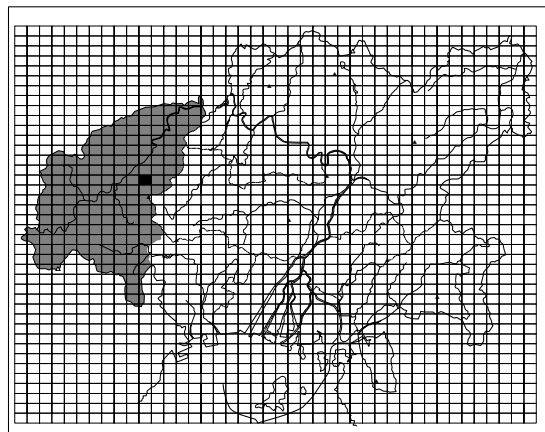
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■クマノチョウジゴケ (キセルゴケ科)

##### *Buxbaumia minakatae*

山地の腐木上に生育し, 配偶体はキセルゴケのように褐緑色ではなく, ほとんど目立たない。胞子体はキセルゴケより小形で, 高さ0.6~0.8mm, さく(胞子のある袋)はやや斜めに傾き, 円柱形で, キセルゴケのように団扇状ではない。

北海道, 本州, 四国にきわめてまれに分布し, 中国大陸, 朝鮮半島, シベリア, 北アメリカ東部に知られている。野口(1935)が佐伯区湯来町恵下山えげさんから報告して以来, 旧湯来町から報告はないが, 1970年代に採集されたという情報はあ



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■カビゴケ（クサリゴケ科）

##### *Leptolejeunea elliptica*

空中湿度の高い溪谷の常緑広葉樹やシダ植物の生きた葉の上に生育する。茎は葉面に密着して横にはい、長さ5~10mm, 黄緑色。葉は茎の両側に並び、楕円形で先端がやや尖る。葉細胞の中にとくに大形の細胞が5~10個点在し、そこに油体がつまっている。この油体にはエチルアニソールを含有し、ハッカのような芳香がある。

本州(福島県以南)、四国、九州、琉球列島に分布し、世界の亜熱帯から熱帯に広く知られている。佐伯区湯来町和田地区恵下谷と葛原地区の生育地は溪谷に沿うスギ植林地で、多量に生育している。竹原市仁賀ダム付近のカビゴケ生育地とともに県内でも1~2位を争うほどの生育量である。これらの生育地はスギ植林地なので、伐採されると消滅するおそれがある。

## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

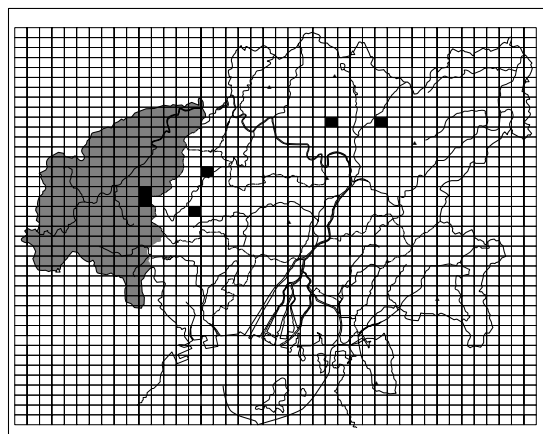
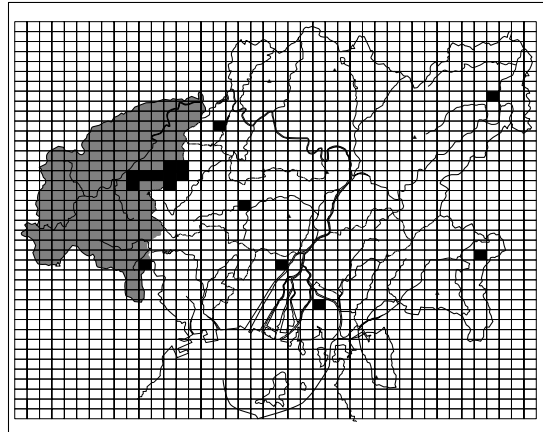
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ソリシダレゴケ（ハイヒモゴケ科）

##### *Chrysocladium retrorsum*

山地の空中湿度の高い溪谷や山頂部の樹木の枝や幹から垂れ下がるセン類。

本州(関東地方以西)~沖縄に分布。茎は5~20cmで所々から枝を分ける。黄緑色で部分的に黒褐色を帯びる。大気汚染に弱く、安佐北区や安佐南区から記録があるが、枝が短くて垂れ下がるほどではない。佐伯区湯来町の東郷山ではモミなどの樹幹に旺盛に生育している。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

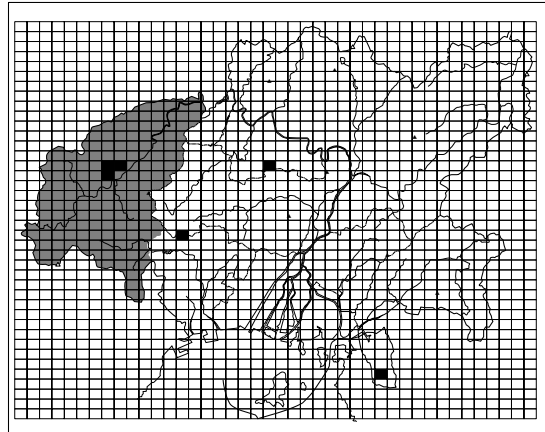
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■キノクニキヌタゴケ（ヒムロゴケ科）

*Palisadula chrysophylla*

山地の溪谷や山頂付近などの岩場で、ややオーバーハング気味の岩壁に群生する。カトウゴケと同属で、しばしば混生するが、本種の枝には葉があまり密生せず、カトウゴケのように球状に葉がつくことはない。顕微鏡で見ると、本種の葉はしだいに先が尖りカトウゴケのように急に尖らない。

本州（中部以西）、四国、九州に分布し、中国大陸南部に知られている。佐伯区湯来町の石ヶ谷峡や湯ノ山の花崗岩<sup>かこうがん</sup>地帯には比較的多い。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

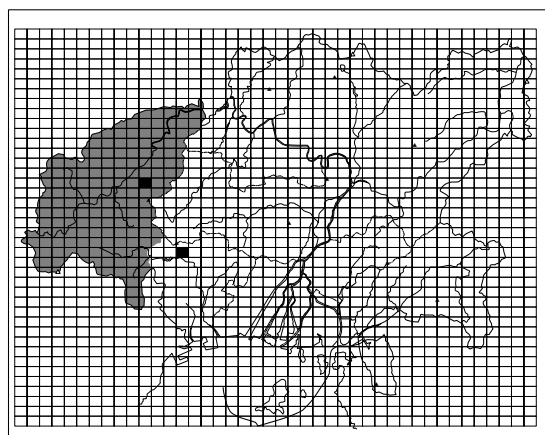
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■キセルゴケ(ウチワチョウジゴケ)（キセルゴケ科）

*Buxbaumia aphylla*

山地の腐植土上あるいは腐植をかぶった岩上などに生える。路肩などの不安定な立地に生育していることが多く、崩壊やほかの植物の生育のために、同じ場所で2度と見ることは難しい。

北海道～九州にまれに分布し、北半球の寒冷な地域に広く知られている。配偶体は微小で薄く地面に広がり、褐緑色、そこから高さ1～2cmのキセルのような孢子体が直立する。Horikawa (1955)や宮本正一氏が1939年に佐伯区湯来町<sup>え</sup>下<sup>げ</sup>山<sup>さん</sup>で採集した標本に基づいて報告して以来、旧湯来町から確認されていない。



## コケ植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

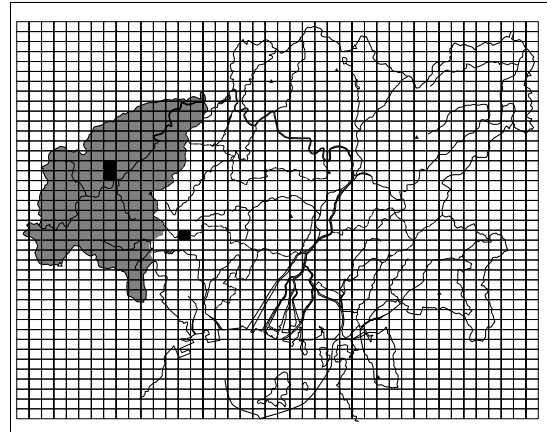
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■カトウゴケ（ヒムロゴケ科）

##### *Palisadula katoi*

自然度の高い森林中の花崗岩岩壁<sup>かこうがん</sup>で、ややオーバーハング状になった所に生育する。しばしば地衣類のレプラゴケを伴っている。一次茎は横にはい、二次茎は立ち上がり、3~6mmの高さ、密に葉をつける。植物体は光沢のある黄緑色で、しばしば赤味を帯びる。葉は卵形で、深く凹み、長さ1~2mm、先端は急に尖る。

本州(中部以南)、四国、九州にまれに分布し、中国大陸にも知られている。佐伯区湯来町の石ヶ谷峡では、車道に沿う花崗岩岩壁<sup>かこうがん</sup>に点々とあり、全国的に見ても本種の多い場所である。しばしば同属のキノクニキヌタゴケ(軽度懸念)を伴っている。



#### (4) 地衣類

旧湯来町では、地衣類が地域的にまとまって調査されたことがなく、中西・生塩(1961～1964)の断片的な報告に止まっている。弥栄ダム建設に伴う総合学術調査で、小瀬川の全流域の地衣類が中西稔、生塩正義、井上正鉄によって昭和52年(1977年)～53年(1978年)に調査され、佐伯町(現在、廿日市市)と旧湯来町の境界にそびえる大峯山の地衣類も調査された。頂上付近の資料は旧湯来町分、他の大部分は佐伯町側と見ても差し支えないであろうと思われる。中西・生塩・井上(1979)から大峯山の記録を見ると、「広島市の生物」で絶滅危惧となっているチヂレトコブシゴケ(採集地点の海拔1,010m)と「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」で絶滅危惧Ⅱ類となっているイワタケ(1,010m)がある。海拔高度と登山路から見て、これらの記録は旧湯来町側であると思われる。

旧湯来町からの地衣類は、「広島市の生物」で絶滅危惧とされているアンチゴケ、チヂレトコブシゴケ、ヘラガタカブトゴケで、いずれも情報不足であり、「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」で絶滅危惧Ⅱ類となっているイワタケを準絶滅危惧として追加したい。

湯来地区の調査による選定種の追加

イワタケ 準絶滅危惧

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

アンチゴケ 情報不足←絶滅危惧

変更理由：旧湯来町での生育状況が不明であるため

チヂレトコブシゴケ 情報不足←絶滅危惧

変更理由：旧湯来町での生育状況が不明であるため

ヘラガタカブトゴケ 情報不足←絶滅危惧

変更理由：旧湯来町での生育状況が不明であるため

湯来地区の調査で確認された選定種 (カテゴリ変更なし)

なし

## 地衣類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

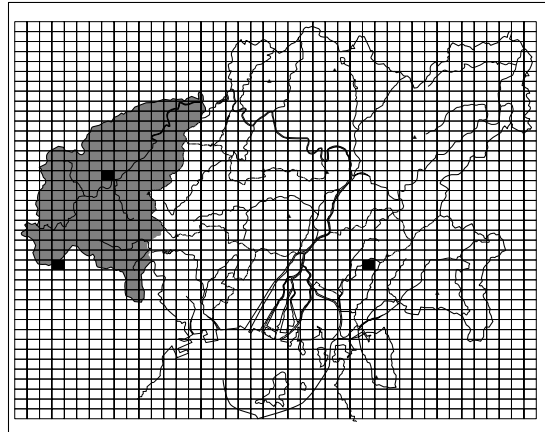
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■イワタケ（イワタケ科）

##### *Umbilicaria esculenta*

地衣体は葉状で、分裂せず単一で円形から楕円形、直径は5~10cm、中心の1か所で岩面に着く。背面は灰褐色で、腹面は暗黒色で偽根を密生する。子器がつくことはまれである。古来、食用地衣類として有名である。

北海道、本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、ロシア(沿海州)に知られている。佐伯区湯来町石ヶ谷峡の岩峰に点在している。佐伯区湯来町大峯山の生育地は、最近確認していない。



## 地衣類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

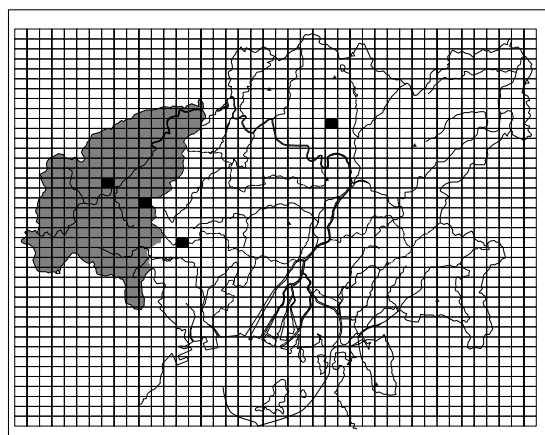
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■アンチゴケ（アンチゴケ科）

##### *Anzia opuntiella*

地衣体は葉状で多数の裂片がウチワサボテンのように連なり、直径3~5cmに広がる。裂片の腹面に海綿状の黒い組織があり、一見ネコの足の感じがする。本種の特徴は海綿状の組織がよく発達し、背面からでも認められることである。

北海道、本州、四国、九州に分布し、台湾、朝鮮半島、中国大陸(東北)に知られている。佐伯区湯来町の石ヶ谷峡から中西・生塩(1961)によって報告されているが、現状は不明である。環境が当時とあまり変わっていないので、現存していると思われる。安佐北区、安佐南区から記録されているが、最近急激に個体数が減少しておりほとんど見かけなくなった。



## 地衣類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

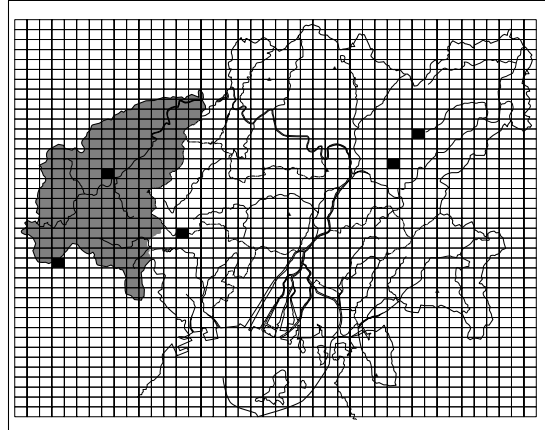
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■チヂレトコブシゴケ（ウメノキゴケ科）

##### *Cetrelia japonica*

自然度の高い森の中の樹皮あるいは岩上に生育する大形の葉状地衣類で、背面に擬盃点(地衣体内部の皮層を突き破って背面に出た小さな孔)がある。

北海道，本州，四国，九州に分布し，朝鮮半島，台湾，インドネシアに知られている。佐伯区湯来町では中西・生塩・井上(1979)によって大峯山から報告されたが，現状は不明である。安佐南区，安佐北区，佐伯区で記録されているが，近年，急激に個体数が減少している。大気汚染の影響と思われる。



## 地衣類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

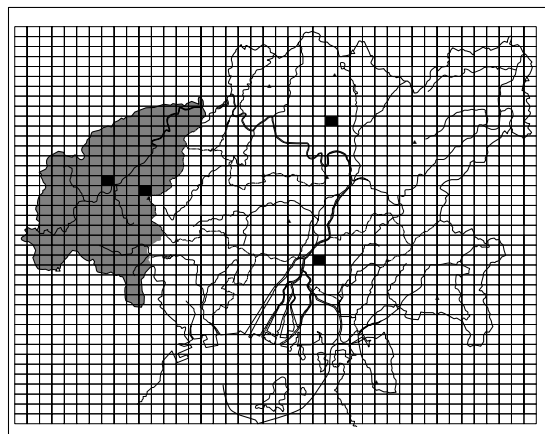
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ヘラガタカブトゴケ（カブトゴケ科）

##### *Lobaria spathulata*

山地の樹幹上に着生する大形の葉状地衣類で，葉縁にへら形の裂芽（地衣体の一部がはずれ無性生殖を行うもの）または小さい裂片をつけるのが特徴である。

北海道，本州，四国，九州に分布し，サハリン，台湾に知られている。佐伯区湯来町では中西・生塩(1962)によって，石ヶ谷峡と恵下谷から報告があるが，現状は不明である。安佐北区，東区でそれぞれ1か所記録されていたが，個体数の減少が著しい。これも大気汚染の影響であろう。





## (5) 藻類

藻類は現地調査及び文献調査を行った。「広島市の生物」で選定されたシャジクモ類は、水田やため池といった人の生活にかかわる水域に生育している。水田に生育する場合、年間を通じて水域が確保されることが必要である。そのため非灌漑期には圃場の一部にみられる溝などに生育していることが多い。ところが旧湯来町では水田の乾田化が進んでおり、シャジクモ類の生育環境がみられなかった。また、ため池も少なく、シャジクモ類は確認されなかった。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

なし

## (6) 菌類

旧湯来町の区域では、菌類の調査がほとんど行われておらず、報告もない。しかし、この地域は自然度の高い植生が多く、海拔高度も1,000mに達しているため、多様なキノコ類があると推察される。山手万知子氏によれば、東郷山頂上のブナ林で、ウスキブナノミタケを見たのが注目されるということであった。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

ウスキブナノミタケ 情報不足←準絶滅危惧

変更理由：旧湯来町での生育状況が不明であるため

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

なし

## 菌類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

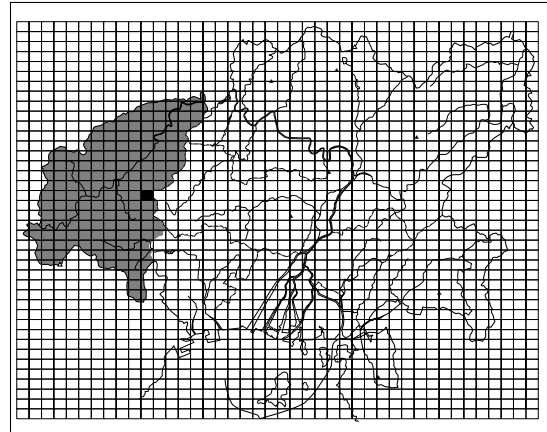
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ウスキブナノミタケ（キシメジ科）

##### *Mycena luteopallens*

前年に落下して地中にあるブナの果実に寄生する小形のキノコで、傘の直径は0.5~0.7cmと小さく、初めは卵形や円錐形で、後に釣鐘形になり、平らに開く。傘の表面は黄色ないし淡黄色で、平滑、湿っていると周辺に条線が見られる。

北海道、本州、四国、九州のブナ林に分布し、北アメリカ北部にも知られている。県内では中国山地のブナ林でややまれに見られる。



## (7) 群落

旧湯来町の区域は、大峯山(1,039.8m)をはじめとして、中生代の堆積岩類を基盤とする栄養分の豊富な土壌からなる海拔900mを超える山地がある。そのため人間の活動による影響をあまり受けなかった山地の山頂付近には、わずかにブナ林(クロモジブナ群集の森林)が残っている。また東郷山の斜面中腹にはモミ林(シキミーモミ群集の森林)が残されており、平地に広がっていた常緑広葉樹林と山地に広がっていた落葉広葉樹林の移行帯を示す森林として貴重である。

石ヶ谷峡、湯ノ山など北西部の花崗岩<sup>かこうがん</sup>地帯には貧栄養な場所に成立するアカマツ林(シノブーアカマツ群集)やコウヤマキ林(クロソヨゴーツガ群集コウヤマキ亜群集)が残っている。

湯来地区の調査による選定種の追加

クロモジブナ群集 絶滅危惧<sup>ぐ</sup>

クロソヨゴーツガ群集コウヤマキ亜群集 準絶滅危惧<sup>ぐ</sup>

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

シキミーモミ群集 軽度懸念←準絶滅危惧<sup>ぐ</sup>

変更理由：面積も広く、保護されている林分もあるため

湯来地区の調査で確認された選定種 (カテゴリ変更なし)

シノブーアカマツ群集 軽度懸念

## 群落

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

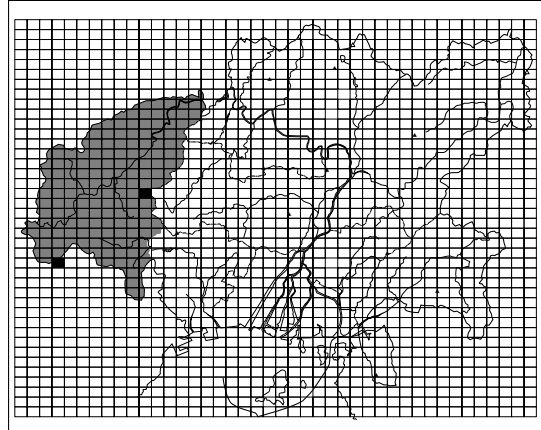
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■クロモジブナ群集

*Lindero umbellatae*—*Fagetum crenatae*

高木層にブナ、ミズナラ、コシアブラなど、低木層にクロモジ、タンナサワフタギ、オオカメノキ、コアジサイなどが優占する落葉広葉樹林。個体数は多くはないが、オオイワカガミを伴うことが多く、オオイワカガミ亜群集に相当する。

東郷山、大峯山の頂上付近にわずかに存在し、群落としての存続が危ぶまれている。中国山地の脊梁山脈から離れた位置にあるブナ林として貴重な存在である。



## 群落

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

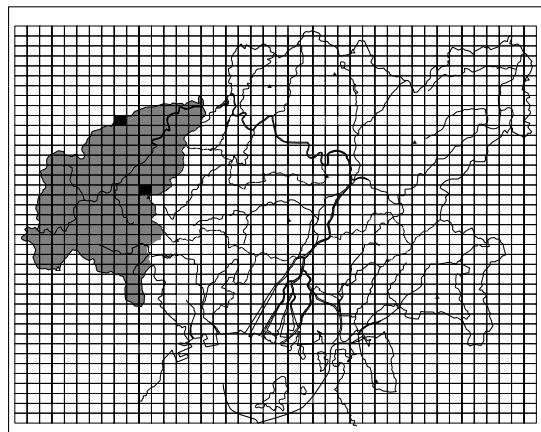
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■クロソヨゴツガ群集コウヤマキ亜群集

*Ilici*—*Tsugetum sieboldii*, subass. *Sciadopitys verticillata*

高木層にコウヤマキが優占する山地針葉樹林。ヒノキ、ツガを伴い、クロソヨゴ、ダイセンミツバツツジ、オオイワカガミを標徴種とする。

恵下谷山国有林のコウヤマキ群生地は学術参考保護林として全国的にも著名である。石ヶ谷峡の岩峰にもコウヤマキが点在している。これら二つの地域は国有林の保護林と県指定の名勝並びに自然環境保全地域であって、群落が消滅する危険性は低い。ただ、いずれも面積が狭いので、自然遷移などの影響が憂慮される。天上山林道に沿うコウヤマキ群生地は面積も大きく、県内最大のものであるが、何らの保護対策もとられていないので危険性が高い。



## 群落

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

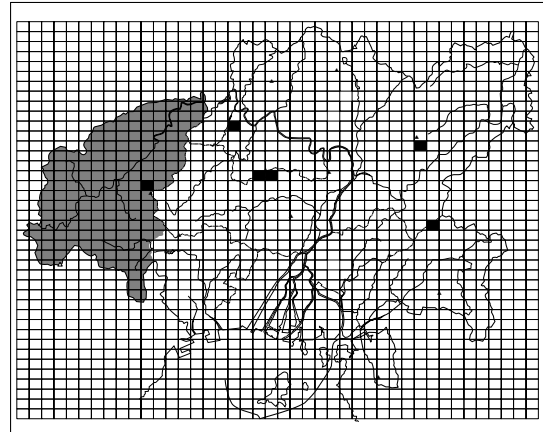
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■シキミーモミ群集

##### *Illicio-Abietetum firmae*

高木層にモミ、アカガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシなど、亜高木層にシキミ、ソヨゴ、サカキ、ヤブツバキなど、低木層にヒサカキ、ヤブニッケイ、ミヤマシキミなどからなる常緑広葉樹林の1型である。この森林型をいわゆる中間針葉樹林に位置づける説もある。

東郷山の北斜面に位置する恵下谷山国有用林の学術参考保護林の主体をなし、「四本スギ」もこの群落の中にある。この森林群落をシキミーモミ群集とすべきかどうか、今後の研究課題である。面積も広く、よく保護された森林であるので、軽度懸念のランク付けとした。



## 群落

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

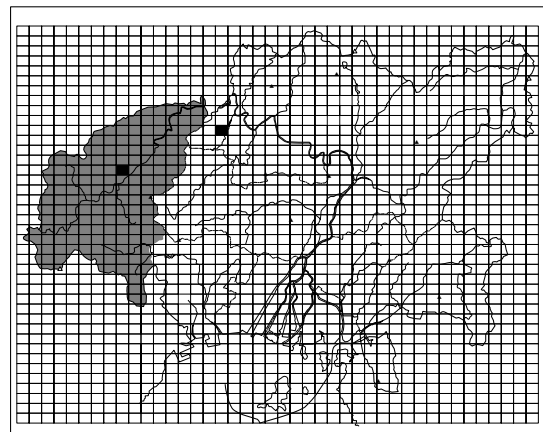
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■シノブーアカマツ群集

##### *Davallio-Pinetum densiflorae*

露岩地あるいは急傾斜地に発達するアカマツ林で、いわゆるアカマツ二次林ではなく、アカマツの原植生にあたる。高木層はアカマツ、ツガ、ヒノキ、時にコウヤマキも混生する。低木層にツツジ科が多いのが特徴で、ゲンカイツツジやベニドウダンのような貴重種もあり、コバノミツバツツジ、ダイセンミツバツツジ、ホツツジ、ネジキ、ヤマツツジ、アクシバ、スノキなどを伴う。林床にハナゴケ属の地衣類が多いのも特徴である。岩上にはシノブ、セッコク、マメツタラン、コケシノブ属などが見られる。

湯の山温泉の背後の山地や石ヶ谷峡に広くみられ、面積も広く、県自然環境保全地域として保護されているので軽度懸念のランク付けとした。佐伯区湯来町の代表的な植生といえよう。



## (8) 巨樹

- ① 久日市きかいちのムクロジ(広島市天然記念物, 佐伯区湯来町大字下字長縄836 大歳神社境内)  
樹種 ムクロジ *Sapindus mukurossi* (ムクロジ科)

樹高は湯来町教育委員会(2005)「湯来町の文化財めぐり」(以下, 湯来町(2005)とする)では約30m, 滝口進(2002)「広島県の巨樹, 増補改訂Ⅱ」(以下, 滝口(2002)とする)では20.0mとなっている。今回の調査では, 樹高の測定をしなかったため, 再調査がのぞまれる。近くにある電柱の高さから推定すると, 20m弱と思われる。根元は根が露出して, 高さ約75cmの盛り上がった状態になっているが, これは, 過去に太田川の洪水によって根部が洗われて露出したものである。主幹はほぼ垂直に伸び, 根回りは9.54m(湯来町(2005)では9.5m), 地上1.2m高での幹囲は4.87m(湯来町(2005)の胸高幹囲では4.5m, 滝口(2002)の胸高幹囲(1.3m高)では4.2m), 地上1.6m高では4.22mである。枝張りには南から50°西の方位(S50°W)へ10.9m, 南から70°東の方位(S70°E)へ10.9m, 北から40°西の方位(N40°W)へ7.2mである。

湯来町(2005)によれば, 大歳神社は正徳5年(1715年)佐伯郡社寺に「大歳大明神」として載っているため, この時期に神木として植樹されたものと推定し, 樹齢推定300年余としている。滝口(2002)によれば, 久日市きかいちのムクロジは県内第1位である。

- ② 四本スギ(旧湯来町天然記念物, 佐伯区湯来町和田東郷山 恵下谷山国有林212林班(に)小班)

広島市天然記念物としての指定については, 現在広島森林管理署と広島市教育委員会で協議中である。

樹種 スギ *Cryptomeria japonica* (スギ科)

四本スギは地上3.6mで4本に分かれている。広島樹木医会(2002)は「四本杉は3.6m地点で4本立ちになっているが, この杉が途中で折れて4本萌芽して現状の状態になったのか, 4本の杉が結合して株立ちになったのか, 今回の調査では結論の出る調査までには至っていない。幹の外観変化だけで判断すると間違いをおこすので, 正確な同定は遺伝子レベルの調査が必要である」と述べている。滝口(2002)は県内のスギ巨木の順位づけにあたって, 株立と単木を区別している。この方法は妥当なものと思われる。それによると, 県内第1位の株立スギは, 北広島町戸河内の「梶の木の大スギ」(県天然記念物)で胸高幹囲10.2m, 四本スギは9.9mで第2位, 第3位は庄原市比和町八幡神社の9.3mである。広島樹木医会(2002)では幹周囲11.5m(地上よりの高さは不詳)とあり, 今回の調査では, 根際幹囲は14.8m, 地上より1.5m高で11.8mである。これらから判断すると, 株立スギでは県内最大となる。4本に分かれた幹のそれぞれの幹周囲や直径の測定は危険なため, 今回は実施しなかった。湯来町(2005)では「それぞれが直径1m余ある」とのみあり, 滝口(2002)にも広島樹木医会(2002)にも4本の詳細なデータはない。樹高について

は、広島樹木医会(2002)及び湯来町(2005)では46m、滝口(2002)では30.0mとなっている。現地の地形から樹高の測定は困難であるが、今回の調査で歩測とクリノメーターによる樹幹頂部への角度から、45~50mと推定された。県内のスギの樹高としては最高のものであろう。

今回の調査で、4本に分かれた幹の方位を測定した。その結果、東(E)(斜面上部)、北から50°東の方位(N50°E)、北(N)、南から50°西の方位(S50°W)(斜面上部)で、枝張りは、斜面上部へ向かって南から50°西の方位(S50°W)へ8.8m、斜面上部へ向かって北から60°東の方位(N60°E)へ10mであった。

③ 重光神社のカヤの木(広島市天然記念物、佐伯区湯来町大字白砂<sup>しろさ</sup>1280 重光神社境内)

樹種 カヤ *Torreya nucifera* (イチイ科)

根際幹囲は5.48m(湯来町(2005)では4.8m)、地上1.2mでの幹囲は3.82m(湯来町(2005)の胸高幹囲は3.5m)、枝下高は5mで、この位置から大きな枝が張り出している。枝張りは、北から40°東の方位(N40°E)へ10.8m、北から10°西の方位(N10°W)へ11.2m、南から40°東の方位(S40°W)へ8.4m、南から50°東の方位(S50°E)へ7.2mである。樹高は湯来町(2005)では約20mとなっているが、クリノメーターの角度からは20mをやや上回ると推定される。

県内で最大のカヤは廿日市市津田の「津田の大カヤ」(県天然記念物)で胸高幹囲5.7mに達している。本件のカヤは県内の順位では第8位に相当する。

④ 栗屋郷のトチの木(旧湯来町天然記念物、佐伯区湯来町多田大畑 栗屋郷川沿い)

広島市天然記念物として指定準備中。

樹種 トチノキ *Aesculus turbinata* (トチノキ科)

この付近には、トチノキの巨樹が3本あるが、最大のもは樹高約25m、根際幹囲約10m、胸高幹囲6.1mで、県内第2位の大きさである。

⑤ 恵下谷のモミ(未指定、佐伯区湯来町和田恵下谷山国有林 林道沿い)

樹種 モミ *Abies firma* (マツ科)

樹高約35m、胸高幹囲5.15m。

湯来町(2005)では、「昔この地域に恵下谷集落があり、その入口に近年まで祠があったので、神木かと思われる」と述べている。このモミは滝口(2002)には記録されていないが、県内では第8位に相当する。かつての恵下谷の原植生をとどめる貴重な存在である。



## (9) 哺乳類

本調査では鍾乳洞内で休息中のテングコウモリ1群15個体を確認した。本例は県内に存在する最大個体数の記録である。テングコウモリは鍾乳洞などの洞窟と樹洞の両方を休息洞として利用するとされているが、県内での確認は洞窟からのみである。本例鍾乳洞はレンズ状石灰岩中に形成された小規模なものであるが、テングコウモリの個体数が多く生息維持に重要な鍾乳洞であると考えられる。また、この鍾乳洞からはコキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリも確認した。「広島市の生物」で情報不足に選定したコウモリ類のうちユビナガコウモリ、オヒキコウモリ、コテングコウモリは確認できなかった。森林性のコテングコウモリは、東郷山山頂周辺などに残るブナ林帯から確認される可能性が高い。

ニホンモモンガはブナ林帯において痕跡を確認した。また、ヤマネは保護個体の記録により確認した。

ツキノワグマは山林内において痕跡を確認した。生息域を分断する大きな集落や道路が少なく、旧湯来町全域に生息していると考えて差し支えないであろう。

「広島市の生物」では環境指標種として、ムササビを挙げた。生息に必要な広葉樹とスギ林が広範囲に存在するため、ツキノワグマ同様に町の全域に生息していると考えられる。

「広島市の生物」では良好な水辺環境に依存する哺乳類としてカワネズミを選定したが、本調査では確認できていない。しかしながら、東郷山をはじめ旧湯来町の山々には広葉樹林が比較的広範に残されており、川岸が自然のまま残された溪流も多く存在するため、今後確認される可能性が高い。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

コキクガシラコウモリ 情報不足

テングコウモリ 情報不足

ニホンモモンガ 情報不足

ヤマネ 情報不足

ツキノワグマ 情報不足

ニホンイタチ 情報不足

ムササビ 環境指標種

哺乳類

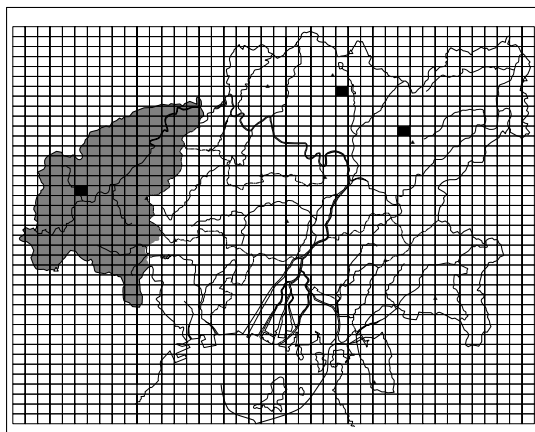
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■コキクガシラコウモリ (翼手目 キクガシラコウモリ科)

*Rhinolophus cornutus*

前腕長40mm前後、体重7g前後で、幅が広い翼を持つ洞窟性小型コウモリ。全身が茶褐色であるが、飛膜の方が色が濃く、体躯部分の体毛は比較的白っぽく見える。ほぼ全国に分布し、鍾乳洞や廃坑などの洞窟をねぐらとして利用する。洞窟内では数百頭単位の群れを作ることも多い。ねぐらとして利用する場所は、他の洞窟性コウモリより暖かい深部を選ぶ傾向がある。森林内で採食し、開けた空間へは出たがらないため、ねぐら場所の洞窟は採餌場所の森林内に存在、もしくは隣接している。



哺乳類

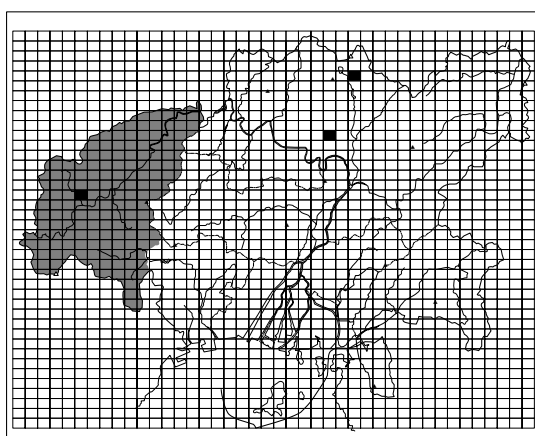
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■テングコウモリ (翼手目 ヒナコウモリ科)

*Murina leucogaster*

前腕長42～45mm前後、体重10～15g程度。鼻孔部が管状に突出し、テングコウモリの名の由来となっている。比較的幅が広い翼を持ち、腿間膜の背面には全面に背部と同様の長い毛が密に生えている。背面の刺毛は先端が金属光沢を持つ黄色で、全体として灰色から黄褐色に見える。森林性のコウモリで、ねぐら場所として洞窟と樹洞のどちらをも使うことが知られているが、県内では樹洞からの報告はない。



哺乳類

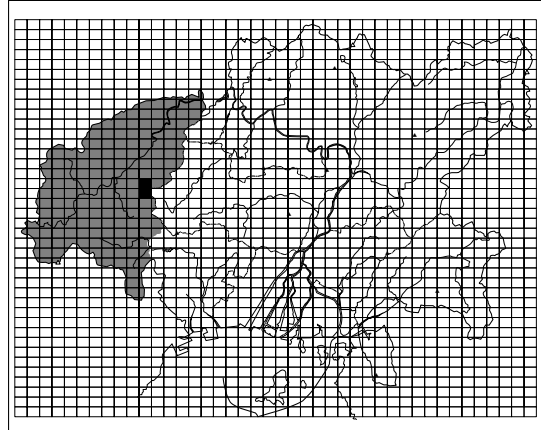
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ニホンモモンガ（げっ歯目 リス科）

*Pteromys momonga*

ムササビのように前後肢の間に発達させた皮膜を広げ、滑空する小型のリスの仲間。頭胴長は17cm、尾長は12cmほどにしかならない。県内では1993年に初めて確認された。それまでは小型で動きがすばやい上に、夜行性であることが重なり存在が明らかにされていなかった。生息環境として、スギやモミが混生するブナ林を好むと考えられる。県東部からの報告はない。



哺乳類

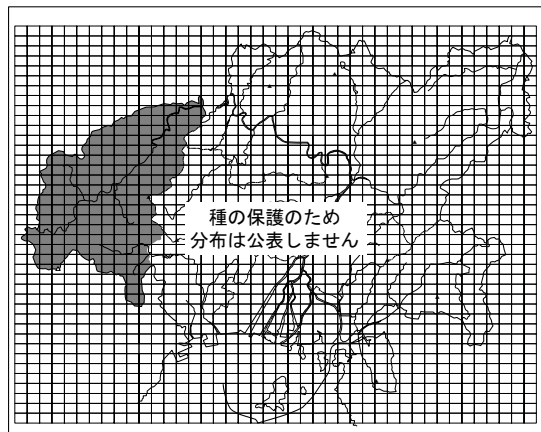
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ヤマネ（げっ歯目 ヤマネ科）

*Glirulus japonicus*

頭胴長7cm、尾長5cm、体重20g程度の小型の齧歯類。ほぼ全身が黄土色の毛に覆われ、首から臀部にかけ1本の茶褐色の帯がある。樹上生活に特化し、移動には枝先を伝い歩く。昆虫を主食とするが、木の実などを食べることも多い。樹洞に苔を持ち込みねぐらとし、その中でボール状に丸まって冬眠する。気温の低下に敏感に反応し、半年近くを冬眠してすごす。県東部からの報告はない。



## 哺乳類

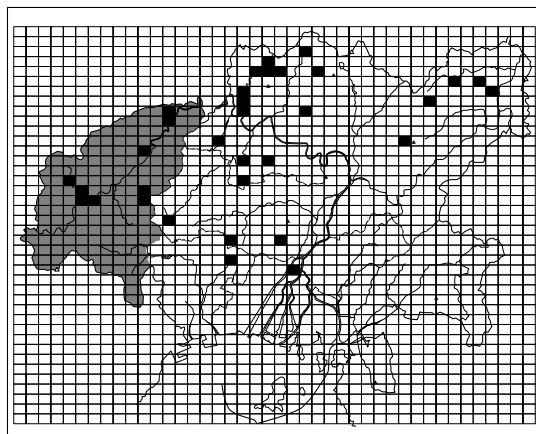
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ツキノワグマ（食肉目 クマ科）

##### *Selenarctos thibetanus*

アジアに広く分布する小型のクマで、頭胴長は1.3m程度、体重は雄が70～80kg、雌では50～60kg程度である。日本には本州、四国、九州に分布していたが九州では絶滅、四国でも数十頭しか生息していないと考えられている。本州全体では絶滅の危険はないと考えられるが、西中国山地の個体群は危機的状況にあるといっている。ほぼ全身が黒い毛に覆われ、胸に三日月型の白斑があることが多いことからツキノワグマと呼ばれる。



## 哺乳類

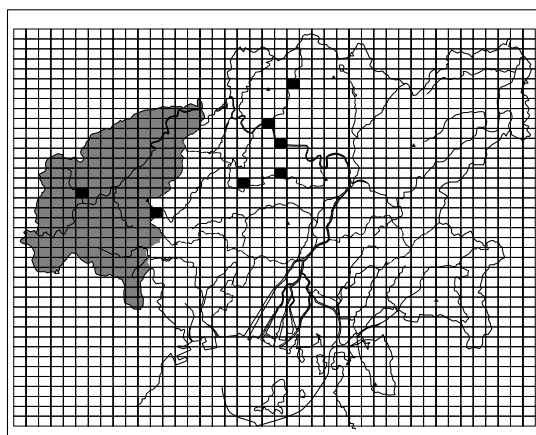
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ニホンイタチ（食肉目 イタチ科）

##### *Mustela itatsi*

体躯は細長く、四肢が短い。国内産哺乳類の中では性的二形としての体格差が最も大きく、雌に対して、雄の大きさは頭胴長で約2倍、体重だと5倍もの差がある。頭胴長に対する尾の長さ(尾率)が50%を超えることはなく、50%を超える尾率を持つタイリクイタチ(移入種)との区別は容易である。雄は護岸されていない水辺環境を好み、カエルや魚類、ムカデなどを好んで捕食することが知られている。また、雄と比べ雌の発見例が極端に少なく、雄とまったく異なった生活パターンを有している可能性が指摘されている。



## (10) 鳥類

東郷山や、大峯山、天上山などの900mから1,000mの山々には比較的良好な広葉樹林が残されており、ヤマドリやアオバト、クロツグミ、ゴジュウカラなどを確認した。また、それらの鳥類を餌とするクマタカの姿も見られた。秋の渡りの時期には大峯山の上空でノスリやハイタカ、ハリオアマツバメなどの渡りを確認した。一方、佐伯区湯来町麦谷地区門出口や和田地区の溪畔にはみごとなスギの人工林が見られるが、広葉樹が少ないので、溪畔のスギ林に生息していることが多いヤイロチョウやサンコウチョウ、クロツグミなどの生息が確認できなかった。これらの林にはヤマセミ、ミソサザイ、オオルリなどが生息していた。また、1991年にヤイロチョウの巣立ち直後の雛が保護された佐伯区湯来町多田地区でも、今回の調査ではヤイロチョウの生息を確認できなかった。比較的良好な広葉樹林が残されている佐伯区湯来町多田地区本多田ではジュウイチやカッコウ、ホトトギスなどの托卵鳥を確認し、この地区にはこれらの托卵鳥の宿主となるウグイスやオオルリ、モズなども繁殖している。

水辺の鳥類としては、<sup>みのち</sup>水内川や八幡川の支流にはカワガラスやヤマセミ、カワセミなどの溪流性の種が見られ、冬季には魚切ダムの上流でオシドリを確認した。

また、今回の調査では確認できなかったが、聞き取り調査により、サンコウチョウとアカショウビンが<sup>しらさぎ</sup>白砂地区上<sup>ゆずりは</sup>欄で確認されている。また、アオバズクが和田地区湯ノ山で、フクロウが伏谷地区大畑で確認されている。

今回の見直しでは選定種の追加はなかったが、前回調査では環境指標種に選定されていたアオバズク、フクロウの2種を情報不足にカテゴリを変更した。

アオバズクとフクロウは営巣場所となる大径木の樹洞が少なくなっているため、市域における両種の繁殖個体数が減少傾向にある。このため、カテゴリの変更を行った。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

アオバズク 情報不足←環境指標種

変更理由：餌となる大型昆虫が生息する農耕地や、営巣場所となる樹洞を有する大径木が減少しているため、市域における繁殖個体数が減少傾向にある

フクロウ 情報不足←環境指標種

変更理由：餌となるネズミ類やカエルが生息する農耕地や、営巣場所となる樹洞を有する大径木のある林が減少しているため、市域における繁殖個体数が減少傾向にある

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

ハイタカ 情報不足

クマタカ 情報不足

ヤマドリ 情報不足

## 鳥類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

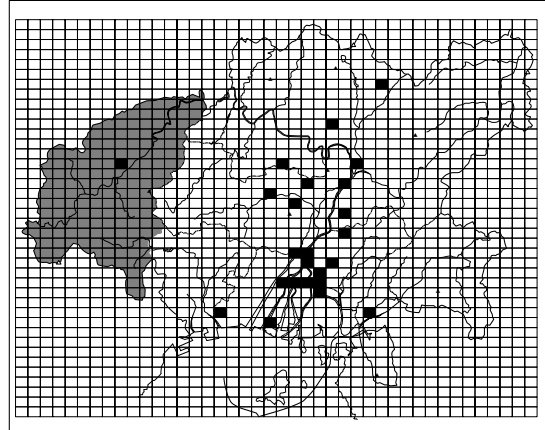
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■アオバズク（フクロウ科）

##### *Ninox scutulata*

夏鳥として日本に渡来し、農耕地や民家のそばの林で繁殖する。全長27～30cm，体は黒褐色で目は金色。コウモリ，昆虫などを餌とする。

市域では安佐北区や東区，佐伯区湯来町でも繁殖が確認されているが，長年繁殖していた場所で繁殖しなくなった例も増えている。営巣している大径木や建物の保全が重要である。



## 鳥類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

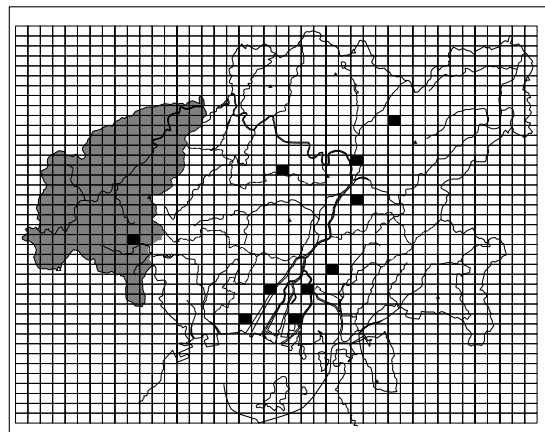
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■フクロウ（フクロウ科）

##### *Strix uralensis*

九州以北に留鳥として生息し，社寺林や山林に生息する。全長48～52cm，耳羽はなく，体には灰白色，黒色，褐色の複雑な斑紋がある。ネズミやカエル，小鳥などを餌とする。

市域中心部に近い社寺林にも生息しているが，繁殖記録は少ない。繁殖には大きな樹洞が必要であるが，大きな樹洞のある大径木が減少しているので，繁殖個体数の減少が懸念される。



## 鳥類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

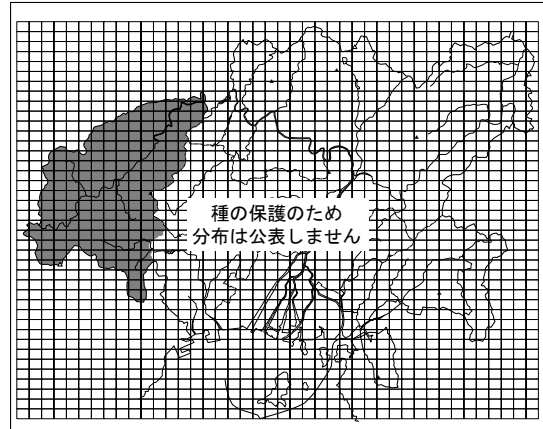
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ハイタカ (タカ目 タカ科)

##### *Accipiter nisus*

本州中部以北の山地で繁殖し、県内には冬鳥として渡来し越冬する。メスは全長約39cm、オスは全長約31cm。黒褐色の背中に橙色の腹。メスの腹は白色で褐色の横縞がある。アトリやカシラダカなどの小鳥を捕らえて餌とする。

冬季には市域の農耕地や山林で見られるが、繁殖期には確認されていない。



## 鳥類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

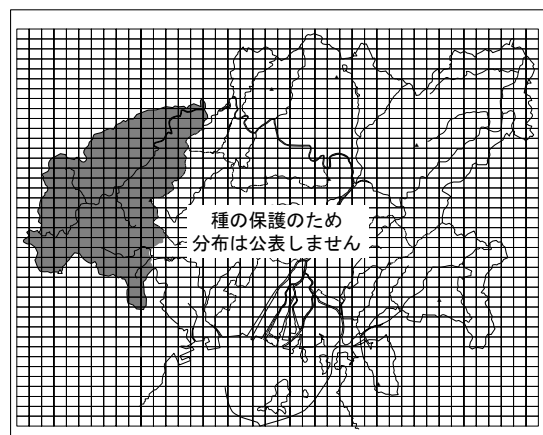
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■クマタカ (タカ目 タカ科)

##### *Spizaetus nipalensis*

国内に留鳥として生息する。メスは全長約80cm、オスは全長約70cm。翼開長140~165cm。背中は黒褐色で、腹は白っぽい。後頭部に冠羽がある。ノウサギやヤマドリ、ヘビ類などを捕らえて餌とする。

市域では安佐北区と佐伯区に生息し、繁殖も確認されている。個体数は少ない。営巣に必要な大木のある森林や、営巣地周辺の環境を保全することが重要である。





## 鳥類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

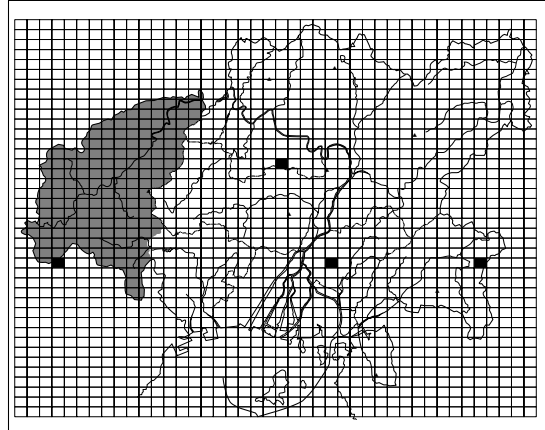
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ヤマドリ (キジ目 キジ科)

##### *Phasianus soemmerringii*

本州，四国，九州に留鳥として生息する。オスは尾が長く全長約125cmで赤銅色。メスは尾が短く全長約55cmで茶褐色。植物の種子や葉，昆虫などを餌とする。

市域の山林に生息しているが，個体数は少ない。



## (11) 爬虫類

今回の調査では、以前からの調査を含めて、シマヘビ、カナヘビを確認した。

爬虫類は生息場所を特定することが難しく、確認は偶然性が大きい。また、餌となる両生類、特にカエル類の調査が充分できていないので、普通種と考えられる種の状況も不明である。

前回の調査ではタワヤモリとタカチホヘビが選定されているが、タワヤモリは瀬戸内海沿岸に近い岩場の節理面を主な生息場所としており、湯来町域は生息に適さないと考えられる。逆に、タカチホヘビは比較的自然度が高い環境に生息することから、生息の可能性が残されている。いずれにせよ、個体の確認ができていないので、カテゴリは変更しなかった。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

なし

## (12) 両生類

今回の調査では、以前からの調査を含めて、オオサンショウウオ、ブチサンショウウオ、トノサマガエル、タゴガエル、シュレーゲルアオガエルを確認した。早春の調査では、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ニホンヒキガエルの産卵確認を行なったが、成体・卵塊とも発見できなかった。旧湯来町の環境は急峻な場所に水田が多く、特に山田では、最上部がイノシシ被害を防ぐためのトタン柵が張り巡らされており、産卵場への移動が困難になっていることが多い。また、移動可能な場合でも、最上部は放棄水田となり、草地化し、産卵のための水溜まりもほとんど無い状態が多かった。また、平地では大型機械導入のための冬季の乾田化がすすんでおり、産卵場となる環境はほとんどなかった。逆に、<sup>さんろく</sup>山麓部は自然度が高く、小さな水溜りなどを利用してヤマアカガエル、ニホンヒキガエルは繁殖しているのではないかと推測された。

前回の調査ではニホンヒキガエル、オオサンショウウオ、ニホンアカガエル、ヌマガエルが選定されている。前述したように、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエルは確認できなかった。オオサンショウウオは水内川<sup>みのち</sup>の下流域で確認したが、全長が60~131cmと大きく老成した個体と考えられ、卵塊や幼生は発見されなかったことから、産卵場の喪失に伴い、絶滅直前の状況にあるのではないかと推測された。ヌマガエルは比較的温暖な瀬戸内沿岸に生息することから、旧湯来町では生息していないものと推測された。

検討の結果、旧湯来町を除く市域での状況も考慮してトノサマガエルを環境指標種に選定した。

トノサマガエルは水田や用水路などを主な生息環境としているが、基盤整備事業や用水路のコンクリート化に伴い、生息環境を失い、個体数が減少している。トノサマガエルは水田やハス田という環境を利用して個体数を維持していたと推測されるが、水田の喪失により、また、稲作の作付け方法の改変(田植えが時期的に早くなった)により生活史がかみ合わなくなっているのではないかと推測される。環境が復活し、安定すれば、個体数の回復も見込める。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

トノサマガエル 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：個体数が減少しているため

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

オオサンショウウオ 準絶滅危惧<sup>△</sup>

## 両生類

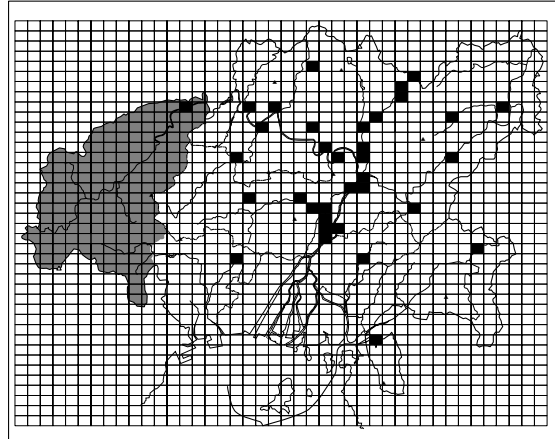
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■オオサンショウウオ（サンショウウオ目 オオサンショウウオ科）

##### *Andrias japonicus*

本州の岐阜県以西、四国、大分県に分布する。全長が1mを越える個体もいる。繁殖している河川が全国的に減少しており、市域の確実な繁殖地は不明である。佐伯区湯来町では、水内川みのちの下流域で確認した。老成した個体がほとんどで、繁殖していないことから、この状態が続けば絶滅の可能性が高い。また、河川構造物が遡上・移動を妨げたり、袋小路に入り込み、出られなくなり、水位が下がって死滅した個体が見られた。



### (13) 淡水魚類

今回の調査では、以前からの調査を含めて、スナヤツメ、ウナギ、ゴギ、サツキマス降海型(アマゴ河川残留型)、アユ、ウグイ、タカハヤ、カワムツB、オイカワ、カマツカ、ムギツク、ズナガニゴイ、コイ、ギンブナ、シマドジョウ、イシドジョウ、アカザ、オヤニラミ、ドンコ、カワヨシノボリを確認した。この中でゴギ、アマゴ、アユは放流個体だと思われる。

前回の調査ではゴクラクハゼ、シラウオ、ヤリタナゴ、イシドジョウ、アカザ、スミウキゴリ、カジカ、ワカサギ、サツキマス、アブラボテ、メダカ、オヤニラミ、ウキゴリ、スジシマドジョウ、ドンコ、スナヤツメを選定しているが、ゴクラクハゼ、シラウオ、スミウキゴリ、ウキゴリ、ワカサギは汽水域上限近くに生息することから、旧湯来町の調査域には生息しないと考えられる。また、ヤリタナゴ、アブラボテは生きた淡水二枚貝に産卵することから、淡水二枚貝の生息しない水内川には分布していないものと思われる。逆にイシドジョウ、アカザ、サツキマス、オヤニラミ、ドンコ、スナヤツメは確認していることから、未確認魚種はカジカ、メダカ、スジシマドジョウの3種である。

近年の河川状況からすると、カジカが生息する可能性は低く、メダカ、スジシマドジョウは個体数は少ないものの、生息している可能性は高い。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種 (カテゴリ変更なし)

イシドジョウ 絶滅危惧

アカザ 絶滅危惧

サツキマス 準絶滅危惧

オヤニラミ 準絶滅危惧

ドンコ 軽度懸念

スナヤツメ 絶滅危惧

## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

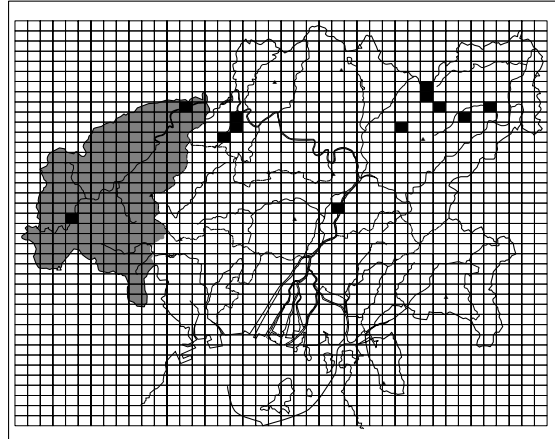
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■イシドジョウ（コイ目 ドジョウ科）

##### *Cobitis takatsuensis*

西日本の中・上流域に分布し、中国，四国，九州から報告がある。全長6～7cm，体色は黄色に黒い体側斑紋がある。淵尻の礫底の間隙に生息する。

広島県では、太田川水系と江の川水系に局限される。水内川水系では、下流の下地区小原と中流の多田地区来栖根より確認されている。個体数は極めて少ない。2004年の台風14号で土砂が流れ込み、礫間を埋めたため、河川環境が一変した。



## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

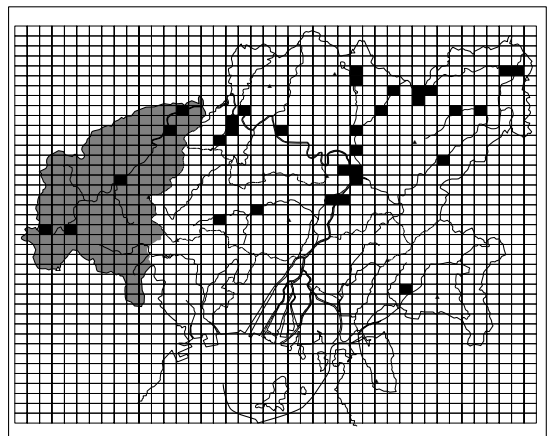
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■アカザ（ナマズ目 アカザ科）

##### *Liobagrus reinii*

宮城県と秋田県を北限とする本州，四国，九州に分布し，河川の中・上流域の瀬の礫底に生息している。全長10～15cm，体色は赤褐色で，夜行性。

太田川水系に生息し，八幡川や瀬野川ではみられなくなった。太田川の支流の水内川では，下流の下地区小原から中流の水内，上流域支流の本多田川より確認している。水量の減少，水質汚染，農薬等の影響で著しく減少している。



## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

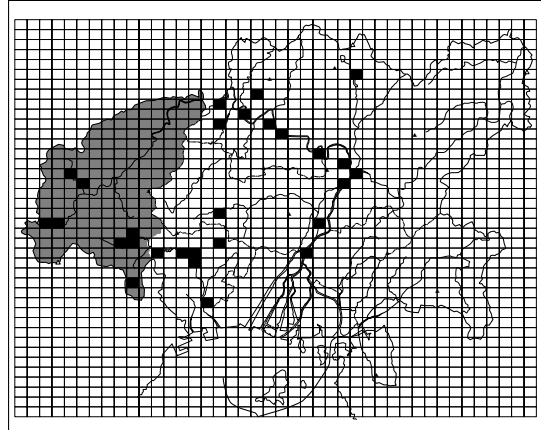
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■サツキマス（サケ目 サケ科）

##### *Oncorhynchus masou ishikawae*

伊勢湾，大阪湾，土佐湾，瀬戸内海で確認されている。海に降海したものをサツキマス（降海型），湖に降湖したものをサツキマス（降湖型）とし，一生河川で成長するものを（サツキマス 河川残留型）と区別しているが，全て同種。

佐伯区湯来町では水内川漁協によって，水内川の中・上流域にアマゴが放流されており，天然個体とは区別がつかなくなっている。降海型は下地区小原で確認した。また，以前からの調査では，中国電力の高山川取水口直下まで，また降水量の多い年には井手が原堰直下まで遡上している。降海型は全長25～35cm，0.5～1kg，晩秋に降海し，翌年5～6月に母川回帰する。



## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

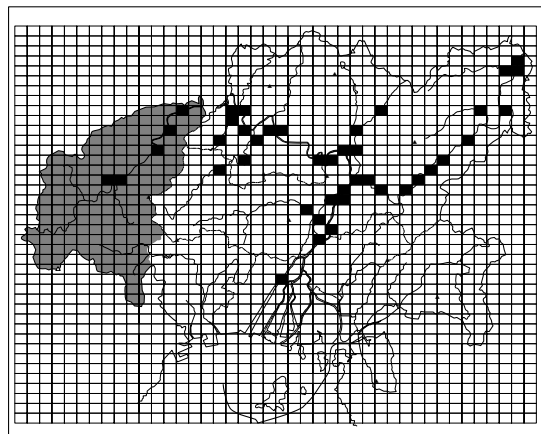
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■オヤニラミ（スズキ目 スズキ科）

##### *Coreoperca kawamebari*

京都府を東限とする本州，四国の一部（徳島県，香川県）と福岡県，熊本県を南西限とする分布域。全長5～7cm，鰓ぶたに緑色の小斑紋がある。

水内川水系では下流域から中流域まで広く分布している。個体数も多い。淀みにあるツルヨシのランナーなどに産卵するため，河川勾配の小さい水内川は好環境と思われる。



## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

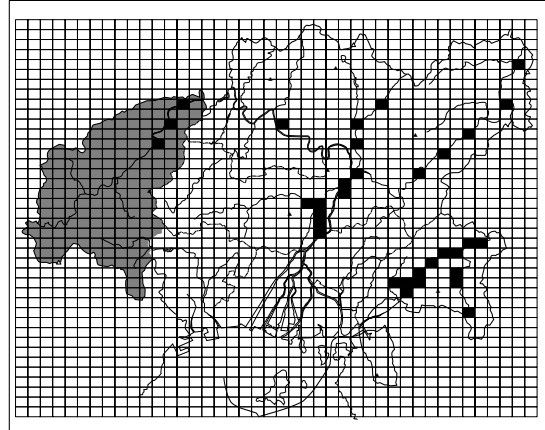
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

#### ■ドンコ (スズキ目 ハゼ科)

##### *Odontobutis obscura*

本州西部，四国，九州に分布する。全長15 cm。黒褐色で第一背びれ，第二背びれの基底下方に黒色斑がある。泥底を好み，魚食性。

水内川<sup>みのち</sup>では下流域から中流域にかけて生息し，個体数は多い。河川勾配の小さい水内川<sup>みのち</sup>は好環境と思われる。



## 淡水魚類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

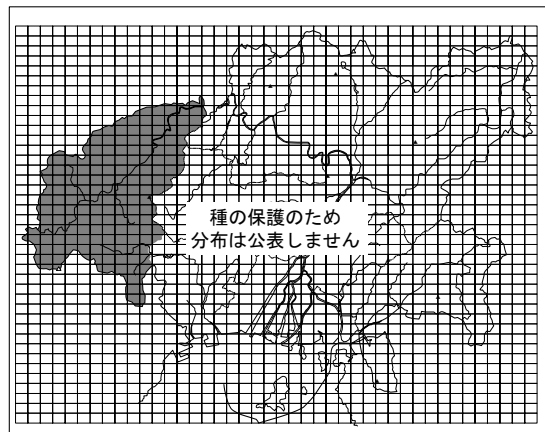
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■スナヤツメ (ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科)

##### *Lampetra reissneri*

北海道，本州，四国，九州(宮崎県，鹿児島県を除く)に分布する。幼体は盲目で茶褐色，成体は10～13cm，黄金色の金属光沢を示す。

水内川<sup>みのち</sup>では中・下流域で確認をしている。特に，中流域では1～2年の幼体を確認していることから，繁殖は継続しているものと考えられる。近年，東日本の個体とは種が異なることが明らかとなった。幼生は泥底に生息するため，近年の河川工事などにより，生息環境を失い，最も絶滅の可能性の高い種である。





#### (14) 昆虫類・クモ類

昆虫類の調査は、調査期間が限られていたため、水内川及びその支流域<sup>みのち</sup>に生息する水生のコウチュウ・カメムシ類と東郷山のアカガシ林に生息する直翅系昆虫類に焦点を絞って実施した。その結果、旧市域においては未記録であったサワダマメゲンゴロウが発見され、生息地が局所的であったナベブタムシ(宇賀峡)、クチキウマ・ハダカササキリモドキ・ヘリグロツユムシ(白木山山頂部、未発表)、ニホントビナナフシ(白木山・呉婆々宇山山頂部、未発表)の生息が確認された。これらのうち、サワダマメゲンゴロウを軽度懸念に、ナベブタムシは宇賀峡における生息数の激減状況を考慮して準絶滅危惧に選定した。他種については、市域における既知産地は限られるものの、アカガシを優占種とする森が保存される限り、生存が危ぶまれることは無いと判断し、選定種に加えなかった。また、佐伯区湯来町多田地区日室の小規模な鍾乳洞にすむキクガシラコウモリの体表から、クモバエ科に属する種不明の1種と *Brachytarsina kanoi* を採集することができた(未発表)。しかし、*B. kanoi* は広島市南区金輪島においてもキクガシラコウモリから得られており(未発表)、クモバエ科の不明種についても他所で採集される可能性が高いと判断されるため、これらも選定種に加えなかった。

湯来地区の調査による選定種の追加

ナベブタムシ 準絶滅危惧

サワダマメゲンゴロウ 軽度懸念

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種 (カテゴリ変更なし)

なし

昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

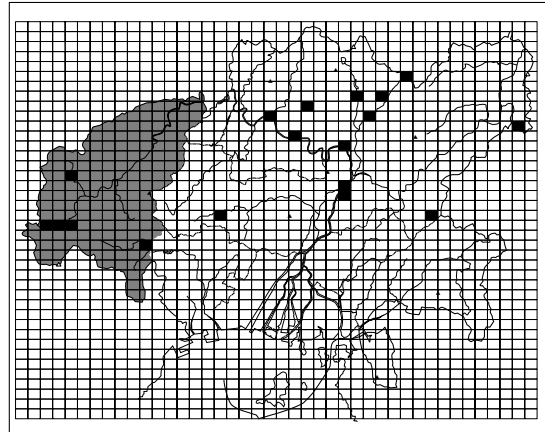
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ナベブタムシ (カメムシ目 ナベブタムシ科)

*Aphelocheirus vittatusi*

本州，四国，九州に分布する。清浄な河川の中～上流域に生息し，流れのある部位の水底の砂中から発見される。体長約9mm。

水内川水系の上流域の本流及び支流の4か所で得られた。旧市域における確実な生息地である宇賀峡においても，近年，個体数の減少が著しい。いずれの生息地においても，今後，豪雨による水辺環境の悪化に伴う著しい個体数減少が懸念される。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

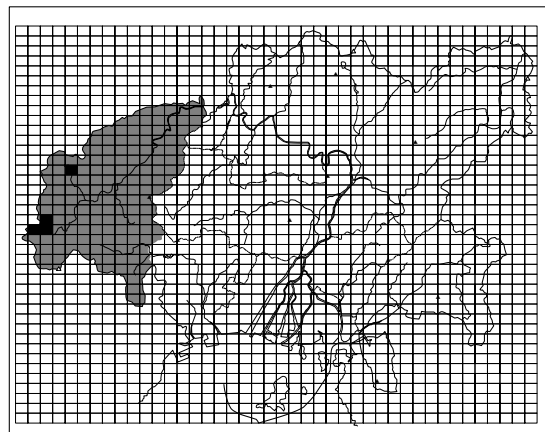
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■サワダマメゲンゴロウ (コウチュウ目 ゲンゴロウ科)

*Platambus sawadai*

北海道，本州，四国，九州に分布する。河川の上流域に生息し，岸辺の湿生植物の根際や，淀みの水面に浮かぶ落葉の間などから発見される。体長7.9～9.1mm。

水内川水系の中～上流域の本流及び支流の4か所でモンキマメゲンゴロウとともに得られたが，採集された個体数は本種の方が圧倒的に少数であった。清流域に広く生息しているものと推測されるが，今後，豪雨による水辺環境の激変による著しい個体数減少が懸念される。



(15) 甲殻類・貝類

甲殻類は文献調査の結果、ヨコエビ、モクズガニ、サワガニの記録があった。

貝類は文献調査の結果、カワニナ、ハンジロギセル、サンインマイマイ、ヤマトシジミ、マシジミの記録があった。

検討の結果、今回の調査による選定種の追加及びカテゴリ変更はしなかった。

湯来地区の調査による選定種の追加

なし

湯来地区の調査による選定種のカテゴリ変更

なし

湯来地区の調査で確認された選定種（カテゴリ変更なし）

ハンジロギセル 準絶滅危惧

貝類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

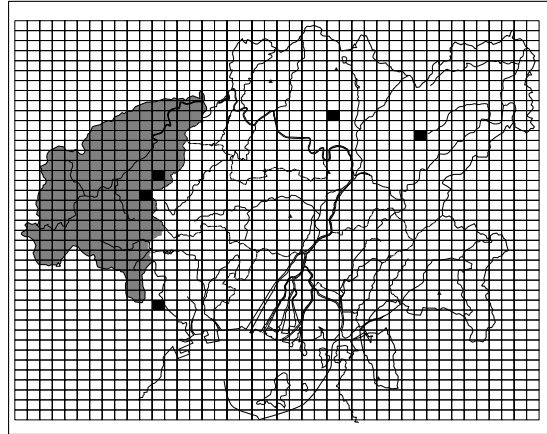
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ハンジロギセル（柄眼目 キセルガイ科）

*Pinguiphaedusa hemileuca hemileuca*

中国地方の特産種で、社叢などの樹幹や落葉下に生息する。殻高15～20mm，殻径3～4mm。殻は左巻でキセル形。県下の分布は西部に偏る。

市域では福王寺山，極楽寺山，白木山に生息し，福王寺山，極楽寺山の生息環境は比較的良好に保たれている。白木山では最近の記録がない。福王寺山でも減少傾向にある。佐伯区湯来町では，東郷山，和田地区恵下で記録があるが現状は不明である。



### 3 選定種の変更

今回の調査では、旧湯来町域を除く市域においても、前回の調査以後得られた情報にもとづいて選定種の見直しを行った。ただし、この見直しは全選定種について網羅的に行ったものではない。

#### (1) 種子植物

以前は文献記録でベニバナヤマシャクヤクとされていた株が現地調査の結果ケナシベニバナヤマシャクヤクであることがわかり、本市のフロラに加えた。本種は非常に希少で採取される危険性も高いが、生育地が古い耕作地跡に成立したスギ植林内で、栽培株の逸出である可能性があるため、今回は情報不足に選定した。一方、ジンバイソウは、前回調査以降の自然災害によって、生育地周辺が破壊され、本種の生育も危ぶまれる状況となったため新たに選定した。

情報不足としていたキエビネは、以前に生育記録がある場所の近隣で未開花株がわずかに発見されたため、絶滅危惧に変更した。

#### 選定種の追加

ジンバイソウ 準絶滅危惧

ケナシベニバナヤマシャクヤク 情報不足

#### 選定種のカテゴリ変更

キエビネ 絶滅危惧←情報不足

変更理由：解明度が向上したため

## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

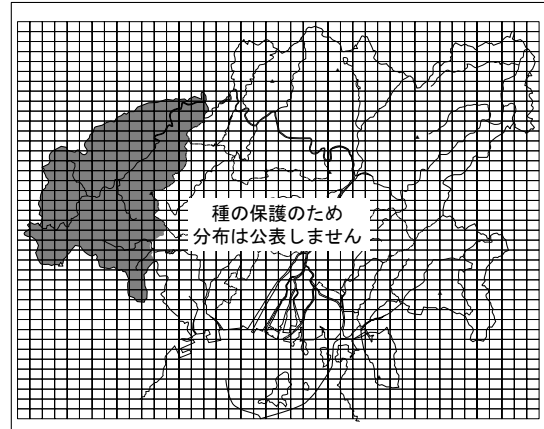
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■ジンバイソウ（ラン科）

##### *Platanthera florentii*

北海道(南部), 本州, 四国, 九州に分布する多年草。広島県内では中間温帯からブナ帯に属する樹林下で見られる。

安佐南区で1998年に生育を確認したが最近の状況は不明。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

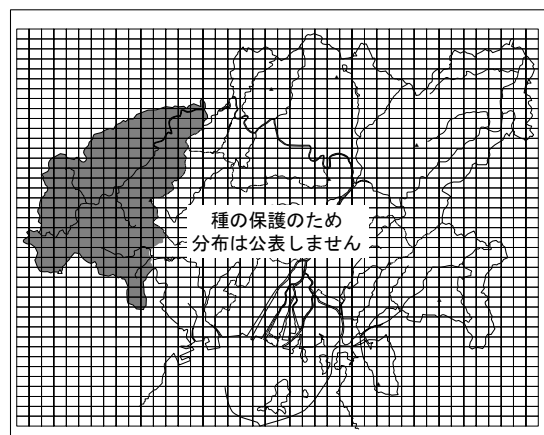
環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■ケナシベニバナヤマシャクヤク（キンポウゲ科）

##### *Paeonia obovata* var. *glabra*

山地林内に希産する落葉性多年草。ヤマシャクヤクによく似ているが淡紅色の花をつけ、葉の裏に毛がない。北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。特に西日本では絶滅寸前の状態である。

市の北西部で生育を確認したが、栽培品が逸出した可能性があり、明らかな自生株が確認されるまでの扱いとして情報不足とした。



## 種子植物

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

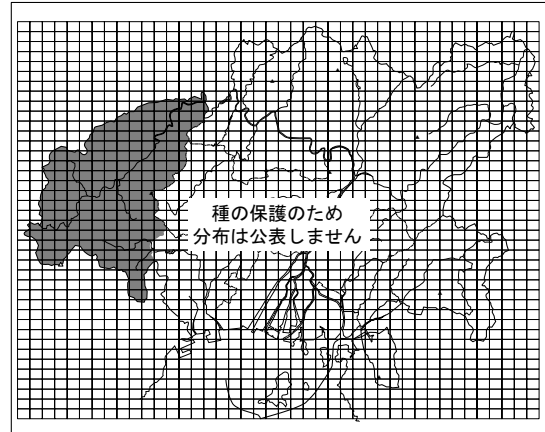
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■キエビネ（ラン科）

##### *Calanthe sieboldii*

林床に生える常緑の多年草。本州（紀伊半島，中国地方），四国，九州に分布。高さ50cmに達し，エビネに似るが，大型。花は4～5月，鮮やかな黄色。

1970年代には群落があったがその後激減し，1987年に1個体記録された。現在未開花株が発見されているが，採取圧が非常に高く，市域から絶滅する危険性が最も高い種のひとつといえる。



## (2) 哺乳類

「広島市の生物」で、中区の修道学園校舎内から国内3例目となるオヒキコウモリの生息地を報告した。その後、広島大学歯学部校舎からも生息を確認した。この2例は国内で発見され得た他のすべての例と異なり、繁華街にほど近い市街地にある建築物内に存在しているということでも興味深い存在である。残念なことに、当時確認した修道学園の生息地は校舎の建て替えによって消失した。しかしながら、修道学園の努力によって、校舎内にはオヒキコウモリが生息することができる環境を再現してある。学園関係者を中心に生息地が復元されるよう誘致作戦が続けられている。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

なし



### (3) 鳥類

広島県では58科292種の鳥類が記録されている(日本野鳥の会広島県支部 1998)。広島市からは53科278種の鳥類が記録されている(「広島市の生物」)。

前回調査ではブッポウソウとヤイロチョウが絶滅危惧に、オシドリ、ミサゴ、ダイシャクシギが軽度懸念に、ミゾゴイ、チュウサギ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサ、ヤマドリ、コアジサシ、コミミズク、ヨタカ、アカショウビン、オオアカゲラ、サンコウチョウが情報不足に、サシバ、ダイゼン、ハマシギ、アオバズク、フクロウ、オオヨシキリが環境指標種に選定されている。

今回の見直しでは選定種の追加はなかったが、前回調査では環境指標種に選定されていたサシバを情報不足にカテゴリを変更した。

サシバは、「改定・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—」でも情報不足に選定されている。これは、サシバが利用する谷戸環境が近年減少し、それにともないサシバの繁殖個体数が減少しているためである。このため、カテゴリの変更を行った。

#### 選定種の追加

なし

#### 選定種のカテゴリ変更

サシバ 情報不足←環境指標種

変更理由：餌となるへび類やカエル、大型昆虫などの生息する農耕地と、営巣地となる森林とが接している谷戸環境が近年減少し、それに伴いサシバの繁殖個体数が全国的に減少しているため

## 鳥類

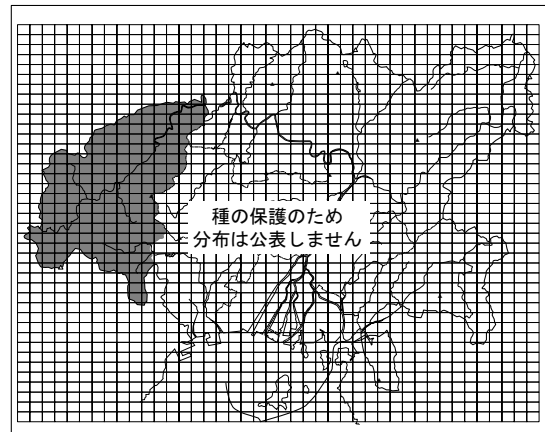
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

#### ■サシバ（タカ科）

##### *Butastur indicus*

夏鳥として日本に渡来し、農耕地のそばの山林で繁殖する。全長約50cm，翼開長約110cm。上面は褐色，下面は白く，胸と腹に褐色の横斑がある。ヘビやカエル，昆虫類などを餌とする。市域でも繁殖が確認されているが，本種の生息環境である谷戸環境（農耕地と山林が接している環境）の消失により生息地が減少している。



#### (4) 爬虫類

広島県には亜種を含めて、カメ目は2科4種、トカゲ目はトカゲ亜目が3科4種、ヘビ亜目は2科8種が生息しており、広島市にはその全てが生息している。

検討の結果トカゲ、イシガメを準絶滅危惧、スッポンを情報不足に選定した。

イシガメは河川の中・上流域を主な生息域としているが、近年、個体数が減少している。例えば、コンクリート護岸にすることにより、産卵場所への移動が困難となり、河川の平坦化により、中州が喪失し、産卵に適した日当たりの良い乾燥した場所がなくなって来るなど、水質悪化というよりも、環境の変化が繁殖場所の喪失を招いているように思われる。また、下流域では外来種のミシシッピーアカミミガメの侵入により、生息環境が奪われつつあるのではないかとと思われる。

トカゲは市街地周辺の人家の石垣の隙間などから出入りする光景を見かけることがあったが、コンクリート化や空積みの石垣がなくなり、生息場所が失われたように思う。

スッポンは食用とされるため、個体数が少ないのは、採集圧が高いことから減少したのか、環境の変化によるものかが不明なため、情報不足とした。また、養殖個体の逸出や外国産の個体(シナスッポン)などが持ち込まれ、遺伝的に攪乱状態になる可能性が高い。

#### 選定種の追加

なし

#### 選定種のカテゴリ変更

イシガメ 準絶滅危惧←自然誌構成種

変更理由：個体数が減少しているため

トカゲ 準絶滅危惧←自然誌構成種

変更理由：急激に個体数が減少しているため

スッポン 情報不足←自然誌構成種

変更理由：減少しているが、状況が不明であるため

## 爬虫類

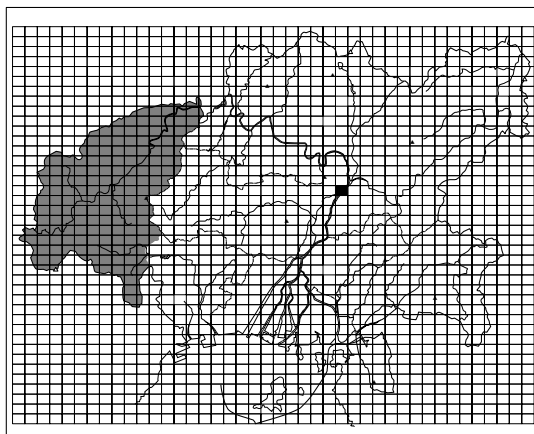
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■イシガメ（カメ目 イシガメ科）

##### *Mauremys japonica*

本州，四国，九州及び佐渡，隠岐，壱岐，対馬，五島列島に分布する。淡水性で河川，湖沼に生息するが，中・上流域に多い。県下に広く分布していたが，河川改修，中州の喪失などにより近年個体数が激減している。甲羅長は10～20cm，黄褐色をしているが，藻類の付着により黒緑色にみえる。背甲には明瞭な畝はなく，後縁がギザギザになっているのが特徴。



## 爬虫類

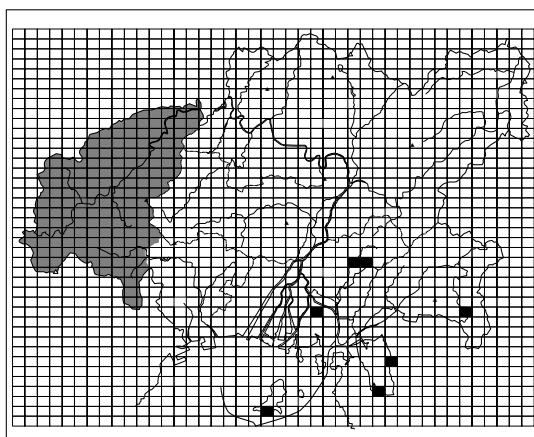
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

#### ■トカゲ（トカゲ目 トカゲ科）

##### *Eumeces latiscutatus*

北海道，本州，四国，九州及びその周辺の島々に分布する。成長すると雌雄ともに褐色になるが，幼体は黒地に金色の3本の条線があり，尾は鮮やかな青色をしている。森林よりも，人家周辺の石垣の隙間などでよく見かけたものだが，石垣のブロック化，コンクリート化により，近年急激に個体数を減じている。



は  
爬虫類

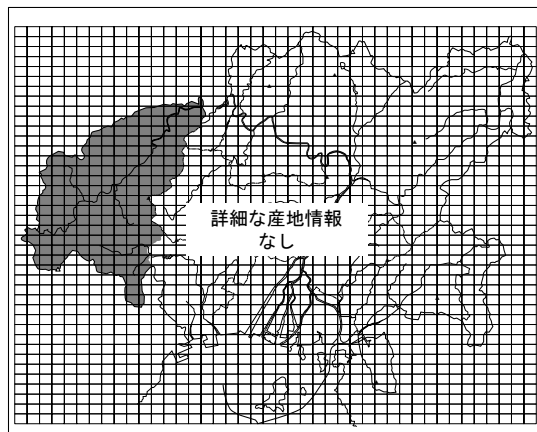
広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境省・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■スッポン (カメ目 スッポン科)

*Trionyx sinensis*

本州，四国，九州，沖縄島，西表島，与那国島に分布する。内陸部の河川や砂泥底の湖沼に生息する。甲羅は平たく軟質で，鱗<sup>うろこ</sup>は持たない。吻端の鼻は長く突き出ており，首は長い。食用にされるために個体数が減少したのか，環境の変化によるものかは明確でないが，野外では極めて個体数は少ない。



## (5) 両生類

広島県には亜種を含めて、サンショウウオ目が3科6種、カエル目が4科13種生息している。広島市には、サンショウウオ目が3科3種、カエル目が4科12種生息している。サンショウウオ類は高地性の2種(ハコネサンショウウオ, ヒダサンショウウオ), カエル類は1種(ダルマガエル)を除けば, 広島県に生息する両生類のほとんどが生息していることになる。

検討の結果, イモリを環境指標種にカテゴリを変更した。

イモリはトノサマガエルなどと同様水田や用水路などを主な生息環境としているが, 基盤整備事業や用水路のコンクリート化に伴い, 生息環境を失い, 個体数が減少している。また, 水田への大型機械の導入のための冬季の乾田化が進み, 個体数が減少している。イモリは水田やハス田という環境を利用して個体数を維持していたと推測されるが, 水田の喪失により, また, 稲作の作付け方法の改変(田植えが時期的に早くなった)により生活史がかみ合わなくなっているのではないかと推測される。環境が復活し, 安定すれば, 個体数の回復も見込める。

選定種の追加

なし

選定種のカテゴリ変更

イモリ 環境指標種←自然誌構成種

変更理由：個体数が減少しているため

## (6) 淡水魚類

広島県には亜種(円口類を含む)を含めて、淡水魚類が30科93種(移入魚を含む)生息している。広島市には、30科75種(移入魚を含む)生息している。そのうち、在来種は14科 41種(周縁性魚類, 移入魚を除く)である。

前回の調査で選定されたイシドジョウ, アカザ, カジカは河床に堆積した礫間を生息場所としている種であるが, 近年の河川流量調整により, 出水が減少し, 礫間の目詰まりが生息環境を喪失させ, 個体数が減少しているものと推測される。また, 河川横断物の構築により, 遡上性魚類の減少が目立っており, カジカ, サツキマス(降海型)などは顕著な例といえよう。また, 降海する魚種で, 内湾の汚染や藻場の喪失などによって個体数が減じている種は, ゴクラクハゼ, シロウオ, スミウキゴリ, ウキゴリ, カジカ, ワカサギ(降海型), サツキマス(降海型)があげられる。ヤリタナゴ, アブラボテは淡水二枚貝の減少により個体数を減じていると考えられる。

検討の結果, ゴクラクハゼを絶滅から絶滅危惧に変更した。

ゴクラクハゼは約30年間, 未確認であったが, 内藤(2001)により太田川の高瀬堰直下より採集されたことから絶滅危惧に変更した。ただし, 採集された個体が在来の個体か, アユの放流などによって移入されたものか不明である。

### 選定種の追加

なし

### 選定種のカテゴリ変更

ゴクラクハゼ 絶滅危惧←絶滅

変更理由: 再確認されたため

## 淡水魚類

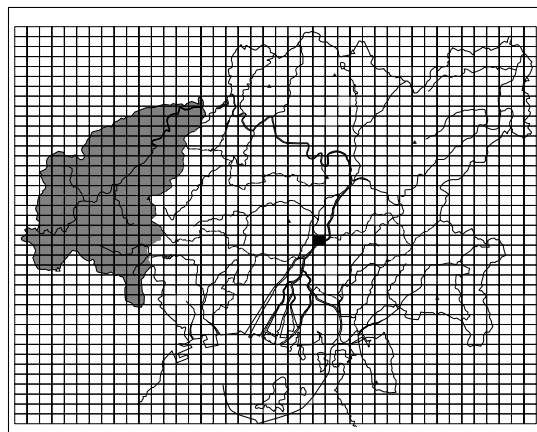
### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■ゴクラクハゼ (スズキ目 ハゼ科)

##### *Rhinogobius giurinus*

茨城、秋田両県以南の本州、四国、九州、琉球列島に分布する。全長8cm、河川の下流域と汽水域上限の砂れき礫底に生息する。体色は淡褐色で、頬に複雑な斑紋はんもんがある。河床の掘削、早瀬の喪失などにより、個体数を減じた。約30年間未確認であったため絶滅としていたが、高瀬堰直下より採集されたことから絶滅危惧に変更した。ただし、採集された個体が在来の個体か、アユの放流などによって移入されたものか不明である。





## (7) 昆虫類

旧湯来町合併後の広島市における昆虫相の解明度は、「広島市の生物」が刊行された2000年と大きく変化はしていない。しかし、近年広島県を襲った台風などの気象災害の影響により、河川構造そのものや周辺植生の激変によって、個体数が減少した種が増加する傾向にあると考えられる。ナベブタムシは湯来町域から新たに生息地が発見されたが、市域の既知産地である宇賀峡における個体数の減少率を考慮し、新たに選定種に加えた。安佐北区の太田川河川敷におけるカワラバッタやコハンミョウ、ハマスズ、カワラスズ(広島県選定種)個体群の存続も危ぶまれる状況にある。また、東区上温品の休耕田からコオイムシが発見されたため、カテゴリを絶滅から絶滅危惧に変更し、同所で得られたコマルケシゲンゴロウとマルチビゲンゴロウについては、広島県下においても生息地が限られ、かつ市域における唯一の生息地であることから、新たに絶滅危惧に選定した。

### 選定種の追加

コマルケシゲンゴロウ 絶滅危惧  
マルチビゲンゴロウ 絶滅危惧

### 選定種のカテゴリ変更

コオイムシ 絶滅危惧←絶滅  
変更理由：再確認されたため

## 昆虫類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

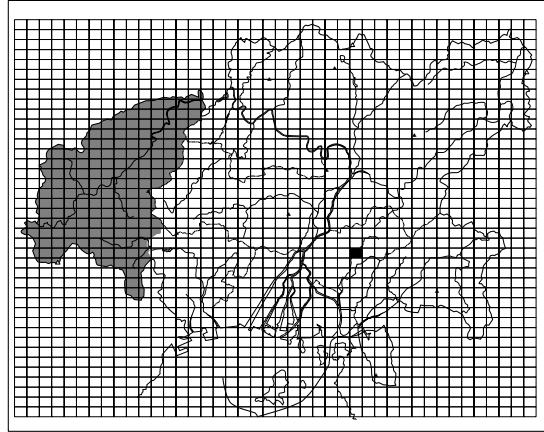
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■コマルケシゲンゴロウ（コウチュウ目 ゲンゴロウ科）

##### *Hydrovatus acuminatus*

本州，四国，九州，南西諸島に分布する。池沼の岸边や湿地化した放棄水田など，湿生植物が多く繁茂するやや浅い水域に生息する。体長2.0～2.5mmと微小であるため，発見は困難。

広島県内における確実な既知産地は倉橋島，江田島に限られていた。尾道市の記録が1938年に公表されているが，その後2004年に東区上温品で再発見されるまで本土域からの採集記録は途絶えていた。生息が確認された放棄水田は民有地のため，将来の存続が危ぶまれる。



## 昆虫類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

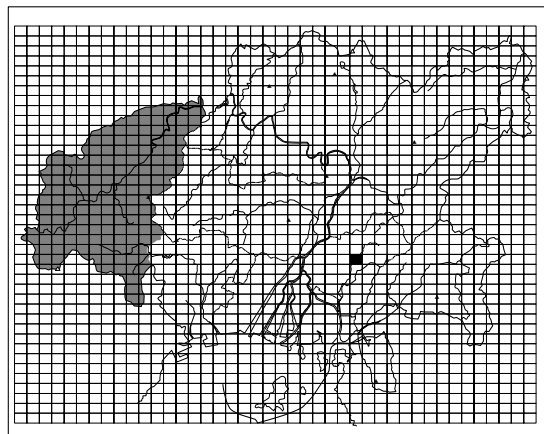
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■マルチビゲンゴロウ（コウチュウ目 ゲンゴロウ科）

##### *Leiodytes frontalis*

本州，四国，九州に分布する。池沼の岸边や湿地化した放棄水田など，湿生植物が多く繁茂する非常に浅い水域に生息する。体長1.5～2.0mmと微小であるため，発見は困難。

広島県内においては，島嶼部を含む広域から発見されているが，分布は局地的かつ不連続である。広島市域においては，2004年に確認された東区上温品が唯一の生息地で，当地の放棄水田は民有地のため，将来の存続が危ぶまれる。



## 昆虫類

### 広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

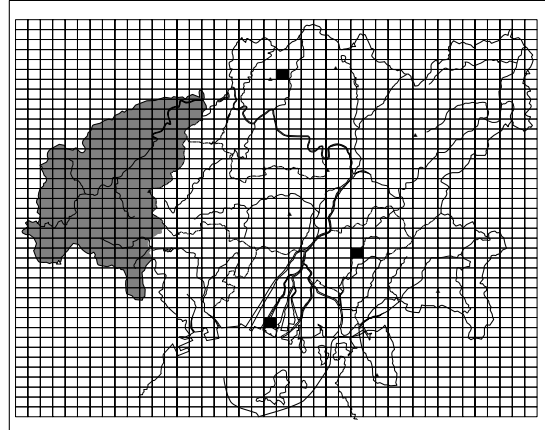
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

#### ■コオイムシ (カメムシ目, コオイムシ科)

##### *Diplonychus japonicus*

本州, 四国, 九州に分布し, ヨシなどの抽水植物が多い池や沼に生息する。体長17~21mm。

1990年代には確実な生息地が皆無となったため絶滅として扱ったが, 2004年に東区上温品の休耕田で採集されたために絶滅危惧に変更した。同所ではコマルケシゲンゴロウとマルチビゲンゴロウの生息も確認されていることから, 移入ではなく, 自然分布であると考えられる。





# 付 録



## 1 選定基準

### (1) カテゴリ区分の考え方

調査対象は、自然環境保全の観点から重要なもの、その他の観点から注目されるものに  
分けて考えた。

#### ① 自然環境の保全にかかわる種・群落

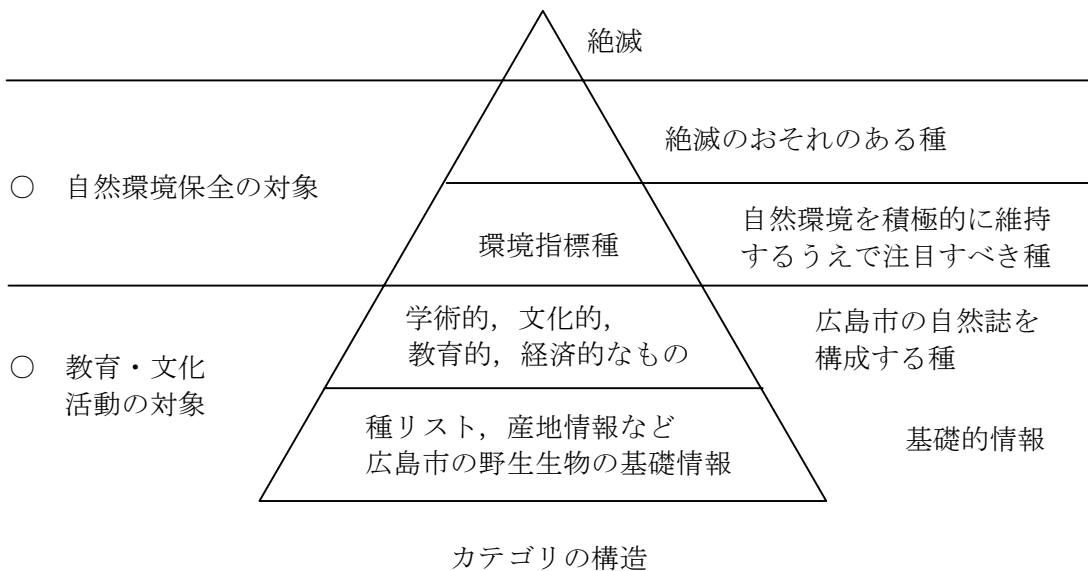
種(個体群)そのものが保護上重要である絶滅のおそれの大きいもの(いわゆるレッド  
データブック種)と、自然環境を積極的に維持していく上で注目すべき種(個体群)及び  
群落を取り上げる。

選定された種は、今後の開発事業などに関して自然環境保全の対象種として扱われる。

#### ② その他の種など

生物学上注目される種(個体群)、文化的価値を有するもの、環境教育の観点から注目  
されるものなど、広島市の自然誌としての要素とみなされるものを取り上げる。

これらの選定は、今後の環境保全行政に反映させることを目的とする。



## (2) カテゴリ

### ① 絶滅

市域では、絶滅した可能性が高いものを選定する。

#### ア 絶滅

市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がないもの

#### イ 野生絶滅

市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がないもので、公的な機関の管理下で栽培・飼育されているもの

### ② 自然環境の保全にかかわる対象群

#### ア 広島市の絶滅のおそれのあるもの

環境省の評価基準を参考にし、保全の必要性のランクに応じて区分した。

(ア)及び(イ)で選定する種は、選定根拠、保全の必要性の程度、保全方針を示すことができるものとし、環境省のカテゴリにより「絶滅危惧」に選定された種は原則として選定する。

#### (ア) 絶滅危惧

現在の圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に広島市域で個体群の存続が危ぶまれるもの

#### (イ) 準絶滅危惧

現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によって「絶滅危惧」のランクに移行する可能性が大きいもの

#### (ウ) 軽度懸念

環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種またはそれに相当する種であるが、「絶滅危惧」または「準絶滅危惧」の要件をみたさないものうち、広島市域では存続基盤が比較的安定しているもの

#### (エ) 情報不足

環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種またはそれに相当する種であるが、「絶滅危惧」または「準絶滅危惧」の要件をみたさないものうち、希少な種であるが広島市域での現状が不明なもの

#### イ 環境指標種

環境指標種(個体群)そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種(個体群)に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然などの観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうるもの。



ウ 自然誌構成種

自然環境保全の対象として取り上げる要件をみたしていないが、広島市の自然環境を理解するうえで重要と判断できるもの。

取り上げる理由が明確であり、個々の種についてそれぞれ完結した内容をもつもの。

分布特性、種間相互作用、移入、環境指標性など生物学上注目されるもの、巨樹など文化財的価値の高いもの。

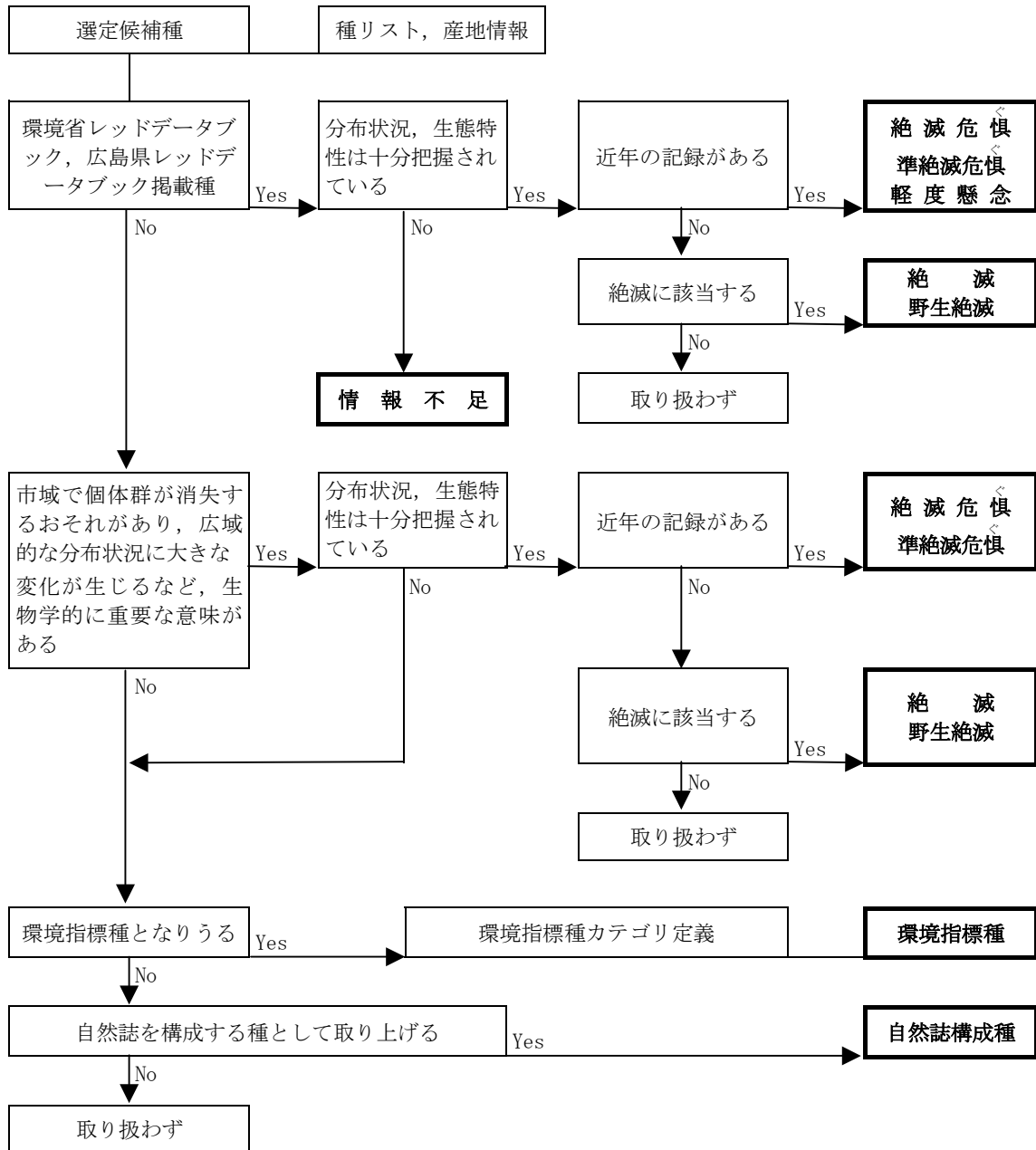
表1 カテゴリ定義

区分	基本概念	要件	備考
絶滅	絶滅	市域では、絶滅した可能性が高い。	市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。
	野生絶滅		市域において10～20年前の生育・生息記録があるが、その後の確実な記録がない。 公的な機関の管理下で、栽培・飼育されている。
広島市の絶滅のおそれのあるもの	絶滅危惧 絶滅の危険性の高いもの	現在の状態をもたらす圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に市域での個体群の存続が危ぶまれる。	確実な情報により、つぎに該当するもの。 大部分の生育・生息地で、 ①個体数の大幅な減少、 ②生育・生息条件の明らかな悪化、 ③再生産を上回る捕獲・採取圧のいずれかが認められる。
	準絶滅危惧 存続基盤が脆弱なもの	現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化により上位ランクに移行する可能性が高い。	生育・生息状況の推移からみて、個体数の減少や生育・生息条件の悪化などの傾向が著しく、今後さらに進行するおそれがある。 または、環境条件の変化により、容易に危険度が増大する属性（希少性、特異性、孤立性など）を有する。
	軽度懸念	市域では、存続基盤が比較的安定している。	環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種であるが、市域では確実な情報により「絶滅危惧」「準絶滅危惧」にランクされないと判定できる。
	情報不足	希少な種であるが、市域での現状が不明である。	環境省レッドデータブック、広島県レッドデータブックの選定種であるが、ランクを判定する情報が得られていない。
環境指標種	重要な自然環境を積極的に保全する。	種（個体群）そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然などの観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうる。	地域計画などに応用していくことを目的とする。

### (3) 選定候補種のラベル振り分けの作業フロー

選定候補種は、「広島市の生物」掲載種、環境省または広島県レッドデータブックの掲載種のうち旧湯来町で過去に確認された種または生育・生息の可能性のある種、その他絶滅のおそれがあると考えられる種をはじめに整理した。

これらの選定候補種を、カテゴリ区分に基づき、以下の手順で振り分けた。



## 2 選定種一覧表（分類順）

今回の調査により追加，カテゴリ変更された種を含む選定種の分類群ごとの種別，カテゴリ別の選定状況は，第1章3(2)の表8(12～18ページ)のとおりであり，その内容を分類順に整理すると表2のとおりである。

種の並びは主として下記文献に従った。

### 種子植物

大井次三郎，「新日本植物誌顕花編」，至文堂，1983

### シダ植物

田川基二，「原色日本羊歯植物図鑑」，保育社，1959

### コケ植物

岩月善之助編，「日本の野生植物 コケ」，平凡社，2001

### 地衣類・藻類

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編，「広島県植物誌」，中国新聞社，1997

### 菌類

今関六也・本郷次雄編著，「原色日本新菌類図鑑(I)」，保育社，1987

今関六也・本郷次雄編著，「原色日本新菌類図鑑(II)」，保育社，1989

### 群落

宮脇昭編著，「日本植生誌 中国」，至文堂，1983

### 哺乳類

日本哺乳類学会編，「レッドデータ 日本の哺乳類」，文一総合出版，1997

### 鳥類

日本鳥学会目録編集委員会，日本産鳥類リスト，鳥学会誌，46:59-91，1997

### 爬虫類・両生類

比婆科学教育振興会編，「広島県の両生・爬虫類」，中国新聞社，1996

### 淡水魚類

比婆科学教育振興会編，「広島県の淡水魚」，中国新聞社，1990

### 昆虫類・クモ類

比婆科学教育振興会編，「広島県昆虫誌 I」，広島県昆虫誌刊行会，1997

比婆科学教育振興会編，「広島県昆虫誌 II」，広島県昆虫誌刊行会，1997

谷川明男，「日本産クモ類目録」，<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/list.html>，2006

### 甲殻類・貝類

三宅貞祥，「原色日本大型甲殻類図鑑(I)」，保育社，1982

三宅貞祥，「原色日本大型甲殻類図鑑(II)」，保育社，1983

東正雄，「原色日本産陸貝類図鑑」，保育社，1982

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その1

分類群	和名	広島市の絶滅のおそれのあるもの						法等指定状況					備考		
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB	広島県RDB
種	コウヤマキ							○						情報不足より変更	
	ミクリ							○				NT	NT		
	カワツルモ	○										EN	CR+EN		
	イトクズモ	○										VU	CR+EN		
	ホンゴウソウ			○								EN	CR+EN		
	ウエマツソウ			○								VU	CR+EN	追加	
	ヌマガヤ							○							
	コウキヤガラ				○										
	アンベライ (ネビキグサ)				○										
	オモゴウテンナンショウ			○								CR	VU		
	キバナノアマナ				○										
	カタクリ				○										
	ホソバナコバイモ			○									VU	VU	
	エンレイソウ							○							追加
	ノハナショウブ				○										自然誌構成種より変更
	ヒナノシヤクジョウ			○										CR+EN	
	クマガイソウ			○									VU	CR+EN	情報不足より変更
	サギソウ			○									VU	VU	
	ミズトンボ				○								VU	VU	
	ウチョウラン			○									VU	VU	
ヒナラン			○									EN	CR+EN		
子	ジンバイソウ				○									追加	
	オオヤマサギソウ				○								NT	追加	
	トキソウ			○								VU	VU		
	ムヨウラン				○								NT	追加	
	ナヨテンマ	○										CR	EX		
	キンラン				○							VU	NT	情報不足より変更	
	タシロラン			○								NT	CR+EN		
	ヒメフタバラン			○									VU	追加	
	ヒメノヤガラ			○											追加
	ヨウラクラン			○										VU	追加
物	キンセイラン			○								EN	CR+EN	追加	
	エビネ				○							VU	VU		
	キエビネ			○								EN	CR+EN	情報不足より変更	
	ナツエビネ				○							VU	VU		
	サルメンエビネ			○								EN	CR+EN	追加	
	セッコク				○										
	マメツタラン				○							VU	NT		
	ムギラン			○								VU	VU	情報不足より変更	
	マツラン			○										VU	追加
	クモラン				○									NT	
ブナ								○						自然誌構成種より変更	
イヌブナ								○						自然誌構成種より変更	
キミズ				○											
ツルマオ					○								NT		
ツチトリモチ			○										VU		
ヌカボタデ								○				VU			
ヒロハマツナ								○				VU	VU		
マルミノヤマゴボウ				○									NT	追加	
カザグルマ			○									VU	VU		

(注)文化財保護法：特別天然記念物、天然記念物(国指定)、広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、国際希少野生動植物種、  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」、指定野生生物種、特定野生生物種  
環境省RDB、広島県RDB：EXは絶滅、CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類、CRは絶滅危惧ⅠA類、ENは絶滅危惧ⅠB類、  
VUは絶滅危惧Ⅱ類、NTは準絶滅危惧、DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種、Vは危急種、Rは希少種

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その2

分類群	和名	絶滅					法等指定状況					備考			
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例		環境省RDB	水産庁RDB	広島県RDB
種	オキナグサ			○							VU		VU	情報不足より変更	
	アズマイチゲ				○								VU		
	ユキワリイチゲ				○										
	トウゴクサバノオ			○									VU	追加	
	ヤマシヤクヤク			○							VU		NT		
	ケナシベニバナヤマシヤクヤク						○								追加
	オガタマノキ					○								NT	
	ナガミノツルクケマン					○						NT			
	コイヌガラシ						○					NT			
	ハナナズナ	○										CR		EX	
	タカネマンネングサ							○							追加
	ツメレンゲ				○							NT		NT	
	タコノアシ	○										VU		CR+EN	
	トベラ							○							
	アテツマンサク					○						NT			
	ユキヤナギ					○								NT	
	イワガサ					○									
	マルバシヤリンバイ							○							
	イヌハギ						○					VU		NT	
	カンコノキ	○													
ツゲ					○										
子 シイモチ						○							NT		
テツカエデ					○								NT	追加	
コミネカエデ							○							追加	
ウドカズラ							○						DD		
ナツアサドリ					○										
ミズマツバ						○					VU		NT		
ゲンカイツツジ					○						VU		NT		
植 ホンシヤクナゲ					○								VU	準絶滅危惧より変更	
セトウチウンゼンツツジ (シロバナウンゼンツツジ)							○								
キシツツジ							○						NT		
ツルマンリョウ(ツルアカ ミノキ)					○					指定			CR+EN		
ハマサジ						○					VU		NT		
シロバイ						○							NT		
コハクウンボク						○							NT	追加	
アキノクサタチバナ	○										CR		EX		
ハマゴウ							○								
オウギカズラ							○							追加	
ジャコウソウ					○								NT	追加	
マネキグサ					○						VU		NT	追加	
ミゾコウジュ						○					NT		NT		
イヌノフグリ						○					VU				
カワヂシャ							○								
キヨスミウツボ						○							NT	追加	
ムラサキミミカキグサ						○					VU		VU		
スズムシバナ						○									
シロバナイナモリソウ						○								追加	
ウスバヒョウタンボク						○					VU		VU		
ヤマヒョウタンボク						○							VU	軽度懸念より変更	
マツムシソウ	○													追加	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その3

分類群	和名	広島市の絶滅のおそれのあるもの					法等指定状況					備考		
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例		環境省RDB	水産庁RDB
種子植物	キキョウ										VU		NT	
	カワラハハコ												VU	追加
	フジバカマ										VU		CR+EN	
	アオヤギバナ													
	ウラギク(ハマシオン)										VU		VU	
	フクド(ハマヨモギ)												NT	
	サンベサワアザミ												NT	追加
シダ植物	スグラン										EN		CR+EN	追加
	ミズニラ								指定		VU		CR+EN	
	ハマハナヤスリ													
	フジシダ												VU	追加
	ハコネシダ													
	ミズワラビ												VU	
	シノブ													
	ナガサキシダ												NT	
	ツクシイワヘゴ													
	ホソバシヨリマ												NT	
	ヘイケイヌワラビ										EN		CR+EN	
	アキイヌワラビ												NT	
	オニヒカゲワラビ													
	オクタマシダ													
	クラガリシダ										EN		CR+EN	追加
	イワオモダカ												VU	追加
	イワヒトデ												VU	
	デンジソウ											VU	CR+EN	
	サンショウモ											VU	CR+EN	
	アカウキクサ											VU	NT	
コケ植物	カミムラヤスデゴケ												CR+EN	追加
	サワクサリゴケ													
	カビゴケ										CR+EN		CR+EN	
	ウロコゼニゴケ													
	ウキゴケ										CR+EN		NT	
	イチョウウキゴケ										CR+EN		CR+EN	
	ホソベリミズゴケ										DD		VU	追加
	オオミズゴケ										CR+EN		NT	
	クロゴケ												CR+EN	追加
	キセルゴケ												CR+EN	
	クマノチョウジゴケ												CR+EN	追加
	クマノゴケ										CR+EN		VU	
	ホウライスギゴケ													
	ユウレイホウオウゴケ													
	エビゴケ													
	カワゴケ										CR+EN		DD	
	フロウソウ													
	ナワゴケ													
	キノクニキヌタゴケ													
	カトウゴケ										CR+EN		CR+EN	
キヨスミイトゴケ														
ソリシダレゴケ														
ヒロハシノブイトゴケ										CR+EN		CR+EN	追加	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧 類，CRは絶滅危惧 A類，ENは絶滅危惧 B類，  
VU は絶滅危惧 類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：EIは絶滅危惧種，VIは危急種，RIは希少種

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その4

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				法等指定状況						備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB
コケ植物	コウヤトゲハイゴケ			○										VU	追加
	ツクシヒラツボゴケ			○											
地衣類	アンチゴケ					○								VU	絶滅危惧より変更
	トゲトコブシゴケ			○											
	チヂレトコブシゴケ					○									絶滅危惧より変更
	オオスルメゴケ			○										VU	
	チヂレコヨロイゴケ			○										VU	
	エビラゴケ			○										VU	
	ウラグロエビラゴケ			○										VU	
	ヘラガタカブトゴケ						○								絶滅危惧より変更
	トゲヨロイゴケ			○											
	イワタケ				○									VU	追加
藻類	シャジクモ					○					CR+EN				
	オオシャジクモ						○				CR+EN			DD	
	ヒメフラスコモ						○				CR+EN				
	キヌフラスコモ						○				CR+EN			DD	
菌類	ドングリキンカクキン				○									NT	
	トガリツキミタケ				○									NT	
	アケボノタケ				○									NT	
	ナナイロヌメリタケ				○									NT	
	ホシミノヌメリガサ(仮称)			○											
	ツキヨタケ						○				VU				
	ウスキブナノミタケ						○								準絶滅危惧より変更
	カバイロコナテングタケ				○									NT	
	ソライロタケ				○									NT	
	キヒダイッポンシメジ				○									VU	
	オオヤシャイグチ				○									NT	
	アヤメイグチ				○									NT	
	アシナガイグチ				○									NT	
	アキノアシナガイグチ				○									VU	
	タマノリイグチ				○									VU	
	ヒメウグイスイグチ				○									NT	
	ウツロイイグチ				○									NT	
	コウタケ				○										
	ツチグリカタワタケ				○						VU				
	コウボウフデ				○									NT	
オニフスベ				○									NT		
キヌガサタケ				○											
ウスキキヌガサタケ				○						VU			VU		
群落	イノデアタブノキ群集				○										特定植物群落
	カナメモチーコジイ群集				○										特定植物群落
	シイモチーシリブカガシ群集				○										特定植物群落
	ナナムノキーアラカシ群集				○										特定植物群落
	ツクバネガシーシラカシ群集				○										特定植物群落
	シキミーモミ群集					○									準絶滅危惧より変更
	アブラチャンーホソバタブ群集				○										特定植物群落
	シノブーアカマツ群集					○									
	ムクノキーエノキ群集	○													特定植物群落
	ハマサジ群集				○										
フクド群集				○											

(注)文化財保護法：特別天然記念物、天然記念物(国指定)、広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、国際希少野生動植物種、国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」、指定野生生物種、特定野生生物種  
環境省RDB、広島県RDB：EXは絶滅、CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類、CRは絶滅危惧ⅠA類、ENは絶滅危惧ⅠB類、  
VUは絶滅危惧Ⅱ類、NTは準絶滅危惧、DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種、Vは危急種、Rは希少種

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その5

分類群	和名	絶滅		広島市の絶滅のおそれのあるもの				法等指定状況						備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念	情報不足	環境指標種	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB
群	マアザミーヌマガヤ群集				○										
	イトイヌノハナヒゲ群集				○										
	クロモジープナ群集			○											追加, 特定植物群落
	イヌブナ群落			○											
	クロソヨゴーツガ群集					○									特定植物群落
	クロソヨゴーツガ群集コウヤマキ亜群集				○										追加, 特定植物群落
哺乳類	カワネズミ						○							VU	
	コキクガシラコウモリ						○								
	ユビナガコウモリ						○							NT	
	テングコウモリ						○				VU			VU	
	コテングコウモリ						○				VU			VU	
	オヒキコウモリ						○				DD			CR+EN	
	ニホンモモンガ						○							NT	
	ムササビ							○							
	ヤマネ						○	○						NT	NT
	ツキノワグマ						○		国際	指定				CR+EN	
鳥類	ニホンイタチ						○							NT	
	チュウサギ						○						NT	NT	
	ミゾゴイ						○						NT	DD	
	ミサゴ					○							NT	NT	
	ハチクマ						○						NT	NT	
	ハイタカ						○						NT	NT	
	オオタカ						○		国内		VU			VU	
	サシバ						○							DD	環境指標種より変更
	クマタカ						○		国内		EN			CR+EN	
	ハヤブサ						○		国内		VU			VU	
	オシドリ					○								NT	
	ヤマドリ						○							NT	
	ダイゼン							○						NT	
	ダイシャクシギ					○								NT	
	ハマシギ							○						NT	
	コアジサシ						○		国際		VU			CR+EN	
	アオバズク						○								環境指標種より変更
	フクロウ						○								環境指標種より変更
	コミミズク						○							NT	
	ヨタカ						○							NT	
アカショウビン						○									
ブッポウソウ			○							VU			CR+EN		
オオアカゲラ					○								NT		
ヤイロチョウ			○					国内		EN			CR+EN		
オオヨシキリ							○								
サンコウチョウ							○							NT	
爬虫類	イシガメ				○									NT	自然誌構成種より変更
	スッポン						○				DD			DD	自然誌構成種より変更
	タワヤモリ					○								VU	
	トカゲ				○									NT	自然誌構成種より変更
両生類	タカチホヘビ					○								NT	
	ニホンヒキガエル				○									VU	
	ニホンアカガエル							○						NT	
トノサマガエル							○						NT	自然誌構成種より変更	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種



表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その6

分類群	和名	絶滅					環境指標種	法等指定状況					備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念		情報不足	文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB		水産庁RDB
両生類	ヌマガエル							○						
	オオサンショウウオ				○			○	国際		NT		VU	
	イモリ							○					NT	自然誌構成種より変更
淡水魚類	ワカサギ				○									
	シラウオ			○										
	サツキマス				○						E	CR+EN		(自然個体群)
	ヤリタナゴ			○										
	アブラボテ				○								NT	
	スジシマドジョウ(中型種族)					○							VU	
	インドジョウ			○							EN	V	VU	
	アカザ			○							VU		CR+EN	水産庁：九州の個体群が危急種
	メダカ				○						VU	E	CR+EN	
	オヤニラミ				○						NT	R	VU	
	ドンコ					○							NT	
	ゴクラクハゼ			○									CR+EN	絶滅より変更
	ウキゴリ				○								NT	
	スミウキゴリ			○										
	カジカ(ウツセミカジカを含む)			○									CR+EN	
スナヤツメ			○							VU	R	CR+EN		
昆虫類	グンバイトンボ							○			VU		NT	
	アオハダトンボ				○								NT	
	ムカシヤンマ							○					NT	
	ネアカヨシヤンマ	○											VU	
	マルタンヤンマ							○						
	ハッチョウトンボ							○					VU	
	クツワムシ				○								NT	
	カワラバッタ			○									VU	
	トノサマバッタ							○						
	ヒメハルゼミ				○								NT	
	コオイムシ			○							NT		NT	絶滅より変更
	タガメ	○									VU		CR+EN	
	ナベブタムシ				○									追加
	エリザハンミョウ				○									
	カワラハンミョウ			○							VU		CR+EN	
	コハンミョウ					○								
	オオオサムシ(陸島個体群)				○									
	マイマイカブリ(陸島個体群)				○									
	ヒョウタンゴミムシ				○									
	キバナガミズギワゴミムシ								○					
	マルチビゲンゴロウ			○										追加
	コマルケシゲンゴロウ			○									NT	追加
	ホソクロマメゲンゴロウ								○					
ゲンゴロウ			○							NT		NT		
コガタノゲンゴロウ	○									CR+EN		CR+EN		
シマゲンゴロウ			○											
サワダマメゲンゴロウ					○								追加	
オオクワガタ	○									NT		NT		
コルリクワガタ				○										
オビモンマグソコガネ								○					VU	
ヒゲコガネ								○					NT	

(注)文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，  
国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

表2 広島市の絶滅のおそれのあるもの等の選定状況と法等指定状況(分類順) その7

分類群	和名	絶滅					環境指 標種	法等指定状況					備考	
		絶滅	野生絶滅	絶滅危惧	準絶滅危惧	軽度懸念		文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環境省RDB	水産庁RDB		広島県RDB
昆虫類	ジュウシチホシハナムグリ						○							
	ホソコハナムグリ						○						NT	
	クロカナブン						○							
	ヤマトタマムシ						○							
	ゲンジボタル						○							
	ヘイケボタル						○							
	ハネナシセスジキマワリ					○								
	ウスバカミキリ						○							
	オオクロカミキリ				○								NT	
	キマダラカミキリ						○							
	ミヤマカミキリ						○							
	ヨツスジトラカミキリ						○							
	ヤマトシロオビトラカミキリ					○								
	タテジマカミキリ					○								
	セダカコブヤハズカミキリ						○							
	ヒゲナガカミキリ				○								NT	
	クワカミキリ						○							
	シロスジカミキリ						○							
	アミメトビケラ						○							
	ギフチョウ			○							VU		NT	
ウスイロオナガシジミ						○								
ヒロオビミドリシジミ						○						VU		
シルビアシジミ	○									CR+EN		CR+EN		
オオウラギンヒョウモン	○									CR+EN		EX		
オオムラサキ					○					NT		NT		
クモ類	キシノウエトタテグモ					○				NT		NT		
	キノボリトタテグモ					○				NT		NT		
甲殻類	カブトガニ			○						CR+EN		CR+EN		
	テナガエビ			○										
	スナガニ			○								NT		
	ハクセンシオマネキ			○						NT		NT		
	アカテガニ					○								
陸産貝類	ハンジロギセル			○						CR+EN		CR+EN		
	ホソヒメギセル			○						NT		NT		
	モリヤギセル			○										
	カワリダネビロウドマイマイ			○						NT		NT		
淡水産貝類	カタハガイ			○						NT	R	NT		

(注) 文化財保護法：特別天然記念物，天然記念物(国指定)，広島県天然記念物  
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」，国際希少野生動植物種，国内希少野生動植物種  
県保護条例：「広島県野生生物の種の保護に関する条例」，指定野生生物種，特定野生生物種  
環境省RDB，広島県RDB：EXは絶滅，CR+ENは絶滅危惧Ⅰ類，CRは絶滅危惧ⅠA類，ENは絶滅危惧ⅠB類，  
VUは絶滅危惧Ⅱ類，NTは準絶滅危惧，DDは情報不足  
水産庁RDB：Eは絶滅危惧種，Vは危急種，Rは希少種

### 3 巨樹一覧表

表3 天然記念物に指定され保護されている巨樹または名木 その1

番号	名称	所在	説明	天然記念物指定
1	東野のモッコク	安佐南区東野2丁目	樹高4m, 胸高幹囲(地上1.3mで測定)1.9m	県指定
2	正伝寺のクロガネモチ	安佐南区相田4丁目	樹高16.5m, 胸高幹囲4.6m, 根回り3.72m, 枝張り東西17.8m 南北20.7m	県指定
3	長束の蓮華マツ	安佐南区長束2丁目	樹高9m, 目通り幹囲3.54m, 枝張り東西26m 南北25m	県指定
4	神原のシダレザクラ	佐伯区五日市町石内神原	樹高8.6m, 胸高幹囲2.68m, 枝張り東西11m 南北12m	県指定
5	燈明杉	安佐北区可部町綾ヶ谷	樹高23~40m, 胸高幹囲3.9~5.2m	市指定
6	カヤ	安佐北区可部町上原	樹高16m, 根回り4.01m	市指定
7	切幡神社の大ケヤキ	安芸区中野東7丁目	樹高31m, 胸高幹囲4.8m, 枝張り東12m 西10m 南15m 北12m	市指定
8	中の森八幡神社のアラカシ	安佐南区沼田町吉山	樹高28m, 根回り5.2m, 枝張り東5.6m 西8.2m 南4.6m 北10.8m	市指定
9	峠八幡宮のオオツクバネガシ	安佐北区可部町大林	樹高18m, 目通り幹囲4.45m, 枝張り東9.5m 西7.0m 南8.6m 北2.6m	市指定
10	宮野八幡神社の大エノキ	安佐北区安佐町宮野	樹高30m, 根回り5.55m, 目通り幹囲4.55m, 枝張り東14m 西15m 南13m 北12m	市指定
11	新宮神社の大イチヨウ	安佐北区白木町井原	樹高35m, 根回り7.4m, 目通り幹囲6.9m, 枝張り東9.3m 西8.7m 南10.4m 北12.3m	市指定
12	温井八幡の乳下りイチヨウ	安佐南区川内5丁目	樹高24m, 根回り5.25m, 目通り幹囲4.31m, 枝張り東9.5m 西7.0m 南6.5m 北10.0m	市指定
13	可部町中野の千代の松	安佐北区可部1丁目	樹高9m, 根回り3.12m, 胸高幹囲2.6m, 枝張り東西17m 南北11m	市指定

表3 天然記念物に指定され保護されている巨樹または名木 その2

番号	名称	所在	説明	天然記念物指定
14	新宮神社のイチイガシ及びイヌマキ	安佐南区長楽寺3丁目	イチイガシ:樹高17.4m, 胸高幹囲1.45m, 枝張り東7.9m・西3.3m・南6.0m・北2.5m。イヌマキ:樹高16.5m, 胸高幹囲2.23m, 枝張り東7.0m・西6.4m・南6.5m・北6.9m	市指定
15	友広神社のイチヨウ	安佐北区可部南1丁目	樹高約25m, 胸高幹囲4.15m, 枝張り東8.2m・西6.1m・南8.1m・北9.7m	市指定
16	ヒロシマエバヤマザクラ	中区江波山公園	樹高14m, 胸高幹囲2.51mと1.76, 枝張り東4.2m・西13.1m・南12.8m・北10.2m	市指定
17	久日市のムクロジ	佐伯区湯来町大字下字長縄836	樹高20m弱, 胸高幹囲4.87m, 枝張り南から50°西へ10.9m, 南から70°東へ10.9m, 北から40°西へ7.2m	市指定
18	重光神社のカヤの木	佐伯区湯来町大字白砂1280	樹高20m強, 胸高幹囲3.82m, 枝張り北から40°東の方位へ10.8m, 北から10°西の方位へ11.2m, 南から40°東の方位へ8.4m, 南から50°東の方位へ7.2m	市指定
19	栗屋郷のトチの木	佐伯区湯来町多田大畑	樹高約25m, 胸高幹囲6.1m	旧湯来町指定
20	四本スギ	佐伯区湯来町和田東郷山恵下谷山国有林	樹高40~50m, 胸高幹囲11.8m, 枝張りは斜面上部へ向かって南から50°西の方位へ8.8m, 斜面下部へ向かって北から60°東の方位へ10m	旧湯来町指定
21	恵下谷のモミ	佐伯区湯来町和田恵下谷山国有林	樹高約35m, 胸高幹囲5.15m	未指定

(注) 1から16は「広島市の生物」より再掲。指定年月日順。樹高などの数値は指定調書による

表4 天然記念物の社寺林やその他の森林に生育している巨樹

番号	名称	所在	説明	天然記念物指定
1	新庄の宮の社叢	西区大宮1丁目	主要樹木の胸高幹囲は、クスノキが6.40mと5.50m、ムクノキが3.25mと3.08m、エノキが3.04m、タブノキが2.81m、ケヤキが2.14m、ムクロジが1.93m	県指定
2	阿刀明神社の社叢	安佐南区沼田町	主要樹木の胸高幹囲は、タブノキが3.62m、コウヤマキが2.57mと2.20m、スギが3.41m	市指定
3	筒瀬八幡神社の社叢	安佐北区安佐町筒瀬	主要樹木の胸高幹囲は、アラカシが2.00mと1.88m、タブノキが3.10mと2.82m、ナナメノキが1.44m	市指定
4	馬木八幡神社の社叢	東区馬木5丁目	主要樹木の胸高幹囲は、シイが1.96mと1.91m、1.66m、コナラが1.32mと1.30m	県指定
5	養山八幡神社の社叢	安佐北区安佐町小河内	主要樹木の胸高幹囲は、ツクバネガシが2.90m(1991年の台風19号で折れた)、ウラジログアシが2.05mと1.53m、ヤブツバキが1.27mと1.07m、スギが3.93mと2.84m、カヤが2.23mと2.10m	市指定
6	松笠観音の巨樹群	安佐北区口田南町	主要樹木の目通り幹囲は、スギが3.45mと2.90m、2.15m、ヒノキが2.65m、アベマキが3.10m、モッコク(地上1mの幹囲)が1.90m	市指定
7	福王寺山のコジイ林	安佐北区可部町綾ヶ谷	主要樹木の胸高幹囲は、コジイが2.40m	
8	宇那木神社の社叢	安佐南区緑井町	主要樹木の胸高幹囲は、クロマツが3.20m、スギが2.92m、シイが2.64m	
9	中須賀神社の社叢	安芸区畑賀町	主要樹木の胸高幹囲は、シイが2.39m	
10	元宇品のコジイ林	南区元宇品町	主要樹木の胸高幹囲は、クスノキが5.98m、アベマキが2.25m	
11	平藪神社の社叢	安佐北区白木町志路	主要樹木の胸高幹囲は、オオツクバネガシ4.40m、シラカシが5.20m、スギが3.50m、ヒノキが4.50m	
12	臼山八幡神社の社叢	佐伯区五日市町石内	主要樹木の胸高幹囲は、スギが4.80m、タブノキが3.95m、スギが3.50m	

(注)「広島市の生物」より再掲



## 索引

(太数字は種の解説ページを指す)

### [ア]

アオバズク 9, 16, 77, **79**, 97, 118  
アオハダトンボ 17, 119  
アオバト 77  
アオヤギバナ 14, 116  
アカウキクサ 14, 116  
アカガシ 70, 89  
アカザ 17, 85, **86**, 103, 119  
アカシヨウビン 16, 77, 97, 118  
アカテガニ 18, 120  
アカマツ 20, 70  
アキイヌワラビ 14, 116  
アキノアシナガイグチ 15, 117  
アキノクサタチバナ 12, 115  
アクシバ 70  
アケボノタケ 15, 117  
アサイトゴケ 54  
アシナガイグチ 15, 117  
アズマイチゲ 13, 115  
アテツマンサク 13, 25, **48**, 115  
アトリ 80  
アブラチャンーホソバタブ群集 15, 117  
アブラボテ 17, 85, 103, 119  
アベマキ 123  
アマゴ 85, 87  
アミメトビケラ 18, 120  
アヤメイグチ 15, 117  
アユ 85, 103, 104  
アラカシ 121, 123  
アンチゴケ 9, 15, 62, **63**, 117  
アンペライ(ネビキグサ) 12, 114

### [イ]

イシガメ 10, 16, 99, **100**, 118  
イシドジョウ 17, 85, **86**, 103, 119  
イチイガシ 122  
イチョウ 121, 122  
イチョウウキゴケ 14, 116  
イトイヌノハナヒゲ群集 16, 118  
イトクズモ 12, 114  
イヌノフグリ 13, 115  
イヌハギ 13, 115  
イヌブナ 9, 13, 25, 114  
イヌブナ群落 15, 118  
イヌマキ 122  
イノシシ 83  
イノデータブノキ群集 15, 117

イモリ 10, 17, 102, 119  
イワオモダカ 8, 14, 50, 51, **53**, 116  
イワガサ 13, 115  
イワタケ 8, 15, 62, 63, 117  
イワヤシダ 50  
イワヒトデ 14, 116

### [ウ]

ウエマツソウ グラビア1, 7, 8, 12, 23,  
**26**, 114  
ウキゴケ 14, 116  
ウキゴリ 17, 85, 103, 119  
ウグイ 85  
ウグイス 77  
ウスイロオナガシジミ 18, 120  
ウスキキヌガサタケ 15, 117  
ウスキブナノミタケ 9, 15, 66, **67**, 117  
ウスバカミキリ 18, 120  
ウスバヒョウタンボク 13, 115  
ウチョウラン 12, 25, **41**, 114  
ウチワサボテン 63  
ウツロイイグチ 15, 117  
ウドカズラ 13, 115  
ウナギ 85  
ウラギク(ハマシオン) 12, 116  
ウラグロエビラゴケ 15, 117  
ウラジロガシ 27, 70, 123  
ウロコゼニゴケ 14, 116

### [エ]

エゾチョウチンゴケ 54  
エノキ 121, 123  
エビゴケ 14, 116  
エビネ 12, 25, 28, **44**, 95, 114  
エビラゴケ 15, 117  
エリザハンミョウ 17, 119  
エンレイソウ 8, 13, 24, 114

### [オ]

オイカワ 85  
オウギカズラ 8, 14, 24, 115  
オオアカゲラ 16, 97, 118  
オオイワカガミ 69  
オオウラギンヒョウモン 17, 120  
オオオサムシ 17, 119  
オオカサゴケ 54

オオカメノキ 69  
オオクロカミキリ 17, 120  
オオクワガタ 17, 119  
オオサンショウウオ 16, 83, **84**, 119  
オオシャジクモ 15, 117  
オオスルメゴケ 15, 117  
オオダイイトツルゴケ 54  
オオタカ 16, 97, 118  
オオタチゴケ 54  
オオツクバネガシ 121, 123  
オオヒシャクゴケ 54  
オオミズゴケ 15, 55, 57, 116  
オオムラサキ 17, 120  
オオヤシャイグチ 15, 117  
オオヤマサギソウ グラビア3, 8, 12, 24,  
**30**, 114  
オオヨシキリ 16, 97, 118  
オオルリ 77  
オガタマノキ 13, 115  
オキナグサ グラビア2, 8, 9, 12, 24, **37**,  
115  
オクタマシダ 14, 116  
オシドリ 16, 77, 97, 118  
オニヒカゲワラビ 14, 116  
オニフスベ 15, 117  
オヒキコウモリ 16, 73, 96, 118  
オビモンマグソコガネ 18, 119  
オモゴウテンナンショウ 12, 25, **40**, 114  
オヤニラミ 17, 85, **87**, 119

#### [カ]

カザグルマ 12, 114  
カジカ 17, 85, 103, 119  
カシラダカ 80  
カタクリ 12, 25, **43**, 114  
カタハガイ 18, 120  
カタハゴケ 54  
カッコウ 77  
カトウゴケ 14, 55, 60, **61**, 116  
カナヘビ 82  
カナメモチーコジイ群集 15, 117  
カバイロコナテングタケ 15, 117  
カビゴケ 14, 55, **59**, 116  
カブトガニ 18, 120  
カマツカ 85  
カミムラヤスデゴケ 8, 14, 54, 55, **58**,  
116  
カヤ 72, 121, 123, 122  
カラクサシダ 50

カワガラス 77  
カワゴケ 14, 116  
カワセミ 77  
カワヂシャ 13, 115  
カワツルモ 12, 114  
カワニナ 91  
カワネズミ 16, 73, 118  
カワムツB 85  
カワヨシノボリ 85  
カワラスズ 105  
カワラバッタ 17, 105, 119  
カワラハハコ 8, 13, 24, **35**, 116  
カワラハンミョウ 17, 119  
カワリダネビロウドマイマイ 18, 120  
カンコノキ 12, 115

#### [キ]

キエビネ グラビア3, 10, 12, 93, **95**, 114  
キキョウ 13, 25, **49**, 116  
キクガシラコウモリ 73, 89  
キシツツジ 14, 25, 115  
キシノウエトタテグモ 18, 120  
キセルゴケ 14, 54, 55, 58, **60**, 116  
キダチヒラゴケ 54  
キヌガサタケ 15, 117  
キヌフラスコモ 15, 117  
キノクニキヌタゴケ 14, 55, **60**, 61, 116  
キノボリトタテグモ 18, 120  
キバナガミズギワゴミムシ 18, 119  
キバナノアマナ 12, 25, **43**, 114  
キヒダイツポシメジ 15, 117  
ギフチョウ 17, 120  
キマダラカミキリ 18, 120  
キミズ 13, 114  
キヨスミイトゴケ 15, 55, 116  
キヨスミウツボ グラビア4, 8, 13, 24, **34**,  
115  
キンセイラン グラビア1, 8, 12, 23, **28**,  
114  
ギンブナ 85  
キンラン グラビア4, 9, 12, 24, **38**, 114

#### [ク]

クスノキ 123  
クチキウマ 89  
クツワムシ 17, 119  
クマガイソウ グラビア2, 8, 9, 12, 23, 24,  
**36**, 114  
クマタカ 16, 77, 78, **80**, 97, 118



クマノゴケ 14, 116  
クマノチョウジゴケ 8, 14, 54, 55, **58**,  
116  
クモラン 13, 114  
クラガリシダ グラビア5, 8, 14, 20, 50,  
**52**, 116  
クロカナブン 18, 120  
クロガネモチ 121  
クロゴケ 7, 8, 14, 54, 55, **56**, 116  
クロソヨゴ 69  
クロソヨゴーツガ群集 16, 118  
クロソヨゴーツガ群集コウヤマキ亜群集  
グラビア5, 8, 16, 68, **69**, 118  
クロツグミ 77  
クロマツ, 123  
クロモジ 69  
クロモジブナ群集 7, 8, 15, 68, **69**,  
118  
クワカミキリ 18, 120  
ダンバイトンボ 18, 119

#### [ケ]

ケナシベニバナヤマシクヤク 10, 13, 93,  
**94**, 115  
ケヤキ 121, 123  
ゲンカイツツジ 13, 25, **47**, 70, 115  
ゲンゴロウ 17, 119  
ゲンジボタル 18, 120

#### [コ]

コアジサイ 69  
コアジサシ 16, 97, 118  
コアミメミゾゴケ 54  
コイ 85  
コイヌガラシ 13, 115  
コウキヤガラ 12, 114  
コウタケ 15, 117  
コウボウフデ 15, 117  
コウヤトゲハイゴケ 8, 14, 55, **57**, 117  
コウヤマキ グラビア5, 9, 13, 23, 24, 57,  
69, 70, 114, 123  
コオイムシ グラビア6, 10, 17, 105, **107**,  
119  
コガタノゲンゴロウ 17, 119  
ゴギ 85  
コキクガシラコウモリ 16, 73, **74**, 118  
ゴクラクハゼ 17, 85, 103, **104**, 119  
コシアブラ 69  
コジイ 123

ゴジュウカラ 77  
コテングコウモリ 16, 73, 118  
コナラ 123  
コハクウンボク グラビア3, 8, 13, 24, **32**,  
115  
コバノミツバツツジ 70  
コハンミョウ 17, 105, 119  
コマルケシゲンゴロウ グラビア6, 9, 10,  
17, 105, **106**, 107, 119  
コミネカエデ 8, 14, 24, 115  
コミミズク 16, 97, 118  
コルリクワガタ 17, 119

#### [サ]

サカキ 70  
サギソウ 12, 114  
サシバ 10, 16, 97, **98**, 118  
サジラン 50  
サツキマス 17, 85, **87**, 103, 119  
サルメンエビネ グラビア2, 8, 12, 23, **29**,  
114  
サワガニ 91  
サワクサリゴケ 14, 116  
サワダメメゲンゴロウ グラビア6, 8, 17,  
89, **90**, 119  
サンインマイマイ 91  
サンコウチョウ 16, 77, 97, 118  
サンショウモ 14, 116  
サンベサワアザミ グラビア4, 8, 13, 24,  
**35**, 116

#### [シ]

シイ 123  
シイモチ 13, 115  
シイモチーシリブカガシ群集 15, 117  
シキミ 70  
シキミーモミ群集 9, 16, 68, **70**, 117  
シダレザクラ 121  
シナスッポン 99  
シノブ 14, 50, 70, 116  
シノブーアカマツ群集 16, 68, **70**, 117  
シマゲンゴロウ 17, 119  
シマドジョウ 85  
シマヘビ 82  
ジャコウソウ グラビア3, 8, 13, 24, **33**,  
115  
シャジクモ 15, 117  
ジュウイチ 77  
ジュウシチホシハナムグリ 18, 120

シュレーゲルアオガエル 83  
シラウオ 17, 85, 119  
シラカシ 123  
シルビアシジミ 17, 120  
シロウオ 103  
シロコオイゴケ 54  
シロスジカミキリ 18, 120  
シロバイ 13, 115  
シロバナイナモリソウ グラビア4, 8, 13,  
24, **34**, 115  
ジンバイソウ 10, 12, 93, **94**, 114

[ス]

スギ 20, 21, 52, 71, 72, 123  
スギラン 7, 8, 14, 50, **52**, 116  
スジシマドジョウ 17, 85, 119  
スズムシバナ 13, 115  
スッポン 10, 16, 99, **101**, 118  
スナガニ 18, 120  
ズナガニゴイ 85  
スナヤツメ 17, 85, **88**, 119  
スノキ 70  
スミウキゴリ 17, 85, 103, 119

[セ]

セイタカスギゴケ 54  
セダカコブヤハズカミキリ 18, 120  
セッコク 12, 25, **45**, 70, 114  
セトウチウンゼンツツジ 14, 25, 115

[ソ]

ソヨゴ 70  
ソライロタケ 15, 117  
ソリシダレゴケ 14, 54, 55, **59**, 116

[タ]

ダイシャクシギ 16, 97, 118  
ダイゼン 16, 97, 118  
ダイセンミツバツツジ 69, 70  
タイリクイタチ 75  
タカチホヘビ 16, 82, 118  
タカネマンネングサ 8, 13, 24, 115  
タカハヤ 85  
タガメ 17, 119  
タゴガエル 83  
タコノアシ 12, 115  
タシロラン 12, 114  
タテジマカミキリ 17, 120  
タブノキ 123  
タマノリイグチ 15, 117

ダルマガエル 102  
タワヤモリ 16, 82, 118  
タンナサワフタギ 69

[チ]

チヂレコヨロイゴケ 15, 117  
チヂレトコブシゴケ 9, 15, 62, **64**, 117  
チャボスズゴケ 54  
チュウゴクザサ 20  
チュウサギ 16, 97, 118

[ツ]

ツガ 27, 69, 70  
ツキノワグマ 16, 73, **76**, 118  
ツキヨタケ 15, 117  
ツクシイワヘゴ 14, 116  
ツクシヒラツボゴケ 14, 117  
ツクバネガシ 70, 123  
ツクバネガシーシラカシ群集 15, 117  
ツゲ 13, 25, **46**, 115  
ツチグリカタワタケ 15, 117  
ツチトリモチ 12, 114  
ツバナゴケ 54  
ツメレンゲ 13, 115  
ツルマオ 13, 114  
ツルマンリョウ(ツルアカミノキ) 12, 115  
ツルヨシ 87

[テ]

テツカエデ 8, 13, 24, **32**, 115  
テナガエビ 18, 120  
テングコウモリ 16, 73, **74**, 118  
デンジソウ 14, 116

[ト]

トウゴクサバノオ グラビア2, 8, 12, 23,  
24, **30**, 115  
トカゲ 10, 16, 99, **100**, 118  
トガリツキミタケ 15, 117  
トキノウ 12, 114  
トゲトコブシゴケ 15, 117  
トゲヨロイゴケ 15, 117  
トチノキ グラビア5, 72, 122  
トノサマガエル 9, 17, 83, 102, 118  
トノサマバッタ 18, 119  
トベラ 13, 115  
ドングリキンカクキン 15, 117  
ドンコ 17, 85, **88**, 119

[ナ]

ナガサキシダ 14, 116  
ナガミノツルキケマン 13, 25, **48**, 115  
ナツアサドリ 13, 25, **47**, 115  
ナツエビネ 12, 25, **44**, 114  
ナナイロヌメリタケ 15, 117  
ナナメノキ 123  
ナナメノキーアラカシ群集 15, 117  
ナベブタムシ グラビア6, 8, 17, 89, **90**,  
105, 119  
ナヨテンマ 12, 114  
ナワゴケ 14, 116

[ニ]

ニホンアカガエル 16, 83, 118  
ニホンイタチ 16, 73, **76**, 118  
ニホントビナナフシ 89  
ニホンヒキガエル 16, 83, 118  
ニホンモモンガ 16, 73, **75**, 118

[ヌ]

ヌカボタデ 13, 114  
ヌマガエル 17, 83, 119  
ヌマガヤ 13, 25, 114

[ネ]

ネアカヨシヤンマ 17, 119  
ネジキ 70

[ノ]

ノスリ 77  
ノハナショウブ グラビア4, 9, 12, 23, 24,  
**38**, 114

[ハ]

ハイタカ 16, 77, 78, **80**, 97, 118  
ハクセンシオマネキ 18, 120  
ハコネサンショウウオ 102  
ハコネシダ 14, 116  
ハダカササキリモドキ 89  
ハチクマ 16, 97, 118  
ハッチョウトンボ 18, 119  
ハナショウブ 38  
ハナナズナ 12, 25, **39**, 115  
ハネナシセスジキマワリ 17, 120  
ハマゴウ 14, 115  
ハマサジ 13, 115  
ハマサジ群集 15, 117  
ハマシギ 16, 97, 118  
ハマスズ 105

ハマハナヤスリ 14, 116  
ハヤブサ 16, 97, 118  
ハリオアマツバメ 77  
ハンジロギセル 18, 91, **92**, 120

[ヒ]

ヒゲコガネ 18, 119  
ヒゲナガカミキリ 17, 120  
ヒサカキ 70  
ヒダサンショウウオ 102  
ヒナノシヤクジョウ 12, 114  
ヒナラン 12, 25, **41**, 114  
ヒノキ 69, 70, 123  
ヒメウグイスイグチ 15, 117  
ヒメノヤガラ グラビア1, 8, 12, 23, **27**,  
114  
ヒメハルゼミ 17, 119  
ヒメフタバラン グラビア1, 7, 8, 12, 23,  
**27**, 114  
ヒメフラスコモ 15, 117  
ヒョウタンゴミムシ 17, 119  
ヒロオビミドリシジミ 18, 120  
ヒロシマエバヤマザクラ 122  
ヒロハシノブイトゴケ グラビア5, 8, 14,  
54, 55, **56**, 116  
ヒロハマツナ 13, 114

[フ]

フクド(ハマヨモギ) 14, 116  
フクド群集 15, 117  
フクロウ 9, 16, 77, **79**, 97, 118  
フジシダ 8, 14, 50, **53**, 116  
フジバカマ 12, 25, **42**, 116  
ブチサンショウウオ, 83  
ブッポウソウ 16, 97, 118  
ブナ 9, 13, 24, 69, 114  
フロウソウ 14, 116

[ヘ]

ヘイケイヌワラビ 14, 116  
ヘイケボタル 18, 120  
ベニドウダン 70  
ベニバナヤマシヤクヤク 93  
ヘラガタカブトゴケ 9, 15, 62, **64**, 117  
ヘリグロツユムシ 89

[ホ]

ホウライスギゴケ 14, 116  
ホシミノヌメリガサ(仮称) 15, 117  
ホソクロマメゲンゴロウ 18, 119

ホソコハナムグリ 18, 120  
ホソバシヨリマ 14, 116  
ホソバナコバイモ 12, 25, **40**, 114  
ホソヒメギセル 18, 120  
ホソベリミズゴケ 8, 14, 55, **57**, 116  
ホツツジ 70  
ホトトギス 77  
ホンゴウソウ 12, 114  
ホンシャクナゲ グラビア3, 8, 9, 12, 24,  
**37**, 115

[マ]

マアザミーヌマガヤ群集 16, 118  
マイマイカブリ 17, 119  
マシジミ 91  
マツムシソウ グラビア1, 8, 7, 12, 23,  
**26**, 115  
マツラン グラビア2, 8, 12, 24, **29**, 114  
マネキグサ グラビア4, 8, 13, 23, 24, **33**,  
115  
マムシグサ 40  
マメヅタラン 12, 25, **45**, 70, 114  
マルタンヤンマ 18, 119  
マルチビゲンゴロウ グラビア6, 9, 10, 17,  
105, **106**, 107, 119  
マルバシヤリンバイ 13, 115  
マルミノヤマゴボウ 8, 13, 23, 24, **31**,  
114  
マンサク 48

[ミ]

ミクリ 13, 114  
ミサゴ 16, 97, 118  
ミシシッピーアカミミガメ 99  
ミジンコヤバネゴケ 54  
ミズスギモドキ 54  
ミズトンボ 12, 114  
ミズナラ 69  
ミズニラ 14, 116  
ミズマツバ 13, 115  
ミズワラビ 14, 116  
ミゾゴイ 16, 97, 118  
ミゾコウジュ 13, 115  
ミソサザイ 77  
ミヤマイクビゴケ 54  
ミヤマカミキリ 18, 120  
ミヤマシキミ 70

[ム]

ムカシヤンマ 18, 119

ムカデ 75  
ムギツク 85  
ムギラン グラビア2, 8, 9, 12, 24, **36**,  
114  
ムクノキ 123  
ムクノキーエノキ群集 15, 117  
ムクロジ 71, 122, 123  
ムササビ 16, 73, 118  
ムヨウラン グラビア3, 8, 12, 24, **31**,  
114  
ムラサキミミカキグサ 13, 115

[メ]

メダカ 17, 85, 119

[モ]

モクズガニ 91  
モズ 77  
モッコク 121, 123  
モミ 20, 21, 27, 59, 70, 72, 122  
モリヤギセル 18, 120  
モンキマメゲンゴロウ 90

[ヤ]

ヤイロチョウ 16, 77, 97, 118  
ヤブツバキ 70, 123  
ヤブニッケイ 70  
ヤマアカガエル 83  
ヤマシャクヤク 12, 25, **42**, 94, 115  
ヤマセミ 77  
ヤマツツジ 70  
ヤマドリ 16, 77, 78, 80, **81**, 97, 118  
ヤマトシジミ 91  
ヤマトシロオビトラカミキリ 17, 120  
ヤマトタマムシ 18, 120  
ヤマネ 16, 73, **75**, 118  
ヤマヒョウタンボク 9, 13, 24, **39**, 115  
ヤリタナゴ 17, 85, 103, 119

[ユ]

ユウレイホウオウゴケ 14, 116  
ユキヤナギ 13, 25, **46**, 115  
ユキワリイチゲ 13, 115  
ユビナガコウモリ 16, 73, 118

[ヨ]

ヨウラクラン グラビア1, 8, 12, 23, **28**,  
114  
ヨコエビ 91  
ヨシ 107

ヨタカ 16, 97, 118  
ヨツスジトラカミキリ 18, 120

[レ]

レプラゴケ 61

[ワ]

ワカサギ 17, 85, 103, 119

(和名のない種)

[B]

*Brachytarsina kanoi* 89



登録番号	広H7-2006-152
名 称	広島市の生物 補遺版
発 行 者	広島市環境局環境保全課
主 管 課	〒730-8586
所 在 地	広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 T e l . ( 0 8 2 ) 5 0 4 - 2 0 9 7
発行年月	平成18年(2006年)10月
委 託 先	財団法人広島県環境保健協会

第3刷